

川柳塔

令和五年 五月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年 通卷一一五二号



日川協加盟

❀ 第11回 春の川柳塔まつり誌上大会 ❀

No.1152

五月号

暑中見舞広告募集

本誌七月号に掲載する暑中見舞広告を募集いたします。同人・誌友ならびに各句会（川柳会）のアピール及び誌上名刺交換の場として、積極的にご利用をお願い申し上げます。

★個人 一口 1／9頁 二、〇〇〇円
1／6頁 三、〇〇〇円

（巻末の台紙に原稿を貼付または記入してお申込み下さい。）

★団体 次の四種といたします。

- ① 1／3頁 六、〇〇〇円
- ② 1／2頁 九、〇〇〇円
- ③ 2／3頁 一二、〇〇〇円
- ④ 1頁 一八、〇〇〇円

▼原稿締切 5月15日（月）

川柳塔社

第29回 川柳塔まつり

とき 10月7日（土）

ところ ホテル・アウィーナ大阪

詳細は本号111頁をご覧ください。

「川柳雑誌」「川柳塔」通巻一〇〇〇号記念出版

『麻生路郎読本』



麻生路郎
読本

A5版

514頁

頒価 三〇〇〇円

（郵送料共）

ご希望の方は左記の事務所までお申し込みください。

〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号

花野ビル201号

電話 06-6779-3490

川柳塔社

振替 〇〇九八〇一四二九八四七九番

川柳公園

小島 蘭 幸

岡山県には、ふたつの川柳公園があります。ひとつは久米南町弓削の川柳の小径・公園です。もうひとつは笠岡市の古城山笠山岡川柳公園です。笠岡では、本年5月27日に句碑除幕式と井笠川柳会第21回笠岡大会が開催されます。大会開催は、令和元年の第20回記念大会以来です。4年間はコロナ感染拡大を考慮して誌上大会を開催されておられました。この間、21名の皆様が句碑を獲得されています。

イマジンを遺す愛する人達へ
居てくれるただだけで良い案山子 藤井 智史
潮騒はララバイ鬼を眠らせる 永井 松柏

川柳塔社同人3名も句碑を獲得されていますので私も午前10時30分からの句碑除幕式に参列したかったのですが、矢沢和女、新家完司、西出楓楽氏と私は、当日投句の選者を務めますので参列出来ません。後日、ひとりでゆっくり見て回りたいと思います。因

みに事前投句は、北川拓治、鴨田昭紀、恒弘衛山氏の共選です。3選者の選んだ天位句の内から二次審査により句碑獲得句が決まります。

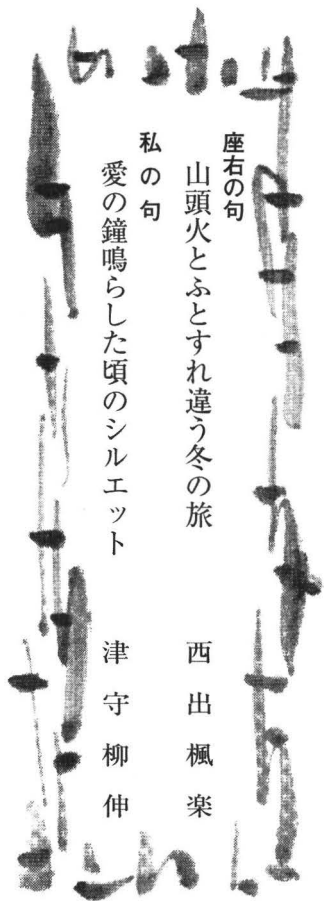
ゴルフなど知らぬトップの作業服 西出 楓楽
大好きな人と芒が原にいる 小島 蘭幸

平成14年9月28日、古城山笠岡川柳公園開園式と句碑除幕式に、私は西出楓楽氏と共に出席しました。あの時の感激は、22年経った今でもはつきりと覚えています。

うき草は浮きくさなりに花が咲き 中島生々庵
旅まくら雨にしあれば雨の詩 西尾 栞
うるこ雲一枚こぼれ母の窓 橘高 薫風

弓削の川柳の小径・公園には、歴代の川柳塔社主幹の句碑をはじめ多くの川柳塔社同人の句碑が建立されています。私も古希の記念に句碑を建立しました。現在300を越す句碑が建立されていますが、自費で誰でも建立することが出来ます。

岡山県のふたつの川柳公園、多くの人に見ていたきたいものです。そして川柳作家がひとりでも増えることを心から願っています。



座右の句

山頭火とふとすれ違う冬の旅

西出楓 楽

私の句

愛の鐘鳴らした頃のシルエット

津守柳 伸

川柳塔 五月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「飛驒古川の春」

■巻頭言 川柳公園

五楽庵調

川柳塔（同人吟）

菠薐草の花 ⑤

俳風柳多留一三篇研究 33

自選集

句集の森

温故知新

水煙抄

英語 de Senryu ③⑦

■追悼文 倉益一瑤さんを偲ぶ

橘高薫風句集『肉眼』

愛染帖

檸檬抄「拔く」

小島 蘭 幸 …… (1)

福 士 慕 情 …… (2)

小島 蘭 幸 選 …… (4)

野 沢 省 悟 …… (35)

倉 益 一 瑤 …… (38)

倉 益 一 瑤 …… (41)

本 本 朱 夏 選 …… (42)

吉 村 侑 久 代 …… (59)

山 下 凱 柳 …… (60)

新 家 完 司 選 …… (62)

江 島 谷 勝 弘・永 見 心 咲 共 選 …… (66)

五楽庵調

福 士 慕 情

大手門歯科医院の院長先生が、波多野五楽庵と知ったのは、ライオン誌の柳壇に選者として載った時からで、所属するライオンズクラブで「皆さんからも是非投句していただきたい」とその後2、3回川柳の講話をされました。川柳に何の見識も無い私が何度か投句を試みたのですが入選することはありませんでした。

川柳に誘われ、何処に行くにも金魚のウンコみたいに付いて歩いたものです。

父のように時には兄のように可愛がって下さいました。

五楽庵師の作る川柳は五楽庵調と言われ悲しみ、優しさ、ユーモア、ロマンチストで人間味があふれ、誰が見ても五楽庵師の句であると解るのです。

それはどこからくるのかと思ひ巡らすと、生まれて間もなく亡くなられた、お嬢さんに思い当たります。

一路集「ぎやぎや」……………高杉 力選……………(70)
「振る」……………関本かつ子選……………(71)

初歩教室「箱」……………水野 黒兎……………(72)

川柳塔鑑賞……………山崎 武彦……………(74)

水煙抄鑑賞……………前田 楓花……………(76)

せんりゅう飛行船⁽¹⁴⁾……………新家 完司……………(77)

インスピレーション⁽¹⁴⁾ 印象吟……………大西 泰世……………(78)

第11回 春の川柳塔まつり誌上大会……………(80)

同人特集 私の好きな笑いの句……………(103)

「著名人川柳一言録」より……………東野 大八……………(105)

四月本社句会……………(106)

各地柳壇（佳句地十選／中村金祥・田中ゆみ子）……………(112)

柳界展望……………(125)

五月各地句会案内……………(126)

■編集後記（ひとこと／平賀国和）……………道夫・眞澄・憲彦……………(128)

座右の句

俺に似よ俺に似るなと子を思ひ

麻生 路郎

私の句

反面教師ならば立派な父である

三浦 強一

花寝棺父の涙も入れてやり

風うけぬ吾子よりんごに似て白し

たった五日見ない子供のを抱く

子の頬を記憶している指の先

ありがたや地蔵ばさつと遊ぶ夢

川柳を始めた時期、母に死なれた私はこれらの句に涙が止まりませんでした。

そして、この時から二十年、五楽庵師は川柳から遠ざかることになるのです。

『日本現代川柳叢書 波多野五楽庵集』

に、「私が川柳を書けなくなったのはその日からでした。うちひしがれてしまい、もう川柳はつくるまい。そんな私に川柳を続ける、たのむから、と涙ながらに云った病床の友がいました。友の名は、後藤柳悦。彼は私に川柳の種を植えつけ、再び川柳を書く約束をさせて旅立ちました。うちひしがれた時にくれた彼の句があります。

聡子観音となり父母の背をみつめ

柳悦

この二つの出来事が五楽庵調となる最も大きな要因になったのだと思います。



小島 蘭 幸 選

黒石市 北山 まみどり
なごり雪 人は優雅に言うけれど

裏庭に忘れ去られた雪だまり

雪解けを急かす雨なら許せそう

雨音がだんだん強くなって春

まだ飛べるそんな気分の水たまり

あれほどの雪は記憶の片すみに

大阪市 平井 美智子

抽斗の奥に渡れぬままの橋

お土産に夕日包んでくれた母

雨に濡れ歩きたい日もあるのです

触れられた肩から春になってゆく

幸せなことだけ思い出している

大手まんぢゅう命日の師と半分こ

倉吉市 牧野 芳光

雪女が残して行った梅の花

猫五匹障子の角を丸くする

生きている証川柳まだ止めぬ

感動は活字になればすぐ消える
まな板の音 私を刻む音
百二十年生きねば成就できぬ生

大阪市 田中 ゆみ子

悩んでた時間 貴重な一頁

子育ても自分育ても塩加減

本当の好きは言語化できません

親友の毒舌救いかもしれぬ

体温が伝わる猫を抱いている

不味いとは言えず苦手ですという

今治市 永井 松柏

果樹園の剪定の音リズムカル

紅梅と馬酔木の花が妍競う

シンビジウムが負けじとばかり咲き誇る

終着駅は桜吹雪の向こう側

爛漫の春へと弾むオノマトペ

思ひ出の町に私の句碑が建つ

松江市 石橋芳山

いくつまでを男と言えるのか俺は

無理をしています継ぎ接ぎした言葉

黒ずんだ溜息みんな忘れたさ

その楕円ビーナスまたはラフランス

貪欲なまでもシェイクスピアを読む

煮え切らぬままに何かを追っている

堺市 楽原道夫

寝転んで空を見てると胸に猫

旅人が星空をいま通過中

恋人よ夜空が波打っているよ

君と語るのは何年ぶりかスミレ草

両手空しく至福の花を見ていたり

恋猫の声して春の夜となり

大阪市 谷口義

これから勝負だ頑張ろう傘寿

正義感はまだあるので顔洗う

一人前の顔をしているおばあさん

恥ずかしいところが増えて恥ずかしさが消える

かりんとぼりぼり生き方は変えられず

桜満開生きてるだけで幸せだ

奈良市 大久保眞澄

形状記憶腹巻はエンタシス

飼い主への義理で吠えるのやめなさい

9条はあたりまえだと思つてた

老いの怖さ老いに気付かぬ罪深さ

宇宙語で国民煙に巻く総理

前のめり続きで転けそうな政府

枚方市 栃尾奏子

昇進の私に求められるもの

あなたなら出来ると母は言いました

目の当たりにしてきた男女不平等

私の後ろにきつと土井たか子

くじけた夜にらいてうの夢を見た

職場でも家でも太陽で居よう

鳥取県 斉尾くにこ

冬晴れ間日傘もらつた雪だるま

雪とけて春は地球を軽くする

ホウルルほら鷺も春じたく

おんぷのぷいちにいさんでさんぼのぼ

田舎から田舎巡りの旅に出る

春一番アベノマスクが目覚ます

横浜市 川島良子

亡夫の血孫も継いでる山岳部

蛇口から漏れた辻褃の合わぬ話

見てる様で見てない見てない様で見てる

脳トレに常識クイズ50問

太鼓判押してアナタを送りだす

囁つてるアイツそのうち囁われる

松山市 宮尾 みのり

いい眺めもう望めない高架橋
鍵かけて留守電にして老い独り

ペット好き家の臭いに気が付かず
デパートの広さ戸惑う久し振り

懸命に生きております仏様
仏飯を供えることも守備範囲

大阪市 高杉 力

逆光をまとい平気で嘘をつく
仮面から眉間の皺が透けて見え

許す気でいるのに言い訳が長い
悪役のままで遠くで吠えている

塗りむらをわざと残して味を出す
傾いたままでも抱いてくれますか

奈良県 安土 理恵

大丈夫という目をして夫グータッチ
引き際はニッコリそしてありがとう

ほめられてこっそり泣いてしまったよ
血気まだ残る夫を支えねば

赤いブラウス私にだってある血気
マチスの赤わたくしの血と同じ赤

越谷市 久保田 千代

貫いた男の估券つらそうな
懸命に生きる証の車椅子

心して逢うさよならの前に

プライドが淋しいなんて言わせない
今ひとつ忘れ上手になれなくて
知る人のない街も良し風薫る

堺市 今井 万紗子

届きましたかバレンタインのチョコですが
はたと気付く人生無駄はないんだと
誰も皆老いの孤独はわかるまい

鏡拭く春が近づく気配する

老いてなおわたしの化身咲きたがる
明日もまた目が覚めるとは限らない

奈良県 長谷川 崇明

賃上げのニュースも憂うこの格差
探してる言葉と出会う古本屋

始発駅趣味に終着駅はない
理詰めより遊びで学ぶ処世術

Jアラート出ても隠れる場所がない
WBC嬉しい便り待つ日本

池田市 太田 省三

酎ハイへ大根汁を足す夫

痛みなど自覚ないけどがん手術
店ごとに色を決めてるエコバッグ

五類でも余ったマスク使い切る
出欠の返事が来ないクラス会

病院のコンビニにない酒たばこ

札幌市 小澤 淳

横浜市 菊地 政勝

人間は天変地異に神だのみ
友逝くも俺だけはまだ明日が来る

人身俳諧芭蕉という巨星

断捨離を許してくれぬ写真帖

北海道開花早いのも不安

黒石市 石澤 はる子

春風の業務命令歩きなさい

デジタル化の波に溺れるカタツムリ

歩み寄るチャンス逃さぬ笑い皺

昨日まで苦手な人と囲む鍋

世間話そこそこにして猫自慢

弘前市 稲見 則彦

血圧計今日の機嫌を訊いてくる

どこをどう潜り抜けたか現在地

曲がり角酸いも甘いも見え隠れ

転車台日がな一日飽きもせず

妻と毒恋と変だとだとしても

塩竈市 木田 比呂朗

伸び伸びと空気の旨い五連休

セルフレジ近いコンビニ遠くする

断捨離に文句言い訳する書棚

免許返納は終活だと気づき

ああマスクまだ買い置きが三箱ある

症状を言うと薬を増やされる

出なかった思いが風呂でふと浮かぶ

十円の不足を嘆く販売機

三食を昨日も今日もチンで済み

個性ある孫にすっかり味がある

上尾市 中村 伸子

お水取り春はそこまで来た気配

優しさに度々出会う車椅子

絶対音感ないのに音が気にかかる

雨音をただ聞いていた日の記憶

印象吟他の人との差を実感

朝霞市 前田 洋子

二十一年猫と居た日は走馬灯

ただいまを喜ぶ猫はもう居ない

独りとはこういう事か猫逝って

彼の世とはいいとこ皆住んでいる

人間に戻れないのかプーチンよ

東京都 川本 真理子

飾っても仕舞ってもまた楽し難

老眼鏡外して少年のニュース

仮面劇 泣いたことなど思い出す

免疫力上げるビタミン表を見る

一人来てあえて声出す墓参り

八王子市 川 名 洋 子

大山市 関 本 かつ子

雑踏で歩きスマホに身構える
断捨離と終活に背を押されてる
豪雪のニュースの合間梅便り
娘が育ち出番なくなるお雛様
フアッションは一足早く春の舞い

可児市 板 山 まみ子

頑丈な体いつまでもつのやら
親の年にはまだまだの八十四
大谷のすごさ実物見てみたい
プロでさえ舌を巻いてる二刀流
卒業に初めてマスク付けぬ顔

名古屋市長 山 本 三樹夫

カラオケの十八番が冴える自画自賛
般若心経カラオケ盤に寺の知恵
喧嘩して指輪を抜いた妻の賭け
乗り鉄が記念切符は使わない
訳あって年代物のワイン抜く

大山市 金 子 美千代

辞書にない言葉スマホの得意顔
私への投資せつせとジム通い
地震には国境なんてないんです
今日も幸せだったとつぶやいて眠る
春だものちよつと箍を緩めちゃお

断捨離を決めて最後の雛飾り
おひな様遠い昔を餉送り
誉められたい顔をしている通知表
制服を着ると高一らしい顔
南海トラフ覚悟がいると言うテレビ

愛知県 早 川 遡 行

荷を一つ減らして軽くなった背な
正体をなかなか見せぬマイマस्क
久し振りに歩いてきた土の上
大人しくしているボクは休火山
そこらへんにある幸せで足りている

京都市 清 水 英 旺

戦争を止めない巨魁の目に狂気
主義主張越えてきれいな花が咲く
春近しぼちぼち腰を上げようか
ナマズ曰ク不可能だろネ地震予知
元祖八等身寂しき死亡記事

京都市 藤 井 文 代

身体の不調天気予報をしてくれる
使い方次第難聴武器になる
できること減り「ありがとう」だけ今日も言う
断捨離も先延ばししてたら八十路
未消化のまま日々だけが過ぎていく

長岡京市 山田 葉子

春の足音からだも軽くしてくれる

余命聞き孫が結婚すると言う

してほしい言えて良くなる風通し

現状維持出来た今日なら二重丸

桜満開テレビの旅は晴れている

大阪市 東 敏郎

匙加減出来ないうちは平議員

投票日十八歳の孫と行く

補聴器は選挙終われば取り外す

自粛して非常食まで食べメタボ

夜業して母縫う服は兄譲り

大阪市 石田 孝純

欠伸してつまみ食いして待った春

ネガティブをポイポジティブにスプリング

散らしたでしよ椿に春風の指紋

蒲公英を貴婦人にするぬるい雨

雲もメダカも春は徒然なるままに

大阪市 磯 島 福貴子

駆け足の春到来に大あわて

お水取り迎える前に春本番

父母の墓前不孝を詫びる春彼岸

無人販売新鮮野菜ワンコイン

ワクワクドキドキ侍ジャパン釘付けに

大阪市 井丸 昌紀

スマホ見つめて男は今日も乗り過す

忘れていたことにしておくあれやこれ

差出人不明透かして振ってみて

強いとはグーチョキパーに問うてみる

野菜の値知らぬ男の政

大阪市 岩崎 公誠

食べもので人の生き方変化する

老齢は転ばないよう医師注意

身長が5センチ減って不便する

いい女いい婆さんに進化中

横綱のいない相撲は締りない

大阪市 岩崎 玲子

老いた今スーブのさめぬ距離がいい

新聞の記事が血圧上げにくる

絵本読むたび丸く丸くとなるころ

今日の幸自分ペースで動けたの

ベルマークどんな小さいものも切る

大阪市 内田 志津子

新一年デカ靴履いて眉あげて

また明日それきり友は逝ったまま

兎のクイちゃんとっても食いしんぼう

目指すものあつてひとりのストレッチ

静寂に父母想い写経する

大阪市 宇 都 満知子

吊り橋が心にあつて揺れている
人の海泳ぎが下手な魚座です
亡父亡母に想いを馳せる誕生日
言い過ぎました反芻が止まらない
少年野球春のまぶしさに似ている

大阪市 江島谷 勝 弘

ときどきは天になれます五七五
百回は歌った「星影のワルツ」
喜寿からは歳を数えることやめた
こつこつと命尽きるまで遊ぶ
原発の惨禍忘れてなるものか

大阪市 榎 本 舞 夢

長年の御褒美なのか天の天
春兆し早咲き桜気も晴れる
老人会急に誘われイチゴ狩り
会話して食べて笑ってバスツアー
本社句会元氣もらつて帰途に着く

大阪市 大 川 桃 花

性善説怪しくなってきた日本
平和呆けと言われた昭和遠くなり
模様替えするたび捨てる家具ふえる
十二年すぎても復興未だ半ば
お返しの期待出来ないホワイトデー

大阪市 大 沢 のり子

夫の酒すこうし弱くなつて春
ロバのパン追いかけた日の夕あかね
明日のため大地踏みます老い二人
青空の下でわたしを丸洗い
三角を通すゆずれぬものがある

大阪市 奥 村 五 月

ケアの女暗いお空に光る星
鏡見て自分と分かる時は何時
オモチャかな武器を積み込むドロンでも
爪は伸び貯金の残は減るばかり
給料は値上げほどには上がらない

大阪市 小 野 雅 美

春ですね心のベール脱いでみる
君の顔浮かんで便箋を選ぶ
医療ドラマもう泣かないと決めたのに
よく嘔んで食欲減らすことにする
春だもの老眼鏡もピンク色

大阪市 折 田 あきこ

善悪を必死で見てるかすんだ目
わたくしを未来へ誘う菩薩道
憂いなき幼き日々にかかのほろ
豊かすぎる暮らしの中にある不安
携帯がチカチカ光り福きたる

大阪市 川 端 一 步

広辞苑身近な友にして愉快

川柳でこころ豊かになりました

仲間と出合い泣きたい場所が出来ました

お酒との出合い最高だと思ふ

妻との出合いわが人生が花となる

大阪市 古今堂 蕉 子

バリアフリー嫁と娘に負けてます

八十は感謝忘れず笑顔忘れず

一聞いて飛び出す癖がなおらない

曲がつた事嫌いと確かお聞きした

ルーツは猿 世界は一つ皆兄妹

大阪市 近 藤 正

沖縄をまた捨て石にする基地化

来年はダイヤ婚かと笑う鬼

自衛隊ボンコツ武器を高値買い

丁寧な説明いつも待ちぼうけ

口コミはツイッターより恐ろしい

大阪市 坂 裕 之

特別な事はいらぬ平和な日

褒められて怒る人など居ないでしょ

今日はみな笑って話出来ました

出来るのか挑戦だけはやってみる

知らん事いっぱいあって面白い

大阪市 高 杉 千 歩

おつまみが好きでついてく縄のれん

エスカレーター走った昔懐かし

大当たり掴み損ねた中にあり

スマホでは梅の香りが写せない

ストラップ変えてお洒落なおばあちゃん

大阪市 田 中 廣 子

お水取り春のおとずれ感じます

老梅をテレビから見えて句うよう

青天で昼に見えます丸い月

ウクライナ戦争終結祈ります

さみしいなパンダは中国へ里帰り

大阪市 津 村 志 華 子

つづら折り怯まず堪えた自負がある

品格はどうあれ わたし河内弁

麦畑れんげ畑は夢の中

それぞれに忘れられない里がある

小川さらさら帰つといでよホー蚩

大阪市 寺 井 弘 子

口角上げ明日を見据える笑顔見せ

卒業に新たな出合い入社式

血糖値上げご馳走目には毒

天高くツバメ飛び交う姫路城

追いついて歩幅の狭さ知らされる

大阪市 寺 本 実

マスク取り跳ねてでかけるうさぎ歳

老妻はすべて察しているのです

付度は必要なしの無職です

何食べた二日前までまだ言える

別れると優しい顔で告げられる

大阪市 中 井 萌

スマホ族皆な下を向いたまま

春温し今年も律儀花粉症

飴ひとつ思わせ振りにくれた人

慣れてきた貧乏神の居る暮らし

人生の夕焼けもまた美しい

大阪市 原 田 すみ子

せめて息遣いメールより電話

支えにも手かせにもなり老う二人

体操するように毎日の掃除

元氣だとあれこれ欲を膨らます

設定温度低く消す時は寝る時

大阪市 平 賀 国 和

兄が逝き八十の壁身に沁みる

友人入院梗塞と驚かす

膝痛むこれが老化というものか

後期高齢ポイント替えて生きていく

花愛でるこれも平和であればこそ

大阪市 降 幡 弘 美

よそ見して見逃しちゃった逆転打

節約をしてもしんどい物価高

ぬかりないジムの上には整骨院

送信の手前で全部データ消え

寝返りを同時にしてるパパ息子

大阪市 宮 崎 シマ子

どの手紙にも春だ春だと書いてある

春が来てもカゴの鳥では飛び出せぬ

雪払いのけ道の草花強いこと

バナナ一本私のなのに許可がいる

流し難太平洋で救われる

大阪市 山 本 加お里

安くても宇宙旅行はお断り

逝った人みな優しくてなつかしい

子と電話お疲れさまの合言葉

少子化で外で遊ぶ子見かけない

学ぶことやめたら惚ける日々多忙

大阪市 横 山 里 子

若葉寒先人の句の奥ゆかし

長らえて運も不運もアクセント

CTにすべてまかせた命の灯

知る人ぞ知る隠し桜の散歩道

カメラアの一輪落ちて特老の

大阪府 米澤 俣子

菜の花の黄から始まる春の風
開花予報に焦つてゐるだろう蕾
来年も会う約束で仕舞う雛
錠剤を転がし神にまかせろいのち
WBCの春ピッチをあげてくる

堺市 柿花 和夫

焼芋をスイーツと呼ぶ令和の子
自尊心の崩れる音で目が覚める
計算に入れてなかつた助け船
リーダーに命預ける渡り鳥
付度はやめてピエロで生き延びる

堺市 源田 八千代

花見会平和な日本なればこそ
人見知りが馴れてバイバイ投げキッス
理系女が志望校へと弾む春
定年へ最後の赴任嫁も行く
しっかりと現状維持で後四年

堺市 齋藤 さくら

その内の春が来たのに変わり無い
衣替えするには丁度晴れている
うれしくも無い年金を当てにする
春うらら身の上ばなし聞いている
平和論平和な人が唱えてる

堺市 坂上 淳司

豊かそうな村だが居ない鯉鱈
公園に子どもが居ない寒い国
怠慢な政治が少子化の基
双子用幅広バギー誇らしげ
9条の意義改めて知る五月

堺市 澤井 敏治

さあ八十路気合いを入れるよつこらしよ
米を研ぐ水の軽さに春を知る
楊貴妃がウインクくれた通り抜け
前途洋々大高中へすすむ孫
友の顔まぶしく光るノーマスク

堺市 内藤 憲彦

少年の顔して父を語り出す
スイッチオン朝は必ず御味御付け
人の為自分のためのボランテニア
ちよつとヤル気出したら妻に叱られた
レンジでチン老舗取り寄せハンバーグ

貝塚市 石田 ひろ子

春を呼ぶ雨に肩の力抜く
笑い合う家族を糧にして生きる
ささやかなプライド老いの薄化粧
コロナ禍も包むローカル線の春
嫌な事すぐ忘れるという武器を持つ

河内長野市 大島 ともこ

大切な物見失うなと天の喝

負けへんで全うしたいこの命

お一人様寝るも起きるもエイ儘よ

いくつかの持病も緩くお付き合ひ

ひとんちの幸せちよつと真似てみる

河内長野市 木見谷 孝代

亡夫のへそくり案外わかり安かった

趣味仲間競い合いつつ響き合う

独り居ののほほんとして朝寝坊

盆梅展投句の短歌没になる

病むプーチン正気の沙汰じゃない戦

河内長野市 中島 一彌

記念日もチョコも素通り老い二人

ばあさんと対策を練る詐欺電話

気に入った部屋着は夫のお古です

爆弾やゲリラのぶっそうな天気

今日を生きたための雪かき雪下ろし

河内長野市 藤塚 克三

空襲から運を拾って八十年

あちこちにヨイショしながら八十路坂

高いので玉子ごはんは食べません

友達は減ったが医者は増えている

前向きが余生楽しむサブリかも

河内長野市 村上 直樹

シモヤケもアカも知らない平和の子

のほほんと平和むさぼる小判鮫

つきあいは物音だけの両隣

古民家にいのち吹き込むシェアハウス

老いたど綺麗と妻にためらわず

河内長野市 森田 旅人

お天道様昇る始業ベルが鳴る

鶯を真似たら口笛が鳴った

口笛を吹けば鶯よってくる

嘴の細ささえずり透きとおる

うららかに河津桜と散らし寿司

岸和田市 岩佐 ダン吉

当たり前のことそんなには無いでしょう

情報の波から僕は距離をおく

古書店の隅で彬の声を聞く

核ボタン握る男の無表情

本番に助走の疲れどつと出る

岸和田市 雪本 珠子

必要とされているから頑張れる

雑学で自分の世界広げてる

文字までが浮き浮きしてる旅便り

支えてるつもりが支えられていた

穏やかに寄り添いながら老い二人

吹田市 太田 昭

残酷なニュースが軽くなる怖さ
遊ぶ子も無しブランコの独り言
憎愛を詰めたカバンに鍵を掛け
B型だから小声で話すことは無い
吊り橋に老いの度胸を試される

高槻市 片山 かずお

一人でできることを数えている傘寿
年々厳しい口調になった妻の指示
肺疾患酸素の管が友となる
酸素の管に繋がれ悔いているタバコ
病小康ちよっと町内一巡り

高槻市 島田 千鶴子

移りゆく人の心も花の香も
フットワークの軽さ便利に使われる
義理人情消してしまった家族葬
たんぼが気分転換空に舞う
気が付けば打ち明けている聞き上手

高槻市 初代 正彦

手洗いうがいに日日のよいリズム
平凡なくらしなによりではないか
いい目覚め朝ごはんまでうまいもの
ばかばかに浮かれ寄り道曲がり道
日足のび心ちよつぱり緩みます

高槻市 富田 保子

すべきこと終えてこの世に幕を引く
やつれたと言わずスリムと労わられ
いい人生だったと自慢の主人なり
朝刊の批判にやる気出す気配
朗らかな傘寿の胸に灯が消えた

高槻市 松岡 篤

妻入院家事がこんなに多忙とは
孫五歳もうかけっこは手に負えぬ
旧友の元氣わかった投句欄
春霞あべのハルカスさえ隠し
馴染まねばならぬスマホに馴染めない

豊中市 池田 純子

わいわいと雛壇飾り春が来た
お味見でコミュニケーション婆と孫
好奇心種火はいつも付けておく
ベランダの花が笑っている平和
梅香る父の背中を思い出す

豊中市 上出 修

効能書自信なさそう細かな字
読めなくていいのですよと約款書
まあええか金は無いけど生きている
不思議やなあ僕が買った株下がる
ステイホーム財布が少し膨らんだ

豊中市 きとう こみつ

豊中市 水野 黒 兎

喋りすぎて口の疲れた日は早寝

アイフォンを手元において床につく

ターニングブルの荷物近くにくればひよいと取る

冷たい水で洗いキリりとさせる顔

インターネットで元の夫の今を知る

豊中市 藤井 則彦

夢に見た作る句よりも生まれる句

空を仰ぎぼんやり過すのも達者

家籠りで独り笑いも板に付き

猫なんかには負けはするまい好奇心

いい加減に暮らして長く生きる幸

豊中市 松尾 美智代

手酌で二人肴は鯉堀炬燵

昨日がっかり今日は希望の旅支度

心まで温めてくれる癒しの湯

梅はまだ蒼うぐいす鳴いている

明日また会えます様に目を閉じる

豊中市 松田 蟻日路

早期予約得ですやろか閻魔様

臆面も無くくつき合っている二人

CO2ヒトが生産する時代

洗車する切ない胸に降る黄砂

緑の中を走り抜けてく装甲車

うららかや猫と聞いているシユトラウス

ああ八十路滑舌悪く耳遠く

低いのに高いと記憶里の山

戎橋日中韓が撮るグリコ

ロボットが首切り策の口火切る

富田林市 中村 恵

サクラサク雲を払って春にする

泣きながらスマホ見る娘が気にかかる

化粧した言葉は耳をすり抜ける

欲しいのは金で買えないものばかり

明日には今日の自分を越えるはず

富田林市 山野 寿之

馥郁の梅の香当てにワンカップ

仏壇の父母には花を欠かさない

ゴビ砂漠春を運んでくる黄砂

手の本がボタンと落ちるサンルーム

さり気なく空気を添う老いと老い

寝屋川市 川本 信子

一日がかりイカナゴ炊いて娘に送る

背伸びせず卒寿素の儘有りの儘

長らえて五臓六腑に感謝する

桜咲く何かいいことありそう

WBCサムライ達に声喰らす

寝屋川市 伊達郁夫

守備範囲こんな狭さに気付く歳
その時を知っていたのか落ち椿
例えばの話に自分混ぜておく
あの人が逝って地球が軽くなる
どん尻で誰も私を追い越さぬ

寝屋川市 富山ルイ子

陽春にマスク時外して
娘婿自治会の役やとと済み
神経痛逝くまで持つて行くらしい
東日本の震災まだおわらぬ
日本の野球は強い強いナア

寝屋川市 平松かすみ

うれしいな一行増えた友の文
兄上様と便り出したい一周忌
プーチンに催眠術をかけたいが
けつたいなアポ電かもと怖くなり
庭先で独居見守る赤いバラ

寝屋川市 廣田和織

川柳の底なし沼で立ち泳ぎ
退屈でタマの昼寝の邪魔をする
不良個所増えても替えの無いからだ
見た目にも老いてやさしくされている
つないで欲しくって空けてある右手

羽曳野市 磯本洋一

昨日今日感謝で笑顔明日を待つ
傘寿来てのんびりのたりゆつくりと
思いやり身体に沁みて人集う
米寿来る頑固さ神が持ち去って
シンプルが長寿の薬主治医から

羽曳野市 宇都宮ちづる

風船が膨らむようねラディツシユよ
春一番孫を巻き込み味噌作り
朝稽古力士の汗と声と音
めざましが無用になった暮しぶり
メ切りにポストが遠い二日前

羽曳野市 徳山みつこ

紅梅満開君逝きし日のように
快気祝ってわたくしを建て直す
長男に従っておく八十路坂
旬の野菜をたんと満点の味噌汁
原発ゼロを被災者に誓います

羽曳野市 藤原大子

脱マスク売り場賑わう化粧品
ペンを持ち心の中を問うている
難しい事より元気だけ祈る
父と子のキャッチボールにみる未来
融通のきかぬ辞書よりついスマホ

羽曳野市 三好専平

東大阪市 谷 英也

マンガ家の語る世界に真実味
ウロウロと探すよりはまあ一服す
アートが守る命の美しさと誇り
ひげづらの仲代達也好きになり
ノーサイドからはじまるボクの夢ひとつ

羽曳野市 吉村久仁雄

会ってやあ別れはじゃあの軽い仲
沈黙の長さで愛の深さ知る
口約束メールほどには守られず
味噌しょう油の貸し借り路地のお付き合
個性強く育った子らは親孝行

東大阪市 佐々木満作

義理人情廃れ昭和が遠くなる
死後のことあれやこれやと杞憂する
劳いのひと言で妻いい笑顔
リハビリのこぶし開けば湧く勇氣
甘い汁吸い過ぎ光らない螢

東大阪市 西村哲夫

父さんの威厳が失せた力こぶ
日の当たる場所を疑うこどもの目
誕生日数えて待った日は遠く
妄想の女神と恋をして平和
泣き笑い僕は寛美の新喜劇

うさぎ年ジャンプしたいが八十路すぎ
コロナ禍でも巣籠り止めて空の旅
卯年ですジャンプ目標白寿越え
妄想で脳を耕し活性化
連休は猫も杓子も空の旅

枚方市 藤田武人

煙から炎になった男女仲
雨の日はオーケストラになる我が家
悠然と構えスキなど見せぬ奴
ふりだしにもどる上がりのひとつ前
胃薬を飲んでなかった事にする

藤井寺市 太田扶美代

あつさりとヒイバアちゃんになりました
菜の花畑で寄り道してる無邪気
白髪という楽しみへあと少し
跡形もない実家の鍵を持っている
すぐ下を向く嫌な癖が直らない

藤井寺市 鴨谷瑠美子

阿保やなあ自分に言うて探し物
好きなもの数えて五番目にあなた
真っ直ぐに飛べぬわたしも蝶々も
遠いとこ見てる妻は詩人の瞳
森は少子化 小人七人揃わない

藤井寺市 鈴木 いさお

八十を生きても知らんことだらけ
百めざす早寝早起き腹八分
少し無理してます背伸びしています
ぬけぬけと惚ける憎めないヤツだ
バスを待つ間に一句また一句

藤井寺市 吉田 喜代子

梅開くコロナに負けじ道明寺
梅薫る親しき人は黄泉の国
床暖房驚いている請求書
久し振り友と喋れた良く寝れた
出汁用に頂いたジャコ御八つにし

箕面市 大浦 初音

無くし物今日一日をさかのぼる
願いごと健康のみとなる老後
お年賀にくるのはいつも犬二匹
夫婦げんか犬がこそこそ逃げてゆく
世の中を分けるコロナの前と後

箕面市 酒井 紀華

大往生父から学ぶ弥陀の顔
毎日を気合を入れて外に出る
引っこもり大きな声で音読す
認知症だまっていれば分からない
鍵盤は人生語る駅ピアノ

箕面市 出口 セツ子

二人だけで祝う夫の誕生日
あと何度祝えるだろう誕生日
惚けぬよう自分でできる事せねば
長男にすぐに頼って叱られる
優しいが次男はいつもマイペース

箕面市 中山 春代

スカーフをさらって行った春の風
誘惑に負ける草もち さくら餅
ポケットのティッシュの悲劇 洗濯機
童謡の歌詞はすらすらのに嗚呼
パソコンの家庭教師があつたらな

箕面市 広島 巴子

瀬戸の海キラキラ心解き放す
いかなごのピチピチ嬉しお裾分け
我が無力今更ながら情けない
日々新たな日の出を拝みパワー受け
お抹茶に苺大福ホワイトデー

八尾市 寺川 はじむ

再生紙と記す名刺の自慢顔
転ぶたび遅しくなる一輪車
横道にそれた話に痺れてる
肩書よりも自信の笑顔載る名刺
ずけずけと言うて受けてる乙な人

八尾市 村上 ミツ子

神戸市 近藤 勝正

たっちゃんのパッパミルをまねている
家とのりのスーパ―が店じまい
毎日のくらしにでかい穴があく
なるようにしかならぬとわかつてはいても
ピリオドをうつタイミングつかめない

神戸市 上田 和宏

母の恩妻に返しているような
仁王門ボクには妻が居る安堵
寒い眠い猫の気持ちがよく分かる
春風に脇の甘さを責められる
春の子は手に手にスマホ鬼ごっこ

神戸市 奥澤 洋次郎

忘れ物しない自信はまるでない
入管が偏見持っている正義
罰金稼ぎしているような取締り
キヤバクラへ行きたがつてる九十歳
娘との二人暮らしの模様替え

神戸市 興水 弘

ああクセ字あいつこいつも米寿超え
ありのままに生き悔みそこそこまあいいか
それぞれの生き方茶化し長続き
老木に一輪咲かす今日一句
かけ声やさし力みを見せぬ介護の手

許されて花見楽しむノーマスク
つかい棒取れた老後を楽に生き
いかなご煮る妻の頭に孫の顔
味くらべくぎ煮交換お隣と
ご近所がくぎ煮持ち寄り合評会

神戸市 斎藤 隆浩

美談より失敗談が為になる
二万貫でも要りませんマイナンバー
胸キュンも今は動悸か不整脈
渡せずにおやつになったチョコレート
原発も還暦超えて再雇用

神戸市 敏森 廣光

目に注射怖かったけど耐えました
まだ若い機嫌が顔に出してしまう
悩むことないよ言うてる春の雲
無敵やな平気であほになれる奴
夢に出る亡母は若くてよく叱る

神戸市 富永 恭子

春はそこわたしはどこにいるだろうか
衣食住足りているのになぜ涙
転んだ日遥か彼方で点になる
パリパリコリコリと母のお漬物
やり直したいことがあり京都まで

神戸市 松倉正美

ホワイトデー返礼品が高く付く
四年振りマスク外して花見酒
物価高小振りになった桜餅
侍を集めたジャパン勝ち進む
人生劇悲喜交々の年度末

神戸市 山口美穂

寿命って分からないからいいんでしょ
消費期限見なかったふりチンをして
亡父の齢越え亡母を目指して今日終る
マスク解禁三歳以上老けました
お地藏さまわたしの頼りは日本杖

神戸市 山崎武彦

キラキラは無いが愚直な父だった
春ですね君の笑顔が眩しくて
胸に棲む鬼をなだめる酒二合
終章を飾る言葉は決めている
悩みごとたとと有るから惚けられぬ

明石市 梶谷和郎

鈴緒振る会って告げたい人がいる
素足から春が沁み込む心地良さ
この世の天子降りてきたのか子の寝顔
人を差す指をこちらに向けないで
ちっぽけな人生ですがスリリング

芦屋市 荒牧孝子

笑いたいどのツボ押せばいいのかな
春うららガマンの虫も飛んでった
シャンソンを歌った後は赤ワイン
カラ元氣ネジを巻き巻き行く余生
家中をがむしゃら掃除憂さ晴れる

芦屋市 竹山千賀子

友情という器の中で生きている
ハードな日耐える覚悟の顔洗う
カモメ飛ぶ浜が私の安息所
散り際を乱さぬ椿ぽんと落ち
浜風に抱かれひととき舟をこぐ

芦屋市 新阜義明

こうなれば箸を持参で寿司店へ
領空を超えた気球の困り事
プレバトでヒント川柳学ぶ我
箸袋なくてもいいよつま楊枝
親爺の背引継ぐ息子マラソンへ

尼崎市 近兼敦子

もりもりと食べて娘に褒められる
病名がわかる日までが長かった
入院もすぐに友達できている
厳格な父が残した日記帳
本当にやさしい嘘がお上手で

尼崎市 永田紀恵

尼崎市 森 菊江

薄情そう私は嫌い砂時計

死んだふりするゴキブリの芸達者

みかんむく女の衣服剥ぐように

風呂敷を広げ昔の武勇伝

独り居をうらやましいと思う時

尼崎市 羽奈和子

ハイヒールで支えるの無理この体

生まれかわってなりたいたいほどに猫が好き

恐そうな名でもやさしいラドンの湯

リビングでオブジェとなった足踏み器

落ち込んだ時は宇宙の果て思う

尼崎市 藤井宏造

石段を登った先に神がいる

生き上手ごめんなさいとありがとう

百均でもいいかげんには選ばない

不揃いの椅子に坐っている二人

ワインにはワイングラスでないとダメ

尼崎市 藤田雪菜

東向きのリビング朝が気持ち良い

遊ぶ子待つ公園のスベリ台

つまみ食い正直過ぎる血糖値

美容院幸せそうな顔で出る

頼りない足で私の道を行く

二人乗せ急ぐママチャリ朝日浴び

孫逗留旨い旨いはいいけれど

末娘嫁いで家の火が消えた

弁当ひとつ持つ若者にレジ譲る

一番の働きものの手よ皺よ

尼崎市 山田厚江

シエルターを補助金もらい作らねば

真央ちゃんのスケートを見て眠くなる

手術痕名誉の傷と見せている

戦艦大和生き残り兵語り出す

ショートケーキ九百円に驚いた

尼崎市 山田耕治

リング買えば昭和を御負けいたします

氷雨降る夜もお風呂が呼んでいる

キーボードほくもやりたい子猫の目

ケアハウスの姉の話が止まらない

お疲れ様写真の妻が笑ってる

加西市 山端なつみ

素っぴんもマスクで無敵この一年

マスクルール緩和で困るしみと皺

「サクラサク」メール一本早く来い

値上げラッシュゴはん食べてと米農家

買い溜めも賞味期限に泣かされる

川西市 山口 不動

春の文書きたくなりてマウス繰る

今の世は税申告にスマホ要る

孫達の進路が決まる頼もしさ

事故見ても免許返納知らぬふり

ドローンは武器のイメージ可哀相

三田市 足立 つな子

友とあう送ったあとに気づくこと

気のきいた生意気盛り目立つところ

大臣の急転直下辞任劇

器量よししおりになって生き続け

ふんばってサアこれからの正念場

三田市 稲角 優子

久方に夢をさがしに春帽子

スマホから君の吐息をきいている

しがらみを絶って自由を干している

はいあがるその手は泥のままでよい

この手足時に他人の顔をする

三田市 大西 重男

黄昏に恋しき人の影を追う

腰痛いけれど歩いて腹こなし

カタカナの料理レシピは悩ましい

ソファに身体沈めておいビール

見慣れた顔マスクはずすと誰だっけ

三田市 尾崎 一子

桃の節句幸多かれと絵筆もつ

雛の顔孫によく似てまんまるい

親子水いらず今一番の幸

もうしばらくひとりの暮らし母の城

淡淡と生きて我が身の置きどころ

三田市 九村 義徳

人の輪の中に見つけた思いやり

沈黙は母さんらしい思いやり

思いやり何にも勝るいい薬

思いやり両手いっぱい被災地へ

思いやりし過ぎ重荷を背負わせた

三田市 住吉 美和子

うぐいすの初鳴き聴いた幸せ日

婆10人童女に返ったひな祭り

日溜りで婆が三人和んでる

吊るし雛平和な地球にしておくれ

絵手紙の腕があがった友元気

三田市 多田 雅尚

リフォームを余命も入れて組む予算

しゃっくりが止まらず続く変な音

痩せるため朝食抜いて逆効果

飲み終わる筈の薬が五個余り

軽石でカカト削っていた時代

三田市 中山 昭美

高砂市 松尾 柳右子

山頂で私待ってた雪ダルマ
部下一人できて上司になりました
三日程悩んだあとはケセラセラ
名月よ地球の今を何とみる
この世よりあの世が近い誕生日

三田市 野口 真桜子

マドンナに戻る一夜限りのクラス会
ちよい悪のオヤジとギャルの親子酒
ガラクタと骨董品は紙一重
カリスマの義父から学ぶ孤高感
プロポーズいまか今かで早や五年

三田市 堀 正和

久し振りマスク外せば花粉症
八十路だが青春切符ひとり旅
プーチンにコロナさておき花見酒
三つ揃いなかなか出番やって来ず
カレンダー赤丸つけるお出掛け日

三田市 村田 博

マイナバー背中重くて草臥れる
列島を防波堤にと米の罨
フレンチに箸も出されて恙無い
味噌汁の冷めない距離にある遠慮
マスク取り落語いかたと寄せ太鼓

爪切りの音も久しい春うらら
ヘルパーは三寒四温行き届く
目薬の一滴ずつに苦闘する
間違わず薬飲むのもひと苦勞
梅林で詩人気取りのワンカップ

宝塚市 丸山 孔一

先延ばししたら忘れるすぐにやる
春近し日射しに色が付いて来た
現代子「キセル乗車」が解らない
「野良」という犬猫強し自活する
やさしさの要求線が高過ぎる

丹波篠山市 北澤 稠民

いい夢を確か見たはず寒い朝
着ぶくれてまわりの世界狭くする
趣味紡ぎ人間模様織りあげる
こんな事までも知らずに生きて来た
転んだら起きるいつでも自然体

丹波篠山市 酒井 健二

本会議場見た目何だかコンパクト
浅草寺築地は多国籍地帯
迎賓館今に造ればなんば程
一期一会のツアーで自分を晒す客
偽装馬車見て案内が興奮し

丹波篠山市 藤井美智子

それぞれの立場で見ている世の動き
またでなくすぐ実行へ八十路坂
抜け道を見つけないまま来た八十路
わが暮らし得意と苦手コンビ組む
今日無事に生きて明日へ幸繋ぐ

西宮市 緒方美津子

太いだけでは勝てません大相撲
春うらら老いも若きも一歩出る
亡弟かもこちら向いてる落椿
スマホ9読書は1の電車内
一ひねり妻もマジシャン奇数月

西宮市 亀岡哲子

ポストまで歩幅合わせてくれた人
遊ぼうと老犬そつと寄ってくる
アルバムではなんとおしどり夫婦だな
弱点の二つ三つはあり元気
出来ることは自分でしますありがたいとう

西宮市 福島弘子

友からの今年も届く路のとう
踏みその効果か花粉症はまだ
コロナの下火今のうち会っておく
サークルの末席声をかけられる
優しさも漢字も増えた孫の文

西宮市 福田正彦

初恋は未だに失せぬ時効ない
人生は直球捨てて変化球
平凡な暮しが今は合っている
民飢えるミサイル好きの国がある
納得の鉄拳今は宝物

南あわじ市 萩原狸月

喜寿の手を借りて散歩の八十の膝
この貧を努力足りぬと人の言う
望郷は昭和の茶の間井戸の水
マンションの引越しそばもなく隣
種からの労に蓄は明日開く

奈良市 東定生

ガス代にほとんど消えるパート代
高速道無料の前にガタがくる
ワクチンを廃棄する国罰当たり
ミサイルを眺めるだけの防衛費
鼻の穴儲け話を嗅ぎつける

奈良市 加藤江里子

おしめした猫が赤子に戻る日々
四肢弱る猫に声かけ語りかけ
街角ピアノ亡母に届けとピアノ弾く
ひと言が五臓六腑に落ちてくる
詰め過ぎた箱がいびつになつてゆく

奈良市 高橋 敬子

春の光に誘われしばし草むしり
桜前線裳裾ゆらして北目指す
少子化にまづ清めねばこの地球
マスクの自由下駄国民に預けられ
校庭に屈託の無い声戻る

奈良市 辻内 げんえい

もう一周りハビリ歩き階を変え
大浴場の妻を見送り部屋シャワー
根気要る仕事得意と草むしり
しげしげと見つめ合うのもマスク越し
おじいさん昔六十今八十

奈良市 山本 昌代

お日さまをしょって温温畦歩き
歩道橋またぎ夕日が落ちてゆく
明日へと雑多に積んだままの古紙
当て物にはまり駄菓子屋通いする
飴玉をほおばり孫と手をつなぐ

奈良市 米田 恭昌

樹木葬樹々の肥やしとなる輪廻
嬉しいね嫁から貰った猛虎チョコ(パレンタイン3句)
義理チョコで倍返し待つホワイトデー
パレンタイン孫が手製のこしあんおはぎ
毒舌家の初めて見せたおちよは口

生駒市 飛永 ふりこ

咲いて散る人生なんとあつけない
春風を纏いしゃきつと前向きに
どこからか素頓狂な春響く
やわらかな春を奏でる路蔵
庭先で稽古積んでるホーホケキヨ

香芝市 大内 朝子

春陽へ生命力の爆発だ
うらうらと春の魔法は心地いい
雛祭恋した頃をふと思う
年忘れ子を抱くママに席譲る
三年振り友と心のぬくいハグ

香芝市 山下 じゅん子

泣いて笑って五感で学ぶ赤ん坊
土器のかけらいにしえ人の息遣い
ふるりの学び舎友の声がする
眠り続ける友よも一度目を覚ませ
珍しい花の名前も知るスマホ

奈良県 安福 和夫

いらつきと頓馬は祖父のDNA
昭和への懐古の逃げ場塞がない
新世代見守るだけで邪魔しない
八十歳若手と思いき生きている
究極の趣味川柳を墓場まで

奈良県 谷 川 憲

事故のニュース免許返納急かされる

老い二人我慢がときに噴火する

核廃絶なんと険しい道なのか

出世する手相と言われ八十路来る

二月堂籠たいまつが春を呼ぶ

奈良県 中 原 比呂志

樹木医のお蔭今年も良い香り

安住の場所でなかった菰焼かれ

メーデー歌世界をつなげ花の輪に

五月晴れ子ども鯉が少な過ぎ

五月鯉きれいな酸素ほしい風

奈良県 中 堀 優

気の弱さ隠せとばかり鬼の面

世の中は楽ばかりとはいかないぞ

これから二人で行こう老いの坂

陰の道やがて光の道へ行く

時として流されてやる度量もつ

奈良県 渡 辺 富 子

あの雲に父この雲に母の笑み

思い出が行ったり来たりする夜更け

派手な服着ていくところ見当たらず

紅白の梅が空き家を華やかに

今晚もいのちの話して眠る

和歌山市 上 田 紀 子

テレパシー信じて今日の運掴む

神様も鬼も棲まわす人間味

コロナ明けやりたい事の指を折る

つまづいた原因何も見当たらず

出来る事まだまだあると言う至福

和歌山市 柏 原 夕 胡

桜見る亡姉へと想い馳せながら

ご帰宅を待つて昭和の女です

お話をしましょうテレビ消しましょう

コロナ禍のコロナお前も孤独かい

しあわせと思う心が幸せだ

岩出市 藤 原 ほのか

卒業を見守り女のやく終わる

ちらほらと噂にのぼり整理する

ふる里はいつもあたたかくむかえます

行く人も来る人もなく日がくれる

爪を切る行くあてもなく日がくれる

橋本市 石 田 隆 彦

定年の背中が語る履歴秘話

丸い背は生き抜いてきた証かも

また愚痴る妻の背中にあかんべい

につこりと笑う遺影と語る夜

大勢の仲間磨かれた私

岩国市 上村夢香

鳥取市 岸本宏章

区切りなし十二年という震災に
フクシマの今を忘れていませんか

遺言書に記すものなど何もなし

WBC地球の平和後押しを

連夜の勝利またまた酔いは深まって

防府市 坂本加代

野の花はひっそり咲いていつか散り

継続十年つばみが見えてきた

コンビニのプラスチックは辞退する

負傷して代理が育ついいチャンス

飲み忘れ言い訳しては飲む薬

鳥取市 池澤大鯨

鯛の刺身癖のある味好きで買う

昼飯は準備されれば食べている

風邪ひいても食欲だけはありますよ

風当りきついが我慢我慢である

ハイカラを装っているが軽すぎる

鳥取市 奥田由美

隠しても鼻が感知の浮気臭

定年後に古里で出直し再雇用

松潤を入れても彼氏まだ片手

ゼロなんて娘には言えない恋の数

予定表に新規加入の白髪染め

ウクライナ遥か彼方のことでない

八十年磨いた石が光らない

団体で行くところではない秘湯

真面目には聞かぬサブリのコマーシャル

ミサイルの墓場じゃないぞ日本海

鳥取市 岸本孝子

散歩して鍛えた足が弱音はく

戦争でうんざりなのに地震まで

三寒四温春は道草好きらしい

縁側の安楽椅子で舟を漕ぎ

思い出をたどれば母のわらべ歌

鳥取市 田賀八千代

子育ての仕直しですと子守唄

野菜にドレス纏い変身Aグルメ

ゴキブリとバトル勝負は五分と五分

同窓会はてなマークの顔並び

物忘れ酷いが胃腸元気です

鳥取市 棚田大

難題もコロナ禍と言いい何もせず

真打ちを目指すはよいが疲れ果て

脳トレにこだわり過ぎてやつれはて

脳もまた俺に活入れ引き締める

素早い子その姿見て元気出る

鳥取市 谷 口 回春子

花ならば蕾のままでいて欲しい
揉め事も仲良くなれる第一歩
悪もまた善の顔してやってくる
苦しみの向こうに見えるパラダイス
長生きの特効薬は妻の愛

鳥取市 永 原 昌 鼓

ひとり言実はいい案かもしれぬ
報われる努力は何だ針の穴
客用のふとんに当て息子待つ
懷にこたえる卵の値上がり
下戸ですの酒の値上げは苦にならぬ

鳥取市 中 村 金 祥

早春の大空夢が満ちている
被災地で命繋いだ支援の輪
人間の心の奥にある地獄
抜け道を作り大胆不敵なり
ほどほどに暮らせる今が幸せだ

鳥取市 福 西 茶 子

眉二本キリツと描けば様になる
玉石もあつた指輪も愛情も
松葉蟹一度も食はず漁期終る
昔なら万年床というベッド
六十年君に繋がれ羽根が無い

鳥取市 前 田 楓 花
毎日が「何かあるぞ」の積み重ね

味のある人だ故郷の匂いする
点と点結び家族になつてゆく
免許更新歯は見せないで写真撮る
小出ししたヘソクリさえもピンチです

鳥取市 山 下 凱 柳

断りも遠慮もせずに来る黄砂
嘘と本当器用に使い分け生きる
つかい棒となつて生きてる老い二人
人生の未だに見えぬ着地点
卵価高騰優等生の名を返す

鳥取市 吉 田 弘 子

はんやりとコーヒータム無に浸る
腰曲がる感謝のポーズです私
握力も低下したネと柱時計
知らぬ間に過ぎてたボクの花盛り
きつとペア付かず離れず泳ぐ鴨

倉吉市 大 羽 雄 大

眠れない人を支える深夜便
確実に歳重ねてる上り坂
欠席と電話掛けたら荷が降りた
雛飾り右か左かふと迷う
明日へと延ばせば付けが時間でくる

境港市 藤原久直

食べる事だけは忘れぬ二人です

メタボ気味ズボンのベルトゴムに替え

休肝日決めております週二日

聞く耳を持つて仲間と話し合う

生きがいは川柳手品囲碁将棋

米子市 池田美穂

ぐにやぐにやに歪んだ文字で闘病記

マスク無い顔スースーと頼りない

猫一匹通れる程に雪を掻く

正論を言う時は神経つかう

正直なからだ昨日のバイキング

米子市 伊塚美枝子

マスク無しそれは無理でしょ慣れたから

朝ドラを見てもときめき無い歳に

回覧板隣の坂に息を吹く

星と会話出来る近さの今日の空

春近く陽気が誘う畑仕事

米子市 後藤宏之

不思議だなあ何故か増えない貯金箱

お月さん出るのうつかり忘れてる

置き場所を決めていたのにまた見えぬ

散歩後のビールリバウンドは覚悟

とことんの一歩手前で長続き

米子市 後藤美恵子

マイカーを黄砂と花粉ラップする

アスリート燃やしつくして讀え合う

針に糸一度で通り茶が旨い

親子ではほどの距離とり難い

すり鉢を押さえ覚えた母の味

米子市 妹能令位子

白寿までエンディングノート先のばし

春一番吹いて農具が弾み出す

ひらひらと左脳さまよう五七五

夜桜の下であの世を覗いている

約束を果しましたと桜散る

米子市 竹村紀の治

合掌のかたち感謝とお別れと

ブルトップ引くエネルギーだけはある

言い訳も聞かずに許す里の風

無精ヒゲ剃ってもあまり変わらない

一杯の烏賊焼いて煮て昨日今日

米子市 中原章子

ふきのとう食べてうれしい春になる

川柳があつて毎日忙しい

川柳と道連れになりいつまでも

若いうち鍛えたおかげ今がある

錆びてきた五感ゆつくり日向ぼこ

米子市 成田 雨奇

みかん食う猫背になつてみかん食う

ひらひらと早くおいでよ天女から

エンディングノート仲良くしてほしい

春闘は始まる前に終つてゐる

春闘の主役は労組だつたはず

米子市 野川 宣子

ノート取る学ランの君焦がれてた

外は雪終活ノート読み返す

何もかも自己判断は無責任

御近所のお花自慢に掴まつた

絶好調何を食べても身になつて

鳥取県 門村 幸子

しあわせな読書しつかり文字見える

スイスイと何でもできた日の若さ

「ゆっくり」が強い味方と思う古い

惚けてないマスクしたまま水飲まぬ

他の意見聞くためにある両の耳

鳥取県 竹信 照彦

妻が買った靴履き足を鍛えてる

会長の交代急^せれるけど難い

車で行く句会だんだん遠くなる

四句会二つに減らし事故減らし

今冬はタイヤ交換せずに無事

鳥取県 細田 裕花

余り物ちよつとアレレンジしてランチ

派遣社員パンダ祖国へと帰る

ブラボーとガッツポーズのサクラサク

君の歌声十年分のエネルギー

新聞の脳トレこなし今日終る

鳥取県 本庄 ひろし

都合などどうにでも成る明日飲み会

きばり過ぎ七十代の空元氣

この汗を洗つてくれる人がいる

歩いたらその内着くと言われても

怪しげな電話は出ないもう八十

鳥取県 山下 節子

不自然に咲かせた花に四季がない

うっかりとちやっかりが居て場がなごむ

雪解けのぬかるみの道一跨ぎ

古い物捨てて収納らしくなる

武器はみな捨てて平和を取り戻す

松江市 藤井 寿代

立ち止まる機会をくれた狹窄症

春風に乗って届いた挙式の日

赤ちゃんを見るとニヤンニヤン止まらない

週一のライン私の起爆剤

岸田さん値上げラッシュに泣いてます

松江市 松本知恵子

動き出す世に遅れまい舵をとる
五類移行ボツンと母のいる施設
三月の夏日にさくら散り急ぐ
友が病む私の春は寒いまま
拉致を知る弓浜半島松林

出雲市 伊藤玲峰

啓蟄だ婆も活動始めたよ
五七五頭の体操をして呆けまいぞ
老いたとて恋は生きてくエッセンス
川柳のネタに不自由せぬこの世
折角のこの世探検してみよう

岡山市 大石洋子

のりそこねたバスの排ガス吸っている
もしももしもと繰り返す人生だなあ
スランプといたら同情もらえるか
両親の生年月日忘れてる
リセットの季節桜が咲き初める

岡山市 工藤千代子

喜寿間近ただ今充電しています
日溜りになった米寿のお義姉さん
油断する土の匂いの人でした
春なので髪を二センチ切りました
普段着の会話が弾む目玉焼

岡山市 丹下凱夫

友の死のなんと背筋の寒きこと
ベランダに出て世の中を覗き見る
往來の春を探しに出て寒き
目に見えぬもの蠢いている二月
溜息をついたり欠伸をしたり 春

岡山市 前田恵美子

梅の木に早く咲いてと目白来る
家計簿はそろばん弾き付けている
値上りに鯖缶四個買いました
身長が二センチ縮み裾直す
「ばあちゃんが一番低い」孫四人

笠岡市 藤井智史

さあ涙拭いて進もう綱渡り
策尽きてカレーライスを食うて寝る
陽キャだと思ってほしい歌唄う
愛を仕留めようインコースの高め
川柳というリア充の日々過ごす

岡山県 高岡茂子

井原線うす紫の山をぬう
マスクはずして花の香りを楽しんで
押すものと思った車イスに乗る
友寄ればデイサービスで盛り上がる
ブービー賞もらえなかったやはりビリ

岡山県 藤澤照代

切り札を出すゝと傷つくのはわたし

喋るより無言疲れるケンカ後

句読点違う夫婦にある阿吽

溜め息はよそう幸せ逃げるから

蠍座の夫を泣かせた「はだしのゲン」

広島市 岸本清

可愛いな見知らぬ児からこんにちば

外出着今日の気分をそのままに

にこやかに暮らそう一つ屋根の下

倣いたい花の命の散り際を

噛み合わせぬ会話が増えた老い仲間

竹原市 岩本笑子

何度歩いても故里が出て来るよ

コーヒーにお茶 いい朝だなあ

瘦せたかなあ病院通いの一日よ

道の駅いつでも軽いジョーク聞く

そのままでもよろし春はすぐそこに

三原市 笹重耕三

結び目を緩めて今日が暮れていく

酔い醒めの水が信号青にする

湯たんぽを抱く婆ちゃんの電気代

歳だとか後期だとかという弱音

核兵器いつまで待てばゼロになる

阿南市 小畑定弘

旧姓に戻りましたとマドンナが

セルフレジ老人力を試すのか

手のひらで葉ころがす生きる欲

生きてます新芽の庭で大あくび

辻褄を合わすコントを書いている

東かがわ市 川崎ひかり

心願の道ひたすらに歩む孫

千手観音どの手に託す我が願い

我欲消え願う子の幸孫の幸

島民一体アサギマダラを島に呼ぶ

秒針の早さよ生命の減る早さ

松山市 大内せつ子

ちぐはぐとちぐはぐがいてなお平和

目線を下げるすこし優しくなる世界

実印を押して影までいなくなる

とんちんかん同士探ってみても仕方ない

なに踊りでもやってみせましょピエロです

松山市 栗田忠士

神様も眠れぬだらう絵馬の数

バラライカ涙している激戦地

おしゃべりもレシビに入れる平野レミ

またひとつ消えたハイボールの老舗

三年ぶりに顔を合わせる子よ孫よ

松山市 古手川 光

寒波終りや次は花粉に攻められる
ホーホケキヨ心の灰汁を取つてくれ
お花見は此処と決めてた吉野山
言い訳が上手い政治家になれそう
傷付けりやしつぺ返しをする地球

松山市 柳田 かおる

遅咲きへ日々の努力は裏切らぬ
小さい旅人ランドセルから春の風
忘れたりしない青虫だった頃
春の皿つくし菜の花ドレミファソ
ロボットに仕切られている昨日今日

今治市 安野 かか志

春一番ひとの気配をさせて吹く
正論が野党になったまま朽ちる
試歩の杖はやくお帰り雨予報
わいわいの団体様が春遍路

追いつきの春は名みの風呂加減

西予市 黒田 茂代

思考回路二日停止の白い部屋
考える時間ベッドがくれました
忙しないこの世と隔離一ヶ月
冬だつてやさしいそよ風は吹くの
わたくしの溜め息月が見て笑う

西予市 西田 美恵子

花粉症か風邪かコロナか分からない
インスタントのコーヒーで良いこんな夜は
一生の不幸ライバル超美人
看取る老い看取られる老い春深む
三途の川で溺れこの世に戻される

土佐清水市 辻内 次根

藪椿便りの来なくなつた人
脈拍の一途に刻む音を聞く
感動の流す涙はまだ熱い
晩酌に酔つて命の字と遊ぶ
そのうちに晴れると思つている不調

熊本市 杉野 羅天

奥深い緑茶の甘さわかる歳
椿いろいろ春待つ我を彩らせ
雉鳩と四十五度で語り合い
気兼ねなく喜寿の自由を楽しまん
大国の卑怯核などちらつかせ

北九州市 小松 紀子

老いたよなア兄と笑つた昼さがり
年重ね今あるもので生きられる
愛犬は心のマッサージしてくれる
夢がある努力目標守らねば
老いること認めはするがあらがいの

波稜草の花

⑤

野 沢 省 悟

「川柳触光舎」主宰

アルバムの中に見知らぬ人がいる

丹 下 凱 夫

一度、写真の断捨離をしたことがある。どこか気持ちに一線を引かないと、なかなか捨てることができない。やっと3割程捨てたと思う。捨てた写真の中には、この句のように知らない人が写っていたりした。忘れてしまった人や遠い親戚の人かも知れない。不思議だナアと思う。一緒にその場に存在しているという人との縁。何気ない句であるが、人生の深淵をみつめた一句。

気持ちはわかると一応言っておく

大久保 眞 澄

身内であるのが、友達であるのが、他人の愚痴を聞くのは疲れる。愚痴はたいして留まることなくつづいてしまう。そろそろ買物に行かないと晩ご飯もつくれない。そしてついつい言ってしまうセリ

フ「気持ちはわかる」。3度位言った頃、ようやく解放される。外に出たら鴉がカアと鳴いた。

我が居場所地球でいちばんいい所

藤 井 美智子

この句のように思える人は、きつと狭く人生を歩いて来たと思う。上を見ればキリがないのは誰でも知っている。が、やっぱりもう少しもう少しと思うのが人情。しかし自分にとって落ち着く場所は、狭いが我が家、そしてその一隅。陽が当たり草花の見える所。そこに座っていると、地球、いやいや宇宙で一番いい所だと、フトッ思ってしまうのだ。

カピバラはきつとまあるい月が好き

高 杉 力

カピバラに触れたことがあります。けっこう一本一本の毛が太かった記憶が。よくのんびりとお湯に浸かる姿がテレビで放映され、何となく癒されます。それと同じようにこの句にも癒されます。ほんのりとした作者の思いが伝わって来ます。ただ一応調べたら、最後に「肉は美味」とあり、びっくりしました。

若者に是非見て欲しい無言館

坂 上 淳 司

今の世界が背後にある句。無言館とは、「戦没画学生慰霊美術館」のことで、長野県上田市にあり、窪島誠一郎が設立した。僕も行って観た。恋人や肉親の人を描き、戦場へ行き帰って来られなかった画学生。その若者達の絵が、コンクリートの壁にぼつりぼつりと咲いたように灯っていた。作者と全く同感であるが、加えるならば今の政治家達にも是非見て欲しい。

へそくりはもしもの時の手切れ金

東 敏 郎

ある日ある時、見つかってしまったヘソクリ。そして夫はその言い訳として、あろうことか「手切れ金」と喋ってしまった。当然叱られただろうナ。しかしよくよく考えると、この手切れ金は、妻との手切れ金ではなく、この世との手切れ金。妻よ夫の深い愛情を知っていただきたい。

美味い箸夫の料理予算なし

川 名 洋 子

この句も夫の深い愛情の句。そうです、男だつてやろうとすれば料理くらい作るのはです。作りはじめると、けっこう緻密で手間暇をかける。オイシイ。妻よ一週間の食費だなんてたいしたことないのだ。

誹風柳多留二三篇研究 33

小栗 清 吾・細井 龍夫

伊吹 和男・高野 範雄

山田 昭夫

清 博美

262 切ツふくとにげ廻るのは雪とすみ

縮れ髪の女性には味がよいとされているので、どんな具合か試そうと好奇心旺盛な輩が付け文をする。

あたまから惚れられるのハちぢれ髪

四四25

265 名代のていしゆ茶見世に太義そう

清 賛

安五亀2

丸に手下共はやられてしまう。最後に長範自身が「討たれたる者共の、いで孝養に報ぜんとて、道より取って返し、例の長刀引側め、折端戸を小盾にとつて、彼小男を狙いけり」と立ち向かったのは、もう明け七つ（午前四時）時分の事だったろうと。「明け七つ」の語は珍しい（川柳評では主題句のみ）が、謡曲の文章にも見当たらず、格別の意味はなさそうである。

どりやくと熊坂ゆらりく出る

小栗 赤穂義士の句。主君の敵討ちをして見事切腹した大石内蔵助と、見苦しく逃げ回った吉良上野介とを比べると、俚諺にいう「雪と墨」程の違いがある。「雪」に討ち入りの夜の「大雪」を、「すみ」に吉良上野介が隠れた「炭部屋」を効かせたところが技巧。

山田 賛。本当なんですかねえ。清 賛。それはさておき、昔の髪形にちぢれ髪は致命的だったと思う。

264 明ヶ七ツ時分熊坂手をおろし

清 賛。

七二13

263 ちぢれ髪ものにかゝりが文をつけ

小栗 手を下ろすは、みずから事に当たる（日国）。謡曲「熊坂」の句。盗賊熊坂長範一味は、赤坂宿でぐっすり寝込んでいる金売り吉次一行を夜更けに襲うが、同行していた牛若

小栗 物に掛かりは、気が多いこと。物好きであること。また、その人（日国）。

小栗 名代は、代理を務めること。またその人。大儀は、困惑すること。めんどくさいこと。またそのさま（日国）。水茶屋の句。美人の茶汲女が売り物の水茶屋で、茶汲女の代わりに亭主が店番をしている。そんな店に客が寄ろう苦もないから暇でもあるし、鬱陶しそうな顔付きで座っているという図であらう。ただ、「亭主」という語が少し気になる。娘の交代要員として母親が店番をするという句はいくつかあるが、男性は珍しい。佐

藤要人先生は『水茶屋風俗考』で、「亭主持の茶汲女はほとんどない。しかし、高島屋お久の例を引くまでもなく、稀には居たようである」として、そのまま「茶汲女の亭主」としておられる。

佐藤先生のお説だから一応頂戴しておくが、そういう稀な例の句ではなく、ここでの「亭主」は「茶屋の経営主」の意ではなからうか。諸兄のご意見をお伺いしたい。

大和茶をおやち四五日してしまひ 四二
清 店のおやじ説なるほど。可ならん。

266 銭ツ切りぶてとおやぶんいけん也

小栗 「打つ」には諸義があるが、この句が寛政改革の削り句であることからみて、「博奕をうつ」(「江」)の意であろう。親分が子分に対して「そんなふうにくせこせ賭けないで、銭の有りつ丈思い切つて賭けろ」と言っている。こうして筋金入りの博打打ちになるのである。

清 賛。

267 沙汰なしにこしらへなさつたハとハむり

小栗 沙汰なしには、知らせないで。黙っ

て。内密に。拵えるは、①つくる。製作する。調製する。②作り事を言う。口実をもうける。嘘を言う。だます。③だましすかす。すかしなだめる。④支度する。準備する。⑤女郎を呼ぶようにする。女郎に口をかける(「江」)。

不明句。直訳は「私に無断で拵えなさつたは」と言うのは「無理」な言い分だといふような意であろうかと思うが、「拵える」には多くの意味があり場面の特定が出来ない。ご教授下さい。

細井 旦那が下女の腹に仕込んでしまったのをにじられている。しかし、出来ちゃったんだから仕方あるめエ。「……なさつた」は女言葉のように思えるからにじつているのは奥方。

女房ハ眼尻を上て下女をさげ 一〇四八
旦那にされた上へに下女きういとま

大旦那様だとあれが申します 天七九五
安五梅 4

高野 礎賛。「あなたが勝手にやった事でしょう。あなたの尻拭いはお断り」、夫婦の色んな場面で出くわす光景である。現代においても。

山田 何を拵えたかが分からないので、適解は出まい。高野兄解説あたりか。

清 句の作りが悪いので、解のしようがない。保留。

268 めるまゆを辻／＼てうる暑イ事

小栗 夏場に「ひやつこい、ひやつこい」と呼びながら来る水売りの句。「冷やつこい」とはいうものの、炎天下でめるま湯になつてしまっている。

ほりぬきをせりうりに出るあつい事

天元天 2

山田 賛。そんな水でも売れたんでしょうかねえ。

清 賛。

269 長くして壺本かしやれと吸付る

小栗 一本は、①四文銭の百つなぎ。②金百両(「江」)。

これだけの措辞では場面が特定しがたいのだが、「史伝」の「蔵宿」の項に採られているのをひとまず頂戴する。同書では「長くして」に「期限を」と傍注があるので、旗本が金を借りようと蔵宿へ行き、交渉の難航するのを見越して長期戦の構えで煙草を吸い付け、となるか。

清 「長くするもの」が分からない。

自選集

小島蘭幸

目標とするか金婚まで四年
妻も私も淋しがりやになつて来た
定年後の長さ仏の貌になる
どうしても勝てない自然体なんです
ね
弔吟を読むと遺影が微笑んだ

三浦強一

孫デート今青春のど真ん中
物価高チラシ並べて睨めっこ
家飲みで没句供養は懇ろに
「釣バカ」をあてに晩酌至福時
シテになりワキにもなつて人生路

三宅保州

おらが村の古道は世界遺産だべ
遺産分け血の濃い順に口を出し
昨日買ったのに今日から半額に
お互いに不満残っている妥協
嘘少し混ぜた話が盛り上がる

春遅し三寒四温繰り返す

値上げラッシュ財布が呻き声上げる

マスク三年愛着さえもわいてくる

特殊詐欺の手口が紛らわしい電話

買ったまま歩数刻まぬ万歩計

村上玄也

森山盛桜

比重一ですアドリブは言えませんが

ネズミの死骸と喇叭吹きの美談

錫貨の穴から昭和を窺った

除雪機が吐き出している白い嘘

陰湿なうさがががちかち山に居る

椿の棚

まだ視える聴こえる起きて寝る動く

そよ風の優しさ咲き満ちる桜

いざやいざ仕分け残した棚卸し

あらかたは終えた棚板拭くばかり

でもねでも椿の棚が卸せない

八木千代

山本希久子

四季の花グルメを探す京の地図

人生にいろどり花を見る食べ歩く

マスク対面五人目の曾孫とも

モノトーンの部屋で返らぬ時を追う

年齢もさだめも受け容れてから気楽

居谷 真理子

春を酌む小さく薄い盃で
人間の声は届かず猫と居る
引き戻せないものをポストにポトン
ピッコロがはりきる春のコンサート
マチネ跳ね一人乾いた街に出る

川上 大輪

消去法ついでにボクも消しておく
血糖値大好物を敵にする
聞く耳はあるが素通りしてしまう
逆算をすれば手遅ればかりなり
賞状は以下同文と書いてない

北野 哲男

コロナ解禁今空港が騒がしい
苦労性絆のへりに蹴躓く
無住寺で読経が続く三・一一
卒寿過ぎあれやこれやでせわしない
変人の評価欲迎臍曲り

木本 朱夏

待たせたね花芽が背伸びしてわらう
急ぎ足で来たのは春の使者だった
白い花の咲くころきつと逢いましょう
思いきり花を愛でましよ笑いましょう
来年の約束をする花の種

新家 完司

絶好調お腹がグーと鳴る夜明け
朝ごはん想いまどろむいい時間
味噌汁に豆腐と若布つつがなし
晩酌の椅子が我が家の貴賓席
補聴器は不要潮騒が聞こえる

高瀬 霜石

簡単にリセットなんて言っちゃダメ
いらぬお世話だバイオリズムのバカヤロー
刺青とタトゥーは違うんだってよ
レモンよりカボスだカボスよりユズだ
覚えちゃあいない夕べの酒の量

津守 柳伸

膨らんだ蓄川面が騒がしい
鍵忘れ思いがけない日向ぼこ
ツクシンボ佃煮酔合え亡母恋し
見聞も星野リゾート雲の上
予約済み浅い眠りの衣更え

西出 楓楽

雑草を引き連れ春がやってきた
諦めと忘れることに早くなる
このところ自分裏切ることばかり
ホワイテデー息子も孫も知らん振り
機種替えたスマホにいじめられている

仁 部 四 郎

松 本 文 子

寄り道と戦後を評する人がある
寄り道で個性を磨き合うことも
寄り道に誘い合うのも友達だ
寄り道で生活の知恵ひとつふえ
寄り道はしたが遅刻はしなかった

平 田 実 男

お隣へ留守をたのんでフルムーン
杖になり柱になって嫌われる
有難うごめんなさいは潤滑油
火傷した恋あの頃は若かった
涙腺をくすぐりに来る杉花粉

福 士 慕 情

老人が鏡の中で僕を見る
バス停の時刻おおよそ合っている
去年まで跳べた小川が無理という
谷川のイワナにあえぬ老いの足
豪雪も一氣に溶けて春の川

藤 村 亜 成

目に見える恩より見えない恩を視る
私を理解するための分人と個人
ワイルドスワン読み中国少しだけ解る
正義は力だが力を正義化する不気味
SNSに流出怖い隠し撮り

花活けて私一人の宇宙
守るものは守る捨てられる命
花と会い別れて心取り戻す
大声で笑ってからのパッシング
流れ星になって黙って消えようか

.....

川柳塔

(つづき)

唐津市 坂 本 蜂 朗

老いの目に若い女性皆美人
はいはいと折れて静かに妻という
風呂場から音が聞こえて来る安堵
散骨をされたら迷い出てきそう
次の世も今の妻子を所望する

川柳塔柳箋

3冊 送料共 1000円

事務所あてお申し込み下さい。



『川柳雑誌・川柳塔』

90周年記念句集 川柳塔

倉益一瑠

森の句集

さくら咲く人が死のうが生きようが
踊らねばならぬ緞帳下りるまで
てのひらに乗せるあなたの四コマ目
償いに鶴は必ずやって来る
運命線のところどころに岩がある
どんぐりの野心高下駄はいている
弁慶の脛を狙っている小粒
フィンニッシュへこっそり力溜めている
バラ届く微かな毒の匂いさせ
煩惱の鱗なかなか落とせない
拌んでも拌んでもまだ生臭い
償いに背負った母が軽すぎる
人の面外してみたい時がある
大樹の下で大きな欠伸しています
寒風がわたしの貌を彫ってゆく

(平成26年7月1日発行、川柳塔社)

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

遺族席 白髪が目立つヒロシマ忌
敗戦忌 夾竹桃はなぜ紅い
十年一剣 一行詩に生きる
一声がもう通らない鶴の老い
スランプの谷間で読んだ周五郎
最高の居眠り曲はブラームス
新刊書見る赤ん坊を見るように
国籍がずしりと重いパスポート
ソビエトという国ありき砂の塔
紙袋ふらんす小咄詰めておく
働いているのは二割蟻の群れ
泳いでも泳いでも泳いでも 海
人生に跳ばねばならぬ時がある
過去帳に清七とあり我がルーツ
桶囃覧の歌に和す
たのしみは新刊の書を開く時
たのしみは名曲聴いて憩う時



木 本 朱 夏 選

尾道市 小 川 道 子

太陽を味方に冬を丸洗い

名乗るほどの者でないから自由です

現実には生きるも死ぬも楽じゃない

打楽器のリズム心のバラダイス

あつさりと手を振る風と暇乞い

貧しさに寄り添う律儀な影法師

貝塚市 吉 道 あかね

笑わねば免疫力が落ちてゆく

あの時の後悔ばかり手に残る

あの世とこの世離ればなれになりました

涙目で目深にかぶる春帽子

漂白もアイロンがけもするいのち

少し空気入れて私を取り戻す

佐賀県 真 島 久美子

水分の量をカタツムリと競う

雨音を両手に持って部屋を出る

封筒の深さで語り合っている

星ひとつ握って二階から降りる

毛づくろいして前彼を待っている

咲き誇るほどの自信はないが春

尼崎市 八 木 幸 彦

図書館にこころ揺さぶる人がいる

世間から逃避本だけ増えていく

死に場所を探して戻るけもの道

雑念を除いて白い道を行く

一休みできるベンチが無い都会

ICが探す私の好きな場所

船橋市 中 嶋 常 葉

いずれまた書きたいことのある余白

ピラニアを食べているのか辛い恋

あなたとの出会い想定外を待つ

氷瀑に閉ざされたまま恋眠る

むらさきから始まる恋の落とし穴

ブランコを揺らしてくれる甘い罠

大阪市 岡田恵子

髪切つて明日は鳥になるつもり
神様はきつと私を試してる

踏ん切りをつけて乗り込む夜行バス

最終章余白に綴る夢数多

飛ぶことは鳥にまかせて日向ぼこ

病む夫の好きなどころを箇条書き

神戸市 城戸誓子

物語溢れる褪せたベビー服

ネイルされ乙女の実顔デイトホーム

凍てる空温めている大花火

沁みるのは真心込めたさりげなさ

痛むとこ自慢し合つて古い二人

倦怠期虫干ししましょ夫婦離

山口市 中前幸子

赤い屋根玩具のマーチ聞こえそう

両手広げて病んだ地球を護りたい

翼を下さい雲と競争したいから

ころろ病む日へ名も無い花からのエール

毎日が寸劇主役のわたし疲れ気味

感情線一足す一は二にならぬ

門真市 坂本星雨

耐え抜いて自然解凍する心

独りじゃあないよと春の花が咲く

ヘルパーさんの笑み春の陽に包まれる

春にボーツとチコちゃんに叱られる
朧月愛した人を思い出す
一瞬を生きて明日の夢を織る

東大阪市 青木隆一

舞い落ちる花の終わりに想うこと

路地裏に咲いた花にも意地がある

春らしい色セーターを買つてみる

来る春を蕾が教えてくれた

桜咲く何もいらぬ春が好き

代筆と気付くせつなさラブレター

松山市 郷田みや

いよかんの香り黙つて剥いている

桜餅サクラの曲を聴きながら

ゆつくりとフリーサイズに出合う春

リュックにはいつもあったねカン口鉋

ひとことが言えないままに沈丁花

紙風船きれいに畳めた日の夕陽

柏原市 神崎江

平凡な食卓に愛生きている

パプリカよおかげでサラダカフェ風に

名の知れぬ草も根っこも生きている

泣き顔をミモザが見てる昼下がり

道迷いしているような日暮れどき

春だつて泣きたいときもあるのです

神戸市 村松久江

ボンコツになつた氣のする物忘れ
操作法習う側から抜け落ちる
持ち時間じわりじわりと減つてゆく

見舞には笑顔小話チョコレート

ひと昔前の話で盛り上がる

滑舌の悪いニユースを聞き洩らす

宮崎県 恵利菊江

美しい嘘は真実語らない

履き慣れた靴があるじを知り尽くす

ストレスも自分磨きの副作用

ワープロの文字に心は住んでない

人間のエゴが同居の洗面所

お便りは心のかたち丸くする

大阪市 中村峰子

今日はダメ明日ならいいよあさつても

このごろはムカツときたら我慢せず

耳遠い話半分聞き流す

すぐ忘れ心は軽く肩こらず

同じ愚痴話の流れわかっている

キリギリス横目でみてたアリだった

大阪市 吉積栄次

欲捨ててやつと幸せやつて来た

メイクして悪魔の心騒ぎ出す

そばに來た幸せそつと抱きしめる

バカヤロー言われた夕陽苦笑い
八十路坂ゆつくり落ちよ砂時計
もう一度風に当たつて考える

泉大津市 助川和美

闘うより付き合うことにした病
しぶしぶと親の説教聞いたふり
角たたぬように断る年の功

外で飲む酒が楽しいので困る

コロナ禍に換氣のいらぬわが住まい

リビングの日向さがして爪を切る

吹田市 西沢司郎

難聴の耳にカラスが囀ける

雨止めば傘は即座に杖となる

相槌を打てば打つほど長話

予想困難馬に調子を聞いてみる

剃り直す髭に痛みを感じ取る

落ち着けば金婚式はやるつもり

豊中市 齋藤奈津子

町内に赤子がひとり人気者

割り算が得意に育つ大家族

見直せば年玉年賀当たってる

玉子高値半分包むオムライス

過去を消し生まれ変わった再生紙

たんぽぽと土筆に出会う春の土手

河内長野市 坂野澄子

恋の文字なぞって燃える指の先

手袋を片手落として春の道

日向ほこゆったりとろり溶ける夢

紅い紅おんなの顔でする戦

我慢する知った小石の着地点

ナビだつて知らない道はたんとある

河内長野市 穂口正子

お付き合い地声でしゃべる心地良さ

あいうえお順に唱えて思い出す

思い込みで人を恨んでどうするの

面影も残らんほどに老けた今

お互いに言い分あった五十年

バラ五十本たまにいい事する夫

大阪府 奥野健一郎

つい口を滑らせたのは仲の良さ

世の中と半周送れいいリズム

さよならと喉まで出たがまた今度

ボケのくる前に遂げたいライフワーク

想い出をゆすつてくれる波の音

ベットだつて抱かれるように努めてる

和歌山市 定松宏枝

スカーフが春一番に襲われる

幸せは一行のみの日記帳

湯上がりの母のほっぺは二度童子

大口を開けて頬張るいちご狩り

風の音知りつつ「はい」と返事する

マンボから今はワルツになった足

和歌山市 まつもと もとこ

川柳を詠んで月みる夢をみる

辻褄を合わせて平和保つてる

直ぐ揉んで消せた汚点のユニホーム

夕暮れて静かにホタル舞う平和

ドブ川の無法地帯に群れる鰻

合つてない修飾語だけ目立つ歌詞

鳥取市 狭武紫陽

神様の設計図にも欠けやヒビ

予定より少し濃いめになった苦汁

根っこには確かに愛と書いてある

着膨れた影も己を知っている

化粧箱に収まりやつと人の顔

脳みそも春か甘酸っぱい欠伸

米子市 川本美津子

年金が手品の様にすぐ消える

物価高昭和の暮らし懐かしむ

ボケ防止白紙にしない日記帳

寒い日は煮込みうどん暖を取る

老婆でも若い気分で散歩する

コロナ禍で笑いをくれる落語好き

鳥取市 上山一平

コロナ禍に小豆雑煮で年が明け
朝を読む体内時計正常値

サイタサイタ尋常小はひとつとび

遊ぼうとじゃれつく曾孫歳忘れ

腰かばい鍬を持つ手に山笑う

ねちっこく聞く耳立てて九十年

鳥取市 大前安子

ちゃんちゃんこ母の手仕事宝物

よろしくねそうだね言えば春の波

これしきが出来ない両手重すぎる

世は広いふむふむ認め身を広め

深呼吸なさいませよと雛を出す

これでいい今日はここまでお片付け

鳥取県 田中重忠

ケアハウス今日も無事です床に就く

井の中のカワズになったケアハウス

好みなど言ってはならぬケアハウス

まだまだと生きる悦びある老後

ケアハウス今朝も元気で髭をそる

帰りたいわが家が見えるケアハウス

安来市 原德利

誤字脱字それでも地球回ってる

二日目になって美味しくなるおでん

私へのアクセスQRコードで

他人より先に微笑む河津桜
霜被りおのれ鍛えるつくしんぼ
巢作りをやめた鴉の老夫婦

津山市 高橋由紀女

記念樹の剪定あらたなる一歩

過疎に住む我が道愛し一車線

春嵐支える根っ子仁王立ち

その歳になれば分かると聞いてきた

春うらら背中押すのはただ気力

胃検診きのうの愚痴を見抜いてる

広島市 森田博之

御し易い貴方の顔の七変化

子を叱る口調そのまま親譲り

他人様の気になる癖は俺の癖

故郷の雰囲気連れて友が来た

待ちましたも少し長い診察を

昔はな始まり皆が寄り付かず

東京都 宮田栄子

梅を愛でときわ路バスで列車旅

七つの子雨情訪ねて童心に

波音が心の憂さを消していく

鮫鱈の鍋を囲んで海の宿

夕風の五浦の海で鳥になる

早咲きの桜目当ての人の波

神戸市 青木公輔

フルートの音はトルコまで響いてた
プライドが邪魔で庶民に成り切れず
ドレミファは外来語だと念を押す
結婚式で風呂敷広げたのは誰だ
平和の鐘鳴らしそこねてくたびれた

神戸市 石川克美

花ビラの押しくらまんじゅうポリアンサ
私などまちがって人に生れたの
この気分解るはずない若い人
神様のお墨つきなの？翔平くん
WBCしばらくうつを忘れます

神戸市 米田利恵子

一人前にスランブなどと言ってみる
七時間熟睡あとのリズム感
買い出しは春の献立決めてから
冷蔵庫の奥で叫んでいたみかん
帽子脱ぎマスク外せば別の人

神戸市 酒井宏

代わりもう新米は届かない
牡蠣届くまでは一粒試食する
いかなごのくぎ煮に進む吟醸酒
バス旅行昭和歌謡で盛り上がる
ゆつくりと視野を広げる一人旅

神戸市 みぎわはな

芸術のようなケーキに手が出ない
マスク下紅さしてます女です
桃一枝活けて女の部屋となる
無量寿と書く父百歳の誕生日
菊活けて夫と妻との隙に置く

神戸市 山根弘華

心配のタネがボツケにてんこもり
川柳を選んで脳の錆おとし
きつとまた会う瀬を待った友が逝く
卒寿です選んだ道を遠まわり
選り好みしすぎてチャンスまたのがし

尼崎市 宗和夫

水温む妻の涙が止まらない
着た切り雀も孔雀になれる春
春だから嫁の選んだ服を着る
春風駘蕩そんな人だと言われた
コロナ明け心待ちする花便り

尼崎市 山本百合

春を呼ぶ句いで充たすエコバッグ
残菊の支え合ってる風の中
修業積み人形の足三番叟
老母は港やんちゃ息子の声がある
顔見せぬ子に伝えたい事がある

加古川市 石賀 邦子

もし神がいたらどうするこの格差
その昔誰もが貧しかった頃
猫族のわたし誰にもなびかない
言い訳を聞く気などない馬の耳
一度だけ弱い女になつてみる

三田市 生田 えい子

十も上元気な足とでかい声
山の中ボツンと一基家の墓
四コマの描写マンガに見る世相
着ぶくれも鳥が促す芽吹く頃
君の側透明体で守る僕

三田市 木村 マユミ

作りおき一品増やす独り者
一日の予定見つめてオンとオフ
つき合ひも情の厚さもほどほどに
愛犬が待っているので帰ります
春ですね心も弾むメヌエツト

三田市 幸田 厚子

豆までも値上げ少量鬼笑う
円安も同志踏んばる小企業
けち爺もやる時はやるボンと寄付
浮くようなお世辞も笑顔返しとく
住所録霜月二人消す辛さ

三田市 野口 龍

正論に生きて来たはずこれから
過去よりも未来これからの私
無邪気だった頃もう忘れました
追いかけて追いかけてなお夢の人
カミソリと言われた頃もありました

三田市 馬場 貴美江

皺の数生きた証かはや卒寿
暦年齢卒寿なれども気は傘寿
寒暖差老いの体調崩すかも
ひな飾り時代の流れ変わりゆく
老いたれば動作緩慢スローライフ

三田市 松下 英秋

軽い服着せてあげたい雛人形
人もムシもまだかまだかと春の風
自治会長三顧の礼でやつと決まり
人よりもミミズのほうが役立ちて
飼犬にストレスは無い生きる意味

三田市 森 玲子

目覚しいらず今朝も猫に起こされる
老後には自由あつても苦もあるの
捨てないで良かった服が今調法
寒さ続き雨戸開ければ初ホケキョ
鳥の群れ仲間を連れて春も連れ

高砂市 裕 木 る い

大抵の女の涙あくびです

額いてもらえろ話だけ選ぶ

花も男も遠くのものが良く見える

ひとり旅しようか案山子と暮らそうか

太陽は気付いてゐるか雲の影

丹波篠山市 河 南 すみえ

老いてきた記憶は消えぬ戦中派

七色の虹は仲よく光つてゐる

遠くても兄弟姉妹幸祈る

迷つてゐる心しずめる般若經

一日の反省時間昆布茶飲む

西宮市 高 瀬 照 枝

おひなさま元気で会ふのよい兆し

振子時計今日も楽しくおどります

子供等の役に立ちたいまだ元氣

コロナ禍で萎縮した身を解す春

力抜き爪を切らせる猫かしこ

西宮市 高 橋 千賀子

救援物資たちまく届く支援の輪

来年は会いに行きたいシマエナガ

シャンシャンはいないがパンダを観に行く

ライバルがヘッドハンターされて春

抜け穴を通ればそこはネコの国

西宮市 藤 原 みよし

優しさのかけら拾つた丸い石

女神さま振り向いたよな気がしたが

明日からはにこにこするぞ病あがり

追風が元氣出せよと通り過ぎ

から元氣出す振りしては足よろけ

三木市 山 口 ヨシエ

颯爽と五月の空の下をゆく

鯉のぼり無いものねだりばかりする

無になつてさみどりの森ゆくひとり

マイナスもプラスも背負いどっこいしょ

しなやかにそしてゆつたり風の中

生駒市 饗 庭 風 鈴

この町が好き山裾走る終列車

隠れ家を探してたあのころのボク

どこへ行くあてはないけど駅に來た

放浪の夢くすぶっているホーム

とりあえず夜行列車に乗ってみる

生駒市 永 田 芙美子

ランドセル見守る旗に花吹雪

竹ノ子が背筋伸ばせと脱皮する

その先を聞きたくて会ふ花時計

明日は明日藤椅子揺らし日向ぼこ

栄転も左遷も胸に握手する

奈良県 室田 行久

町内の揉め事さばく生き字引
容姿より和服が映えるミス日本
和菓子にも作法があつて肩が凝る
学問も不純な動機あればこそ
介護して母の本音を知り啞然

和歌山市 北原 昭枝

遠く来た道が昨日のことのよう
お互いに片目つむつて許し合い
胸の内それぞれ想う日向ほこ
しみじみと鏡を見ては老いたなど
話せないこころの中の春がすみ

和歌山市 倉橋 悦子

春つれて来る如月の雨が好き
待望のドラマ始まる呱呱の声
大都会目指しガラスの橋渡る
思ひ出の欠片を拾う歩道橋
陽は昇るまだ読む詩の無限大

和歌山市 佐藤 まき

卒業にめでたく素顔の御披露目
漸くのマスク解禁花粉飛ぶ
旅のチラシ春爛漫のみのくへ
郷愁の湯量豊富な温泉地
春うらら老いに詮ない旅の夢

和歌山市 鍋嶋 澄子

ゆつくりと大根煮込み便り読む
海は風話つきないお湯の中
寒いけど両手広げて空仰ぐ
ルルララ春だランチだ海沿いを
初ものの豆御飯の香春はじけ

海南市 山中 閑

お招ばれに足袋しのばせて雪の朝
梅の香の風にさそわれスニーカー
道尋ね上がりはつたらずぐどすえ
来た序で京漬物ではちされる
かわいさに旧の弥生も飾る難

和歌山県 三枝 眞智子

耕せば土が未来を語りかけ
目標を立てて一日消化する
生き字引昔の人は偉かった
ラストチャンス人生懸けて風に佇つ
ひよつとこがおかめになつて平和です

倉吉市 宮田 風露

三寒四温まだまだ冬を仕舞えない
あと少し汚点つくらず逝くつもり
内緒話おちよほ口からこぼれてる
駄句ばかり作り只今勉強中
一寸と待てレンジに声かけ玄関へ

倉吉市 若松 由紀子

小脳が少しずれたか呆け始め
どうでもよい話を友と長電話
老いた今あせる事ない廻り道
よい老後笑いころげて行く冥土
まだ走れる思っているのは自分だけ

鳥取県 橋谷 静江

カレンダーめくれば米寿やってきた
免許証返して電車バスに乗る
つらい時前向きになると気が進む
欲のない暮しで少し呆けたかな
諦めも肝心自分年だから

松江市 中筋 弘充

簡単に妥協ができぬ八十二
どの杭も隣の杭を意識する
出たくても出ぬ杭たぶん世間体
親の苦言やと分った八十二
反抗期「ノー」と言わせておくがいい

美作市 岡本 余光

半可通上げ足取られても平気
性善説嘸う悪行目に余る
黒塗りの教科書ひよい思われる
コーヒーとジャズが心の常備薬
後期から融通無碍がよいと知る

広島市 田桑 恵子

タ仕度スマホの知恵をお借りする
卵黄がふくら焼きたい朝だ
美容院BGMが睡魔呼ぶ
一坪の庭に土の香目覚める芽
サミットの警護訓練ドラマ並み

広島市 松尾 信彦

マスクとれ安近短でまずは攻め
どさくさに歳をサバ読むマスク顔
体調で時計の針の違う老い
三分間タイムに合わす裏のネギ
身の丈に合わせた「軽」も持て余し

尾道市 村上 和子

開け放ち出入り自由の島暮し
振り切れぬ義理と人情島暮し
モノクロの結婚写真ダイヤ婚
せつかちものんびりも居て花開く
期限切れわたしの舌が太鼓判

竹原市 土井 輝恵

売られ行く牛の鳴き声残る耳
デジタルの前で一瞬構えます
「竹原が写っているぞ」夫が呼ぶ
死ぬる前関白風を吹かしたい
四人姉妹二人になって老いの鬱

府中市 岸田 武

啓蟄へ人は野良には出ていない

取り急ぎお知らせします計のメール

陳列の少し黒ずむ享保雛

納骨堂へどうぞと寺も動き出す

組み立てたアリバイ崩す仲間割れ

山口市 兼崎 徳子

何一つ無かった様に散る桜

失恋の底無し沼に沈みます

夜の街遊び場探す大人たち

パフュームでこっそり私バリアする

失敗もかさぶたになり取れていく

福山市 新庄 芳香

人並みに生きてたはずがこの格差

人間を仕分けするのは止めようよ

平均の手前でいつもこけている

イエスノー人の顔見て使い分け

人は皆平等ですか神に問う

福岡県 本田 さくら

カラカラと落葉笑って道わたる

壁の傷みるたび想う亡きタマよ

若いねと言われうれしいお世辞でも

仏の座あちこち咲いて春を呼ぶ

雀十羽電線におり会議らし

唐津市 前田 廣幸

あちこちで「三年ぶり」が動き出す

エレキギターテケテケの青春譜

キャンディーズ今年も春を連れて来た

一度では済まぬメールがまた「ピコン」

梅の花ライトアップに見得を切る

那覇市 禰 モト

追い越して赤信号になぜ急ぐ

悩み事神対応に気が軽く

夫婦咲き散るも一緒の寒椿

努力した自分を褒めてルンルンに

父の背相乗る孫のVサイン

那覇市 宮 すみれ

いつだって笑顔美人は得をする

晴マークだったのに雨つばき咲く

買い出しへ娘両手に力こぶ

すみれ草そこに咲いてもいいですか

春風にもてあそばされるメッシュ髪

豊見城市 あら さくら

年金日ふところ緩むマダムたち

二ヶ月に一度の給料ピョンと跳ぶ

外見のスーツで決まる契約書

今時のネズミは猫を追いかける

難解句脳もいっぱいひと休み

岐阜県 喜多村 正儀

対面の自己紹介で知る和み

行く道の正否は汗が知っている

徘徊か散歩か迷う靴の底

看板と鞆が仕切る村社会

やさしさを背中にしよって来る叱咤

横浜市 巖田 かず枝

宝くじ当てて引越しするつもり

忠実に会社を思う子に誇り

品物を見ずにネットの信用度

鍵もせず寝ている妻の堂々と

散歩だと言っておやつを買って来る

東京都 尾畑 なを江

お気に入りバッグは常に共にいる

ベランダでみる議事堂はビルの中

やめて欲しつける葉のないタバコ

つかみとるこの世に生きる喜びを

くよくよめめそめそめせずあるがまま

豊橋市 小松 くみ子

クリスマスローズのんびり屋が咲かぬ

カレンダーめくったとたん春の風

朝の習慣バンザイとロダンのポーズ

人混みが疲れる歳と自覚する

物価高大根干しを作らせる

豊橋市 西郷 紀美代

おかしいと叫ばなければ過去の道

お日さまの匂いの布団すぐ寝付く

子の奢りうどんが喉を通らない

人さまに頼ってしまふ楽な質

抱きしめて育てた孫はよく伸びる

京田辺市 加山 勝久

奈良の鹿ネツゾーと鳴き群去るか

金もなく旅行支援夢の夢

台湾を飴と鞭とで調教し

西部劇観るように視るバフムート

ジエンダーを考えつつもオーイお茶

八幡市 武田 悦寛

再生へひなびた過去を天日干し

気の弱いカラスが鳩に席ゆずる

筋肉が話し合いしてストライキ

生まれくる新芽を古葉が風かばう

立ち話大笑いしてふと黙る

横浜市 加藤 佳子

四年ぶりマスク外して花の下

お待ちかね侍ジャパン揺るぎ無い

テレビ前酒の肴に缶ビール

熱狂に浸る一時我忘れ

熱狂を追って心の旅に出る

弘前市 小山内 真由美

いつのまにか特急便で春が来た
空気が読むとにかくみんな忙しい
塗りのお椀優しい音にほっとする
熱燗からビールに変わる自然体
ニコちゃんマークあちらこちらにつけて春

富士見市 中 島 通 則

賃上げは高齢者には蚊帳の外
真冬でもシャワーで済ますガス値上げ
マスク美人戸惑っている脱コロナ
A Iが川柳捻る日も近い
高齢者減れば財政立ち直る

高知市 三 谷 松太郎

ミシン線着ると曲がるよ意に反し
来客がポストの私信取ってくれ
軽くても後がづらいさ恋だから
昨晩はどんな寝相してたのか
高笑いついさせられた古い傷

東京都 高 岡 弥 生

何気ない日常生活宝物
腰痛で子からのメール対処法
嫌な事せずに楽しく生きたら
筋力をつけて姿勢も直しましょ
毎週の野菜届いてさてレシピ

白河市 鈴 木 たけし

マイナスへマイナス掛けて生きる術
リタイアはローカル線の始発駅
デパートの隅でひっそりSサイズ
裏口を嫌って縁の下に居る
ウクライナで歌ってみたい「花は咲く」

大阪市 今 村 和 男

靴底にこびりついてる冬の土
陽と影が僕らを置いて移り行く
ゆく冬をパッチにくるみ仕舞い込む
いつせいに街が働く春の朝
告白のもう友達に戻れない

大阪市 近 藤 風 羅

日向ぼこそういや長くしていいない
手をつなごう言葉空しくなる前に
目が覚めるいつしか時計鳴る前に
死せるアベ生けるキシダを走らせる
生きてきただけで自分をほめてやる

大阪市 阪 本 秀 子

人間は愛積みながら生きている
口角をあげれば気分乗ってくる
内側に潜むバラにはトゲがある
でこぼこを平地にもどす空の青
気にかげず輪のまん中でケセラセラ

大阪市 白谷 よしみ

五年経ち君を忘れた今日でした
髪洗うどんなカールで君をまく
ゆれる恋いつ降りようかブランコよ
捨てた花捨てたところで今年咲く
絵手紙の魔法の言葉味がある

大阪市 滝井 えみこ

菜箸を使いこなして主婦になる
二人分沸かしたお湯をもてあまし
たまに本開ければ文字が面食らう
連ドラを土曜だけ見て筋を知る
美人系言われ気になる系の幅

大阪市 田原 康雄

おしゃべりなタンポポ少女笑わせた
おしゃべりな猫今日も夫婦の愚痴に耳
おしゃべりなノート私の秘密基地
面白い月曜日雨ペンと紙
面白いポテサラ妻の隠し球

大阪市 中村 民子

朝焼けのオレンジ色に騙される
人の口恐い物だと心得る
たわい無い会話は大事老いふたり
頼み事二つ返事で引き受ける
引き出しで期限切れした割引券

大阪市 原 幸子

虚勢張る呵呵大笑はやはり妻
老いの道晩鐘ひびく橋の上
胸中を風吹き渡る長い夜
老老でやつと味でる夫婦鍋
夫恋の溜まる涙と添い寝する

大阪市 松田 聡

地震戦争他人事ではなくなるぞ
知らんけど気づかないのについて使う
五類でもマスクをはずす自信ない
武器買って使うことなどないように
凄惨な歴史隠さず伝えねば

大阪市 森 廣子

玉ネギに淡路産だと騙される
優秀で優柔不断迷子ハト
介護の手何も果たせず空回り
本を買い花屋で夢を選っている
振り返るチャイナマーブルな日々

堺市 古川 光雄

もて遊ばれ妻の手の内居こちよし
コロナではないのに咳出て気味悪し
生け花の流儀知らねど花映える
リングの歌ハモツた仲間皆鬼籍
春雨や心もしとしと靴にカビ

池田市 倉本一弥

季節の風を感じる歳になりました
重ね着に似たあつたかさ母の笑み
洪く明るく藤田まことを目指して
子ら巣立ち二人となつて部屋も別
一人もいいぞ話したくない日もあるぞ

泉大津市 葛城隆雄

心経の声明々と奥の院
さすがです大物ですな動じない
英会話ままにならぬは呂律です
茶華道の行儀作法で足しびれ
難題に頭をかかえ黙念し

交野市 山野双葉

半巾の帯締め会いに行く小舟
春待たず逝きし母への花衣
日が落ちて人恋しげなしだれ梅
海に向き顔上げ笑う水仙群
みくじにも待ち人來ずとあしらわれ

摂津市 荻布律子

商談の成立祝いチョコバナナ
猫だけは応えてくれる誠意あり
さあ行くよワンステッパアオハルは
この頃はトライとエラーの繰り返し
亡き友の手紙の中に我がいる

摂津市 野々村レイ子

川柳は私の性格知っている
あの美女はさりげない無視得意そう
闇を抜け笑顔になる日きつと来る
逆風を糧に前向き信じたい
幼子は幸せ運ぶ宝もの

高槻市 鳥居宏

腰痛の同病多く意見多種
腰痛のよちよちペンギン歩きです
朝寒むに金の生る木がしばんでる
白梅が春一番にぱつと散る
此の世ならぬ空の青さよ夕月夜

寝屋川市 長尾千賀

電話口側に誰かの居る気配
吉報は腹に納めて置けぬ質
旅土産多弁な口を黙らせる
誰も来ず夕餉土筆の卵とじ
老いの春日記へ嘘を書くおしやれ

羽曳野市 黒木ひとみ

何くそと老いに鞭打ち励む家事
瓦礫中耐えた命の重さ知る
震災の教訓生かす防災の日
言い訳は聞くも話すも虚しくて
寝過して追いかけて探す収集車

東大阪市 青木 ゆきみ

採血を五本とられてふらふらに
高齡の道はあつさりやつてきた
ラッピング電車に乗れた良い日です
北向きのお地藏さまに手を合わす
無人販売自分の心試される

藤井寺市 松井 正義

生駒山ハルカスのぞむ秋日和
立春に合わせたような春日和
カン鈍り舌や頬など嘯みまくる
春がきてマスク取る日が恐ろしい
マスク美人マスク外せばオヨヨヨ

大阪府 尾崎 文子

断捨離は思い出とざし目をつぶり
雪の日は豆炭アンカ抱いて寝る
IT化ますます謎が増えていく
なぜなぜを親は子供に聞く番に
国があり故郷があつてありがたい

大阪府 高木 道子

背き合う水仙なだめ仏壇に
日向ぼこ猫もばあばも膨らんで
それなりの無駄口たたく人と群れ
世話焼きの「たられば」攻めを悪しからず
芽吹く物みな持ち上げて笑う山

小田原市 虎澤 昭久

低山をヒーロー気分の下り坂
背中押す光の重み靴輕し
故郷の消えた実家の草に春
枕変え朝まで夜をひとつ飛び

神奈川県 小田 幸子

バレンタイン家では妻がチョコを待つ
おいしいの朝の一声皆が待つ
寝たはずの母のつぶやきふりかえる
今に見ろ君もいつかは高齡者

石川県 堀本 のりひろ

三年ぶりマスク越しにも笑み弾け
相身互い呆けの度合を計り合い
友三人言葉浮かばず苦笑い
ひさしぶり百を目指すと杯かわす

京都府 北野 クニオ

長生きをしたくて参る白鬚へ
新車乗り琵琶湖巡りもまた楽し
畔道に土筆顔出す二つ三つ
合格をスマホで検索世も変化

尾道市 小畑 宣之

無事析るホワイトアウトの予報出る
若き日の日記なかなか捨てられず
八十路坂足腰鍛え乗り越える
八十路坂年相応に元気です

三次市 伊藤寿子

八尾市 田邊浩三

武器を援助するって戦を陰でする
大將は無傷で隠れておかしいよ
戦国の武將が見たら怒るだろ
軍事費が予算を食ってああ無常

大阪市 前川善之

春が来た世界の春も来てほしい
春が来た桜の笑顔に酒が出る
面接でマスク外して笑顔する
生きるのに知恵と勇氣の一里塚

大阪市 宮本千恵子

もう野良で生きてゆけない家の猫
衰える記憶に挑むフラダンス
日々マスク長持ちしてる化粧品
皺とシミマスクしてても増えている

河内長野市 三輪くにお

冷凍を出してもバレぬクオリティ
痩せなさいベルトの孔が超楕円
正義とは勝者の歴史嘘ばかり
肩書に元付き振う錆び刀

高槻市 三谷白黒

ポイントを貯めるために金使う
植田さん貧乏くじを引いたなあ
句が出来ず二月の終り早いです
経済が理論通りにいくかないな

同性婚せずに死ぬるか良かったな
鯨いわしコロナが海に移ったか
ミサイルかコロナ終れば気球もか
マスク取る日が楽しみのデイハウス

三田市 辻開子

春めて色とりどりのショッピンク
目がさめてまずは元氣に感謝する
湯めぐりで元氣回復信じてる
ひと呼吸短氣は損気ケセラセラ

宝塚市 岸田万彩

哲学の道で悟った口説き方
無地よりも迷彩服が目立つ街
働かぬアリになる気でおきる朝
貸した金ふと思ひ出す物価高

丹波篠山市 澤良子

さつきまで覚えていたがどこへやら
ど忘れも齡とともに比例する
健診の歳相応の骨密度
ボヤが出る野焼きの恐さ身ぶるいし

丹波篠山市 横溝安子

友からのクギ煮がとどくありがとう
スーパードと違う味つけ大好きよ
家の中マスクつけたりはずしたり
杉林茶色に見えるよ花粉です

英語 de Senryu ⑬

麻生霞乃 『福壽草』 (1955)

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

われ充てり 充てりと 裏の菜種咲く

my mind is in sufficiency

my mind is in full

rape blossoms full bloom at back yard

指図するだけのマダムの土いじり

a woman of leisure

directs others

to do the gardening

mind 心 *sufficiency* 充足 たっぶり *full* 十分に *rape blossoms* 菜種 菜の花

full bloom 満開 *back yard* 裏庭 *leisure* 余暇の多い

direct others 他人に指図する *do the gardening* 庭仕事をする

～リバーウィローのため息～⑩ 再度チャップブック (chapbook) 登場

以前にチャップブックを紹介 (No.1119 2020/ 8) したことがあります。海外では詩人たちが名刺代わりにチャップブックを交換しています。チャップブックは、元々「呼び売り本」といわれ、主に英国でチャップマンと呼ばれる売り子が街角で販売した冊子からきた呼び名です。サイズは名刺から葉書大のものが多く、2～10 頁ほどの小さな冊子です。わたしのコレクションには、詩歌作品のほかに自筆のイラストや刺繍の入った頁を持つものまであります。Randy & Shirley Brooks 夫妻が、チャップブック風の MAYFLY (Brooks Books) をすでに 30 年以上にわたり出版しています。MAYFLY を初めて手にしたのは Randy Brooks の勤務するアメリカ・イリノイ州にある Millikin 大学で開催された国際ハイク大会 (Global Haiku Festival 2000) に出席した時でした。その後、Randy は年 2 回の出版ごとに、MAYFLY を送ってくれます。最新号の MAYFLY (issue74) は 16 頁で 14 作品が紹介されています。いくつか紹介しましょう。

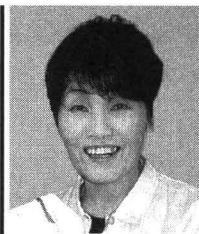
tide in/ tide out/ ocean breath 満潮 引潮 海の息吹 (Marjorie Sands)

end of winter/ the way she trims her baby' s/ memory bonsai

冬終わる 赤ん坊の髪整える 思い出の盆栽風に (Michael Dudley)

fog on the window.../ the studio artist draws/ her breath

窓にもや 練習場でダンサーが 息を吐く (Michel Dylan Welch)



追悼

くらます
倉益

いちよう
一瑤さんを偲ぶ

山下 凱 柳

長年にわたり、ふうもん吟社の華として、また川柳塔の同人として大活躍をされてこられました倉益一瑤さんが、2月22日に逝去されました。(享年83歳)

私と一瑤さんのお付き合いは、ふうもん吟社に入会してからであります。川柳とは何たるべきかを教えていただきました。そして、小生の『愚蛙の戯言』や、ふうもん吟社の『因幡方言川柳句集』の編集発行に当たり大変お世話になりました。

初七日の日に御自宅を伺い、にっこり微笑んだ御遺影写真に手を合わせてまいりました。祭壇の後ろには、各種大会でのトロフィー、盾、額縁、賞状の入った箱が山積みされており、一瑤さんの涙を改めて拝見させていただきました。

御主人が話されるには、川柳との出会

いは50歳頃の時、入院していた病院に川柳投書箱があり、それに投句したら選者であった故・両川洋々さんからふうもん吟社への入会を勧められて、本格的に勉強されてきたということでした。以降川柳にのめり込み、あちこちの句会や大会に出席していたが、「まあようやるわ」というのが率直な気持ちだったそうです。いつ句作していたのですかとお尋ねしますと、家事が終わってから自室で深夜まで句作に励んでいたということでした。部屋を見てくださいかということで部屋に入らせていただきました。本箱には句を書き残したノートが数十冊、川柳塔誌、参考書や雑誌、多くの柳人達の句集、各会での例会誌ファイル等がびっしり詰まっております、まさに川柳作句部屋という感で

ありました。これらを拝見させていただきましたと、いかに川柳に一所懸命に打ち込んでこられたかが一目瞭然で、その御様子に改めて感心させられました。

遺書代わりの川柳を書き残されておられました。句の最後にこのようにお書きになっていました。「長い間ありがとう、愛しているよ……」。「……」は何をお伝えになりたかったのでしょうか。

各句会で心境を詠まれた最終投句の一句を紹介しておきます。

ふうもん吟社

風百態百のドラマを演じきる

岩見川柳会

終演にこつそり力溜めておく

没句供養大会

ずっとそばに居て下さいと言ったのに

川柳塔

古い句集黄ばんだ恋の跡がある

ふうもん吟社は大きな支えを失いましたが、天国から温かい目で見守ってくれと思います。もうあの笑顔、あの名句にお目にかかることができないと思いますと、寂しさが募るばかりです。ありがとうございました。さようなら。

川柳句集『肉眼』

橘 高 薫 風

病院の金魚寡多なく退院す

消防車 前方睨む人ばかり

釣針を整う如し 旅前夜

元旦や 偈頌のごとくに師の一句

読み初めの今年は石田波郷集

夜の長さ 襖をあける猫がいて

妻再び入院す 四句

妻に病まれ 壺中をのぞく日に幾度

病妻は少女のようなくくり髪

袋ごと蜜柑食う子よ 母が病み

手にのせた文鳥の暖 母が病む

牡丹雪 聴覚視覚より敏に

恋の景 丸木橋から鉄橋へ

悼 後藤梅志氏 二句

正しき死 その夜莊嚴 山焼かれ

横縞の雪となりたり 霊柩車

一隅と云うは安けし猫などいて

噴水と相似の緑 柳なり

雪国の桜でありし桜漬け

万博ソ連館

千エホフの卵を生みそうな眼鏡

竜飛岬 二句

句碑激し 浪ここに果て風ここよりす

竜飛岬 地に這う蟻も疾風の圈

藤巻昌子さんへ

婚を約し 月へ帰れぬかくや姫

光堂 大阪地獄から来しに

光堂 胸三寸に収まれり

梅雨荒し 許せぬもののある如く

焼ける胃と如何なし難し 想夫恋

ワンマンも胃のたかぶりを持て余す

枕抱いて 胃をかばえるか虫を聞くか

斜に見て天のひとでの大文字

大文字 額の焼ける火なりけり

遠き火の小さく濃ゆし大文字

愛染帖

新家 完司 選

(投句257名)

立ち読みで転ばぬ本に惚けぬ本

米子市 竹村紀の治

(評) 高齢者の敵「転倒」と「痴呆」。迎え撃つにはしっかり対策を立てなければならぬ。立ち読みなどと言わず座右の書にしよう。

ゴミつくカラスも嘆く物価高

大阪市 宇都満知子

(評) 物価高に対抗するには、食材を有効に使って食べ残しをせぬこと。カラスも「世知辛くなったなあ〜」と嘆いている。

手帳には忘れず妻の誕生日

富士見市 中島 通則

(評) 歳を重ねることに忘れっぽくなってくる。大切なことはメモしておこう。特に奥さまの誕生日など忘れると一大事である。

窓あけてマイナスオーラはたき出す

大阪市 折田あきこ

(評) 何やら部屋の中が鬱陶しいと思ったら、部屋中に不安感や孤独感やイライラなどの負のオーラ。窓を全開にして大掃除だ！

SDGs「もったいない」とどう違う
豊中市 池田 純子

(評) エスデイジーズとは「皆が豊かに暮らせるように、持続可能な開発目標」。これって婆ちゃんの口癖「もったいない」だよな。

被災地を心の磁石いつも指す
三田市 北野 哲男

(評) 似合わない贅沢をしているときや宴会の帰りなど、ふと胸をよぎるのは被災地のこと。心の磁石が「忘れるな」と言っている。

母さんを頼むとボツリ遺影の目
高槻市 富田 保子

(評) 何か語りかけているような父の遺影。その目を覗き込むと「お母さんを守ってやって」。無口だった父の精一杯の遺言だ。

由緒正しい隔世遺伝です音痴
黒石市 石澤はる子

(評) 音程外しの手名だった祖父母の血を受け継いだ由緒正しき音痴。だが、半端な芸よりも音痴は宴会を盛り上げる。自信を持とう。

第三次世界大戦までに逝く
尾道市 村上 和子

(評) ロシア軍のウクライナ侵攻からいきなり動き出した終末時計。どうせなら、悲惨な状況に陥る前に安らかに天国へ旅立ちたい。

天国で要らないものは捨てましょう
尼崎市 山田 耕治

(評) さて、天国では何が必要なのだろう。着

替えやバッグやシューズなどは不要だろう。今のうちに断捨離を進めて身軽に旅立とう。

二千万崩れ始めた物価高
羽曳野市 宇都宮ちづる

パン値上げ米があるからまあええか
大阪市 平賀 国和

電気代上がり小遣い下げられる
堺市 内藤 憲彦

卵さえ庶民離れの物価高
寝屋川市 川本 信子

四つん這い魚を狙う痩せた猫
大阪市 岩崎 公誠

自由オーラ全部まとって家の猫
弘前市 小山内真由美

義理チョコで参戦古稀の恋ごころ
豊中市 齋藤奈津子

バレンタイン熱の下がったチョコもらう
倉吉市 牧野 芳光

ホワイトデー悩んだ頃が懐かしい
三田市 多田 雅尚

弱虫の背中押してる春の風
大阪市 森 廣子

何かよい土産をもって春よこい
京都市 清水 英旺

頬張れば春匂い立つ路の臺
石川県 堀本のりひろ

到来の露味噌で春食べ尽くし
寝屋川市 長尾 千賀

神戸市 近藤 勝正
女つ気老妻だけのひなあられ

広島市 松尾 信彦
産道を抜けて始まる迷い道

松山市 郷田 みや
悪くても良くても「ヤバ」と言うみたい

豊中市 水野 黒兎
ぐるぐると金は天下を回らない

和歌山市 柏原 夕胡
プレゼント自分のものが買えませんか

大阪市 小野 雅美
目薬の一滴値段気にしない

高砂市 松尾柳右子
見習うか黄門様の高笑い

大阪府 島田 明美
だぶだぶの服ありがたい春の土手

大阪市 今村 和男
ケキョと鳴くウグイスきみも修業中

大阪市 和男
グーチョキパー辛夷の花も遊んでる

河内長野市 穂口 正子
言いたいこと山ほどあるがニヤーと鳴く

奈良市 大久保真澄
バッテリーとやる気はすぐに減ってゆく

奈良市 大久保真澄
窮屈だ女続けてそう思う

奈良市 大久保真澄
駆け込み乗車冷や汗の出るアナウンス

黒石市 北山まみどり
先頭の風はやつぱり向かい風

神戸市 敏森 廣光
二浪したことは孫には話さない

加古川市 石賀 邦子
薬よりよく効く医者のお話

弘前市 高瀬 霜石
これ以上やさしいものはないお粥

佐賀県 真島久美子
さよならサヨナラ星が綺麗で困ります

東大阪市 青木ゆきみ
別れましょハイ了解とみなす

大阪市 白谷よしみ
勉強も仕事も恋もスタバにて

大阪市 武田 悦寛
フルコースよもぎ天ぶらよもぎ風呂

八幡市 武田 悦寛
くしゃみする大阪城が飛ぶような

鳥取県 斉尾くにこ
うろろと部屋中使い長電話

鳥取県 斉尾くにこ
使い分けビニール傘とジャンプ傘

鳥取県 斉尾くにこ
だいたいこのことは眠りに癒やされる

西宮市 高橋千賀子
半世紀前は恋人だった夫

西宮市 高橋千賀子
東日本大震災忌春の季語

尼崎市 永田 紀恵
腹の虫抑えりや騒ぐ酒の虫

高松市 山下じゅん子
高級になるほど重いランドセル

香芝市 倉本 一弥
九十六歳卯年女の武田節

池田市 倉本 一弥
泥棒に入られてから運が向き

船橋市 中嶋 常葉
男七十七路 純ではないよシャイなだけ

松江市 石橋 芳山
何も無い出発点に棲むパトス

松江市 石橋 芳山
馬鹿らしいことを真面目にしています

大阪市 田原 康雄
さくらだったか母だったか風だったか

大阪市 田原 康雄
ゴミ置場カラス合唱「七つの子」

鳥取市 前田 楓花
弱点はやさしい人に惚れやすい

鳥取市 前田 楓花
体力と忍耐力で長電話

富田林市 山野 寿之
熱湯を注ぎ三分待つランチ

米子市 妹能令位子
手を抜いた畑わたしを責めている

今治市 永井 松柏
一病という生涯の影法師

鳥取市 岸本 宏章
階段を下りる姿が歳に出る

札幌市 三浦 強一

フレイルの良薬となる五七五

越谷市 久保田千代

晩学へ力まず辞書も手放さず

南あわじ市 萩原 狸月

ウォーキング一句浮かんでペンがない

東大阪市 青木 隆一

鉛筆に申し訳ない続くボツ

吹田市 西沢 司郎

句づくりの合間を縫って買う馬券

鳥取県 門村 幸子

地震には思い入れありあトルコ

羽曳野市 黒木ひとみ

親日のトルコとの絆ゆるぎなく

羽曳野市 徳山みつこ

WBCあるので夕餉早い目に

西宮市 福島 弘子

WBC手抜き食事テレビ前

神戸市 斎藤 隆浩

WBC日の丸背負う二刀流

宝塚市 岸田 万彩

声あげよロシア全土の晶子たち

京都市 藤井 文代

テレビのプーチン思わず撃つてみたくなる

大阪市 古今堂蕉子

どんなやろ興味あるのは黄泉の国

大阪市 江島谷勝弘

おそかれはやかれ一度は焼かれま

横浜市 居谷真理子

風呂敷という品格のエコがある

唐津市 仁部 四郎

質問が拙く大臣扇子出す

和歌山市 まつもととこ

回らない頭のネジに注す媚薬

大阪市 岡田 恵子

どきどきキュンそわそわフフフきつと恋

三田市 野口 龍

再婚する彼女ふりむきVサイン

岡山市 大石 洋子

日向ほこ耳垢ばかりほっている

米子市 後藤 宏之

老犬の吊い開始リンの音

河内長野市 大島ともこ

他人様はなぜか普通に生きている

神戸市 奥澤洋次郎

リフォームで娘の家にされてゆく

大阪市 大沢のり子

ええ知恵は浮かばないから寝ています

岡山市 丹下 凱夫

股のぞきすれば古里絶景地

鳥取県 山下 節子

「いい移住」すかすかの村生きかえる

奈良県 渡辺 富子

明日捨てる派手な服着てウォーキング

和歌山市 上田 紀子

私の鮮度を保つウォーキング

寝屋川市 廣田 和織

日々怠惰ニッポンという檻の中

鳥取市 岸本 孝子

いやなこと耳が上手に聞き流す

生駒市 饗庭 風鈴

武家屋敷モダンになつてランチ会

三木市 山口ヨシエ

水たまりいくつ飛んだか振り向かぬ

三田市 堀 正和

金運はないが長命運はある

広島市 羽城 裕子

追伸に桜散つたら会いましょう

大阪市 高杉 力

味噌汁とご飯が旨い洋食屋

大阪市 滝井えみこ

用済みのだれかのガムが空見てる

高槻市 初代 正彦

お尻しめ背筋伸ばした歩き方

鳥取市 狭武 紫陽

「すし太郎」食べ続ければ母の味

神戸市 上田 和宏

最初はグーそして仲間になりました

那覇市 禰 モモト

万芸も一芸からのスタートで

男鹿市 伊藤のぶよし

笑い皺ふやしふやされキミと居る

大阪市 高杉 千歩

雑草の小さな花に立ち止まる

神戸市 みぎわはな
マスク三年 目で物を言う技も長け

大阪府 磯島福貴子
脱マスク粧い新たなフルメイク

神戸市 米田利恵子
マスク下の鼻も想像したとおり

米子市 野川 宣子
売るほどのマスクの箱を積んでいる

熊本市 杉野 羅天
コロナ5類老いの兜を締め直す

豊中市 藤井 則彦
嘘が言えない人と向き合ういい日和

大阪府 平井美智子
肩腰を経由で膝にきた老化

大阪府 大川 桃花
信じられない所に入っていた人れ齒

横浜府 加藤 佳子
熱狂を求めて走る未だ八十路

高槻市 片山かずお
気力体力少し気張っている八十路

松江市 中筋 弘充
反撃能力これから磨く八十二

三田市 馬場貴美江
卒寿です白寿めざして生きてゆく

鳥取市 上山 一平
健康が一番九十一の春

三田市 上田ひとみ
あたりまえだけれどみんな歳取った

鳥取市 田賀八千代
青空に会うとハーイもソプラノに

交野市 山野 双葉
心電図乱高下する老いの恋

寝屋川市 富山ルイ子
あたたかくなった断捨離始めよう

防府市 坂本 加代
家系図を見て考える墓じまい

唐津市 前田 廣幸
家計簿も止まれ止まれの赤となり

沖繩県 宮 すみれ
あの時の衝動買いにもどりたい

池田市 太田 省三
がん手術事前検査が多すぎる

橋本市 石田 隆彦
鼻毛抜く一本ごとに目に涙

藤井寺市 太田扶美代
カロリーを一任されている包丁

沖繩県 あらさくら
豊かさを探していたら歌ってた

豊中市 きとうこみつ
たい焼は迷わずしつぽから食べる

鳥取市 山下 凱柳
着地点何処にしようか思案中

弘前市 福士 慕情
旅行好き最後に残る黄泉の国

米子市 成田 雨奇
先に死ぬ人懸命に生きた人

香芝市 大内 朝子
いくばくの命を美酒とたわむれる

松山市 栗田 忠士
低山も酒もまた良し吉田類

堺市 今井万紗子
雑壇に誰が置いたか缶ビール

郡山市 安藤 敏彦
机にはバーボン置いて俺の城

米子市 伊塚美枝子
今年こそ桜の下で花見酒

広島市 岸本 清
ポッケには酒のつまみになる話

福井市 伊藤 良一
酒少し足せば目覚める脳である

三田市 村田 博
電池切れ充電しますネオン街

羽曳野市 吉村久仁雄
艶っぽい話に煙がよく似合う

鳥取市 谷口回春子
路地裏の赤提灯の灯は消さぬ

香南市 桑名 孝雄
一升がピタリ五日のマイペース

三田市 野口真桜子
免許返納思いきり飲む芋焼酎

豊中市 上出 修
酔いつぶれ記憶ないけど帰ってた

境港市 藤原 久直
たまにやるルール違反の休肝日

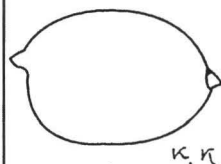
共選欄

檸檬

抄

(薫風書、カットとも)

(投句311名)



「抜く」 江島谷 勝弘 選

ゆつくりと追い抜いていく若い脚
軍事力抜きつ抜かれる破滅まで
銃捨てて築いた平和守り抜く
ジェンダレス栓は抜かれたはずだけど
大谷を抜いて野球は語れない
ずば抜けた才能五冠二刀流
一品を抜くと家計が立ち直る
文春にすっぱ抜かれた足の裏
ハルカスの日本一もあと少し
ややこしい話は抜きで酒にする
栓を抜くやっぱ旨い瓶ビール
今夜だけ酔ってみたくて栓を抜く
ワイン抜く今日は私の誕生日
独り居の今は手抜きの仕放題
初白髪愛おしそうに数え抜く

豊見城市	越谷市	貝塚市	鳥取市	大阪市	岡山市	尼崎市	寝屋川市	土佐清水市	大阪市	大阪市	大阪市	堺市	橿原市
あらさくら	久保田千代	吉道あかね	前田 楓花	宮本千恵子	丹下 凱夫	羽奈 和子	伊達 郁夫	辻内 次根	近藤 正	内田志津子	古今堂蕉子	高杉 力	居谷真理子

「抜く」 永見 心咲 選

手を抜くとその何倍も手がかかる
根っこごと抜いて無かったことにする
ブラボーと叫んで小骨抜けました
ハルカスの日本一もあと少し
古書店のあるじ鼻毛を抜いている
抜かれても守ってみせるマイペース
ブルトップ抜いて流した今日のウツ
誘っておいてするりクルリとラムネ玉
生き抜いてラストあははと笑いたい
栓を抜く青いシナリオ描きながら
直ぐ抜ける杭で重宝されている
さよならも言わずに髪が抜けてゆく
品格を保つためです鼻毛抜く
軍事力抜きつ抜かれつ破滅まで
二番手が好きで追い抜かないのです

鳥取市	佐賀県	高砂市	高砂市	尼崎市	高砂市	交野市	塩竈市	枚方市	羽曳野市	松山市	倉吉市	横浜市	松江市	堺市	鳥取市
岸本 孝子	真島久美子	裕木 るい	羽奈 和子	松尾柳右子	山野 双葉	木田比呂朗	栃尾 奏子	徳山みつこ	柳田かおる	大羽 雄大	菊地 政勝	中筋 弘充	柿花 和夫	福西 茶子	

白髪抜くくせも直った総白髪	鳥取市	永原	昌鼓
さよならも言わずに髪が抜けてゆく	横浜市	菊地	政勝
ちらちらと抜いてあげたいその鼻毛	米子市	池田	美穂
開店の花輪大阪は引き抜く	池田市	太田	省三
膝の水抜いては登る二上山	香芝市	山下じゅん子	
画鋏を抜くと壁がにつこり微笑んだ	大阪市	宇都満知子	
ジョーカーが何度も回り来る不運	富士見市	中島	通則
サビ抜きでと自分で言える歳になり	神戸市	米田利恵子	
墓参りだけはやり抜く恩がある	鳥取市	太田	睦子
達成感庭の雑草ぜんぶ抜く	箕面市	酒井	紀華
あの人 came 残念ですがいち抜けた	米子市	後藤	宏之
出し抜けに「どないや」と言うプロポーズ	河内長野市	木見谷孝代	
囁きの耳が男の骨を抜く	富田林市	山野	寿之
絶対に手抜き許さぬネジである	奈良県	渡辺	富子
脱税するには億は稼がなきゃ	弘前市	高瀬	霜石
たとある切り抜き帳が活かされず	三田市	北野	哲男
抜かれても気にはしません亀だもの	三田市	幸田	厚子
ガス抜きに来たパチンコでムキになる	大阪市	森	廣子
抜群の成績授業料免除	堺市	源田八千代	
横文字を抜いて企画書無事通過	広島市	松尾	信彦
ら抜き語を字幕で正すテレビ局	河内長野市	中島	一彌
早口で以下同文と手を抜かれ	犬山市	関本かつ子	

手抜きする秘訣を知っているばあば	津山市	高橋由紀女
ライバルを抜いた途端に足もつれ	神戸市	敏森 廣光
大谷を抜いて野球は語れない	大阪市	内田志津子
宝刀のつもりで核を口にする	宝塚市	岸田 万彩
耐え抜いて復興祝う鯉のぼり	三田市	稲角 優子
冬の栓抜けばフーッと春息吹く	京都市	清水 英旺
ああ今日も生きてきたかと鼻毛抜く	笠岡市	藤井 智史
鼻毛抜く手持無沙汰よ友よ来い	鳥取市	池澤 大鯉
囁きの耳が男の骨を抜く	富田林市	山野 寿之
息を抜くコツを覚えて生き残る	三田市	九村 義徳
父さんを抜く日も近い声変り	南あわじ市	萩原 狸月
ガス抜きをしてから開ける玉手箱	大阪市	寺本 実
親知らず抜いてひと皮剥けました	奈良市	加藤江里子
三人目手抜きが上手くなった母	西予市	西田美恵子
間引かれた青菜の意地のほろ苦さ	大阪市	島田 明美
つつ抜けを計算しての両隣	米子市	後藤 宏之
すっぱ抜く記事に過信という悪夢	吹田市	西沢 司郎
衿を抜く京都舞子の細い首	防府市	坂本 加代
牙を抜く妻の優しさ無敵です	鳥取市	谷口回春子
画鋏を抜くと壁がにつこり微笑んだ	大阪市	宇都満知子
辞めんといて抜けたら店は閑古鳥	大阪市	大沢のり子
もうトゲは抜いてしまった赤いバラ	和歌山市	北原 昭枝

手を抜いた畑が私責めている
手を抜けば何れ失う信用度
青春が現実抜きの向こう見ず
大根を抜くのも腰が悲鳴あげ
木曜を抜けて週末を奪う
一札をして古釘を抜いている
先頭は抜きたいけれどパトカーじゃ
風呂の湯を抜けばひと日の垢がとれ
お朝事へ眠気抜けないままで南無
採血に朝食抜いていたむかし
慎めと行状見抜く内視鏡
点滴が減ってやつとこ針を抜く
ちよつと気を抜くと増長するおなか
染み三つこのまま残すことにする
まだひとつ残っていたか小さな棘
老眼でさぼてんとげを抜く苦労
抜歯する残り本数気にしつづ
人相が変る奥歯を抜いたから
歯を抜いたらしい道理でおとなしい
八〇二〇めざしています歯は抜かぬ
三人目手抜きが上手くなった母
玉子割る指の力を抜きながら

米子市	妹能令位子	東大阪市	西村 哲夫
三田市	多田 雅尚	高砂市	松尾柳右子
今治市	安野かか志	堺市	澤井 敏治
名古屋市	山本三樹夫	鳥取県	田中 重忠
松江市	石橋 芳山	奈良市	大久保眞澄
郡山市	安藤 敏彦	神戸市	富永 恭子
海南市	山中 閑	三田市	上田ひとみ
宮崎県	恵利 菊江	三田市	辻 開子
松江市	安藤 敏彦	今治市	永井 松柏
名古屋市	山本三樹夫	寝屋川市	平松かすみ
松江市	石橋 芳山	広島市	羽城 裕子
郡山市	安藤 敏彦	箕面市	大浦 初音
海南市	山中 閑	西予市	西田美恵子
宮崎県	恵利 菊江	鳥取市	大前 安子

赤穂浪士松の廊下の無念さを
横文字を抜いて企画書無事通過
灰汁抜きをする山菜も私も
とげ抜けて大人の顔になってきた
追い抜かれ置いてきぼりの万歩計
点滴が減ってやつとこ針を抜く
抜け道を残して叱るしつけ糸
コンビニが手抜き料理の味方する
歯を抜いたほうれい線がまた増えた
ゆつくりと追い抜いていく若い脚
糸切歯抜くに抜けない義理がある
気の抜けた返事へ愛の急降下
気を抜けば直ぐにくの字になる腰よ
抜握の椅子は孤独が待っている
この栓を抜けば一気に浄化する
栓抜いた早く乾杯して欲しい
ガス抜きに来たバチンコでムキになる
亀で行く他に追い抜くスベが無い
炭酸が抜けて人間やり直す
ややこしい話は抜きで酒にする
指抜きをはずし余生を謳歌する
ジェンダーレス栓は抜かれたはずだけど

唐津市	前田 廣幸	奈良市	大久保眞澄
広島市	松尾 信彦	神戸市	岸本 宏章
貝塚市	吉道あかね	鳥取市	山崎 武彦
広島市	羽城 裕子	神戸市	田中 重忠
加古川市	石賀 邦子	鳥取県	居谷眞理子
鳥取県	田中 重忠	香芝市	奥澤洋次郎
神戸市	山崎 武彦	鳥取市	大内 朝子
鳥取市	岸本 宏章	奈良市	加門 萌子
奈良市	大久保眞澄	和歌山県	三枝眞智子
神戸市	居谷眞理子	高槻市	松岡 篤
檀原市	奥澤洋次郎	大阪市	森 廣子
神戸市	大内 朝子	丹波篠山市	酒井 健二
香芝市	加門 萌子	黒石市	北山まみどり
鳥取市	大前 安子	岡山市	丹下 凱夫
奈良市	加門 萌子	松江市	藤井 寿代
和歌山県	三枝眞智子	大阪市	古今堂蕉子

手抜き無し極上の味ママカレー
 常夏のハワイへちよつと息抜きに
 息抜きと称し何度もティータイム
 息抜きは別々にする夫婦仲
 吹き抜けの玄関のある十五坪
 ちから抜きつめを切らせる猫かしこ
 世帯主譲つて肩の力抜く
 力抜くことを覚えてから和む
 灰汁抜いて抜いて私をリフレッシュ
 灰汁抜いてからの人生つまらない
 八十路きてぬけない灰汁もあり私
 週末は耳に溜まった灰汁を抜く
 ひとつ抜けばそこでエンドとなるドミノ
 足枷の指輪を抜いてみたくなり
 気を抜いた途端に三度蚊にさされ
 輪の中を抜け漂流の舟に乗る
 鯉口を切つて交渉の席につく
 いい上司ひと足先に座を抜ける

秀句

鳥取県	本庄ひろし
西予市	黒田 茂代
豊中市	池田 純子
神戸市	上田 和宏
尼崎市	山田 厚江
西宮市	高瀬 照枝
米子市	後藤美恵子
大阪市	田中ゆみ子
松山市	栗田 忠士
宇部市	平田 実男
羽曳野市	藤原 大子
大阪市	石田 孝純
明石市	梶谷 和郎
生駒市	饗庭 風鈴
東大阪市	青木 隆一
鳥取市	斉尾くにこ
枚方市	藤村 亜成
堺市	内藤 憲彦
尼崎市	近兼 敦子
宝塚市	岸田 万彩
岡山県	藤澤 昭代

AIに間抜けの真似はまだできぬ
 早世の友生き抜けと郷の海
 行きずりの恋に命のとおりゃんせ
 首までは抜けたが胴体はどこだ
 手を抜いた途端に走り出す亀裂
 俺だけを抜いた家族のライン有り
 抜け道に慣れて小石につんのめる
 栄光の抜け殻にまだしがみつく
 風となる水上スキー抜くミサゴ
 脱税をするには億は稼がなきゃ
 やつと抜けた大根エロイ二股で
 抜け道は聞いていません悲しからず
 力抜くことを覚えてから和む
 妻楊枝一本抜くと煮崩れる
 足枷の指輪を抜いてみたくなり
 すこしずつ吐き出しながら風になる
 オリオンのリゲルに悔いを見抜かれる
 淋しさの数だけ栓を抜くワイン

秀句

明石市	梶谷 和郎
唐津市	坂本 峰朗
船橋市	中嶋 常葉
松江市	石橋 芳山
三原市	笹重 耕三
河内長野市	三輪くにお
大阪市	小野 雅美
黒石市	石澤はる子
鳥取県	斉尾くにこ
弘前市	高瀬 霜石
倉吉市	宮田 風露
福山市	新庄 芳春
大阪市	田中ゆみ子
鳥取市	吉田 弘子
生駒市	饗庭 風鈴
三田市	上田ひとみ
松山市	大内せつ子
大阪市	平井美智子
神戸市	みぎわはな
越谷市	久保田千代
奈良県	中原比呂志

「ぎゅんぎゅん」

(投句 221名)

高 杉 力 選



母ちゃんに無料でカットして貰う
荒削り円空仏にある祈り
ぎざぎざになつて出してる私色
ぎざぎざの折れ線グラフ胸の内
友達が良くてギザギザ取れてきた
「こめんね」がぎざぎざ溶かす友と居る
シュレッダーぎざぎざにして過去を消す
苛立ちで溢れるギザギザの涙
ぎざぎざの文字はぎざぎざしてござる
痛いのよアザミに罪は無いけどネ
ぎざぎざの記憶を継いで見えてくる
生きている証 ギザギザ心電図
ぎざぎざのところで紡ぐ和平案
ぎざぎざの心に沁みる「大丈夫」
ぎざぎざの葉っぱたんぽぽ丸く咲き
修二会の火ぎざぎざハート焼きつくす
歯車がかみ合う時は丸い月
ぎざぎざを丸く収める玉子とじ
釣銭の中にギザ十きようは吉
丸い地球をぎざぎざにする自国主義

藤井寺市 鈴木いさお
松山市 栗田 忠士
羽曳野市 藤原 大子
松山市 宮尾みのり
鳥取市 前田 楓花
宝塚市 丸山 孔一
富田林市 山野 寿之
大阪市 小野 雅美
神戸市 奥澤洋次郎
鳥取市 福西 茶子
枚方市 藤村 亜成
可見市 板山まみ子
熊本市 杉野 羅天
河内長野市 落葉 ふみ
広島市 松尾 信彦
奈良県 渡辺 富子
八幡市 武田 悦寛
河内長野市 坂野 澄子
尼崎市 宗 和夫
堺市 澤井 敏治

赤ペンでギザギザばかり描く女
嫌なことあればかけてるおろし金
前髪のギザギザうちのちびまる子
心急ぐままに指先封を切る
弁当のバラが仕切るきのう今日
哀しみに触れると怪我をしてしまう
ぎざぎざに破れ始めた世界地図
ギザギザの葉は野薊の心意気
青い恋でしたねギザギザの葉っぱ
デンデケデケ青春はギザギザ
地に海に心ぎざぎざ震災忌
ぎざぎざに切れたメロンは美味くない

佳 句

ぎざぎざに歩み疲れた土踏まず
ぎざぎざの心を癒す仕舞風呂
歯車が噛み合い罪を消すんだね
ぎざぎざのついた言葉を返される
だんだんとぎざぎざついて様になる

人

ぎざぎざに縫って長持ちさせた愛

地

ぎざぎざの垣根淋しい人だろう

天

ぎざぎざを残しこの世にしがみつく

軸

ギザギザが取れたあなたを見失い

松山市 大内せつ子
富山市 伴 よしお
大阪市 大沢のり子
富田林市 中村 恵
大阪市 滝井えみこ
佐賀県 真島久美子
高槻市 島田千鶴子
交野市 山野 双葉
大阪市 平井美智子
橿原市 居谷真理子
三田市 北野 哲男
大阪市 原田すみ子
吹田市 太田 昭
堺市 今井万紗子
西予市 黒田 茂代
倉吉市 牧野 芳光
奈良県 安福 和夫
大阪市 古今堂蕉子
大阪市 田中ゆみ子
東京都 川本真理子

「振る」

(投句 213名)

関本 かつ子 選



振り幅を狭め都会で暮らして
好きだけど振られる前にあきらめる
若者が采配を振る村おこし
振っている母の手見えなくなるカーブ
振り逃げでやっそこ伸びている寿命
徳利を振っても妻は知らんぷり
尻尾振る部下はホンマは役立たぬ
後悔をするよ私を振るなんて
も一人の私へ振ってみる本音
振り向けばわが身一人となっていた
ていねいに生きる振り逃げなどしない
腕振って歩幅を広く前を向く
マスク越し振り向く人に振り向かれ
ルビ振って読み方違う児の名前
振り幅の大きい方に賭けてみる
白旗を振らねばならぬ時が来る
ルビ振ってキラキラネーム闊歩する
拳振り共に歌った労働歌
納得のいくまで首を横に振る
昭和から時を刻んでいる振り子

大阪市 高杉 力
川西市 大坪 一徳
米子市 後藤美恵子
神戸市 奥澤洋次郎
岡山市 丹下 凱夫
塩竈市 木田比呂朗
高槻市 松岡 篤
鳥取市 前田 楓花
大山市 金子美千代
鳥取市 山下 凱柳
和歌山市 柏原 夕胡
米子市 中原 章子
横浜市 川島 良子
三田市 北野 哲男
松山市 栗田 忠士
可児市 板山まみ子
大坂市 岡田 恵子
堺市 坂上 淳司
橋本市 石田 隆彦
弘前市 福士 慕情

塩こしように足りないのです倦怠期
青空が春を振り分け花咲かす
妻の振るタクトで廻っている我が家
気に入らぬ髪型一日棒に振る
振りすぎた尾からプライド流れ出る
精一杯手を振るだけのさようなら
鼻息が荒い羽振りがよさそうだ
オータニがバット振るたび大歓呼
潔く振りおろす手に魅せられる
幸せな素振り見透かす遺影の目
血圧計に腕を入れたら上がります
ややこしくなると私に振ってくる

佳句

尻尾振るたびに傾く泥の舟
智恵袋ブルン昭和のエコが出る
私はここにいますと旗を振る
青レモン青い理屈を振りかざす
振るほうが辛いと言ってみたかった

人
塩パッパ振って男は強くなる

地
皇族でないので両手振ってます

天
大丈夫母は笑顔のタクト振る

軸
八十路でも元氣印のペンライト

黒石市 北山まみどり
米子市 伊塚美枝子
芦屋市 竹山千賀子
越谷市 久保田千代
大坂市 古今堂蕉子
東京都 川本真理子
米子市 後藤 宏之
豊中市 水野 黒兎
三田市 上田ひとみ
大坂市 小野 雅美
弘前市 高瀬 霜石
藤井寺市 鈴木いさお

大坂市 田中ゆみ子
鳥取市 福西 茶子
大坂市 平井美智子
西予市 黒田 茂代
佐賀県 真島久美子

堺市 今井万紗子

橿原市 居谷真理子

三田市 尾崎 一子

初歩教室

題一箱

水野黒兎

☆は皆様の句、★は参考句です。

☆幼き日の子どもを偲ぶおもちゃ箱

ひとみ

元氣さを思わせるように

★子供らの昔が跳ねるおもちゃ箱

☆今年こそ楽しい貯める箱ほしい 照枝

ちよつとぎくしゃくしています。そして

貯める目的も入りたいですね。

★今年こそ旅に行くぞと貯金箱

☆バブル知る箱入り娘も還暦に 律子

中8を解消します。

★バブル知る箱入り娘はや六十路

☆箱入りの娘と雛持て余す えい子

娘さんとお雛様との両方を持て余しているかの印象ですがそれは避けたいです。

★子ら嫁がいま持て余す雛の箱

☆ストレスをいっぱい詰めた箱がある 龍

そんな箱でもいいとおしむ気持ちで

★ストレスを詰めた箱から叫び声

☆マープルチョコ幸せ色が出るかしら

歌子

どの色もみな幸せの色であつてほしい。

★マープルチョコの箱に幸せ色溢れ

☆いつか来るお払い箱を蹴つ飛ばす

常葉

元氣な句。元氣さを強調してみます。

★くるなら来いお払い箱は蹴つ飛ばす

☆何を迷うとび箱飛べたじゃないか

不二夫

順序を入れ替え下4音を解消しました。

★とび箱を飛べたじゃないか何迷う

☆過去からのメッセージ解く箱の中

さくら

句の解釈を誤っているかも知れませんが

★箱の中身は我が家の過去のメッセージ

☆空き箱がもはやテトリス茶筌箆で

えみこ

溜め込んだ小箱が棚にずらりと並ぶ景色からテトリスを連想したおもしろい句。

★空き箱をテトリスとして遊ぶ午後

☆箱物を作るが用途考えぬ 行久

自治体建造の大きな箱物は年間維持費だけでなく大変な額になることを警鐘。

★箱物の用途不明で税の無駄

☆箱の中きれいな箱が入ってる のぞみ

上6になりますが助詞を入れてみます。

★箱の中のきれいな箱が贈り物

☆若き日の愛を入れてる丸い箱 幸子

愛の感じをもつと込めて「あ」の頭韻で

暖かさを強調してみました。

★若い日の愛で暖か赤い箱

☆思い出と夢を箱詰め新天地 誓子

事情が良く呑み込めませんが、新しい勤務地への赴任と考えてみます。

★新任地へ夢と希望を箱に詰める

☆空箱に子供作品戸袋へ 開子

戸袋は省いて

★子らの絵や工作を詰め宝箱

☆春つげる巣箱取りつけ宿無料 良子

順序を変えてみます。

★宿代は只よと巣箱つけて春

☆耳栓をつけて上司の御箱聴く 博之

おはこは十八番と表記します。箱の題が消えてしましますが

★耳栓で上司の十八番聞く宴

☆箱の外擬視するのは添加物 弥生

「外」の意味がはつきりしません。

★添加物の表示を凝視菓子箱

☆ お歳暮をバラした油買い溜める 双葉
油だけではない

★ お歳暮をバラした特価品に群れ
☆ ダンボール箱椅子に利用に便利なり

ミヨノ

★ ダンボール箱椅子代わりにしひと休み
☆ 子の産着ガラガラしまうたから箱

風鈴

産着をガラガラとしまうのですか。
★ 子の産着と匂いをしまうたから箱

もしおもちゃのガラガラのことであれば
★ ガラガラや産着をしまうたから箱

☆ すかさすかの弁当箱も物価高 一平
多くの食品や生活用品の値上げラッシュ

を嘆いた句。このままでも立派な句です
が、元氣な句にしてみます。

★ 物価高だが子の弁当は豪華詰め
☆ 小箱から取り出すように亡父母のこと

百合

下の句の字余りを解消して

★ 小箱から父母の思い出溢れ出る
☆ 懐かしい教室の隅箱火鉢 風露

ストーブがあった教室で学んだことはあ
りますが箱火鉢とは珍しいですね。

★ 教室に箱火鉢ある昭和の世

☆ 誰開けた パンドラの箱 ウクライナ
名都子

575ごとに一字空けは必要ないです。
上6になりますが助詞をいれてみます。

★ 誰が開けたパンドラの箱ウクライナ

☆ 段ボール一箱分の過去捨てる 邦子
大げさにしてみるのも川柳です。

★ 段ボール百箱分の過去捨てる
☆ マッチ箱集めた昭和絵が語る 智恵子

このままでもいい句ですが
★ 収集のマッチ図柄に昭和見る

次に似たような句が寄せられました。
☆ キャッシュレスお役ご免の貯金箱

静恵
☆ キャッシュレスコイン貯まらぬ貯金箱 邦男

同じ作者の句で、勉強します。
☆ 箱詰めの冬場に開ける夏景色 静恵

☆ 箱詰めの夏の景色を冬に開け
面白い発想の句ですね。

★ 箱詰めの夏の景色を冬に開け
☆ 妄想が広がる空けぬ玉手箱 邦男

★ 妄想と夢の詰まった玉手箱
☆ 空想は我が箱庭の枯山水 貴美江

枯山水の風雅もいいですが
★ 空想でわが箱庭に花咲かす

☆ 同い歳箱も読みも紀州雛
誰と誰が同い歳か不明なので 閑

★ 箱の好みも妻と同じの紀州雛
☆ 爺さんの玉手箱には孫五人 りのひろ

爺さんは避けましょうか。

★ 僕にとり玉手箱とは孫五人
☆ 探してる少女に還る玉手箱 栄子

すこしあいまいな「探してる」を省いて
★ ふる里は少女に還る玉手箱

☆ 重箱に嫁と我との睨めっこ 玲奈
いがみ合ってるのか慣れ親しんでいての

睨めっこか不明です。お嫁さんと仲良し
の風景にして

★ 重箱をバトンタッチのお嫁さん
★ 重箱に洋風料理増える嫁

☆ 青春の古いアルバム玉手箱 和夫
★ 青春の玉手箱めく写真帳

以下、今月の佳句です。
○ びつくりをしてねと孫が箱くれる

くにお
○ ちゃぶ台はリングの木箱お飯事 和夫

○ 天地無用わがまま娘入れてます い
天地無用の一言で実は可愛がっていること

がわかりますね。

川柳塔鑑賞

同人吟山崎武彦

— 4月号から

ケガすると続いてケガをする不思議
降幡弘美
転んだら頭の調子良くなった

柿花和夫

ばあちゃんが主役のような雛祭り
岸本章
家中を酔にして頑張るおばあちゃんの姿がたくましく、また微笑ましい。そんな景を爺ちゃんはいじりでも飲みながら楽しんでるのでしょう。

入院前の多い検査にくたくたに

藤塚克三

私も大腸ガンの手術を受けた。医者にすれば念には念を入れたのだと思うが、老人（失礼）の体力も考慮してほしいものですね。納得の一句をありがとう。

ややこしい話は一つずつにして

中山春代

よく言ってくれました春代さん。この世は生きるだけでも大変なのに、新聞を開くと殺伐とした記事ばかり。ややこしい話は一つずつにしてほしい作者の心境、痛いほどよく解ります。せめて亭主には優しくしてほしいものです。

平和が欲しいだから戦闘機が欲しい

羽奈和子

戦争はもう懲りた筈。しかし現実には北のミサイルにJアラートが鳴り止まぬ。そこには揺れ動く作者の心の葛藤が見え隠れする。そんな現実には無防備もまた不安。悩ましいですね。いずれにせよ、もつと平和外交に軸足を置いてほしいと、国民は願っているのです、岸田さん。

寂しくて少し大きく独り言

中村伸子

気持、よく解ります。そんな時は、大きな声で五、七、五と指を折り川柳塔にご投句されたら如何でしょうか。

音立てず歩く男で嘘付きで

井丸昌紀

そうなんです、音立てず歩く男は嘘付きですか。そう言えば、午前様の私も寿司をぶら下げて嘘をつくなっています。なつかしい思い出です。

歳と共に身体のおちこちが軋み出し、特に足腰が頼りなくなる。残念だが認めざるを得ない。同じ転んだり、ケガした時の心理状態や心境を詠まれた作品。しかし、詠み手の切り口や感覚によつては、こもも中味が変わるものかと感じしました。だから川柳は面白い。いい勉強をさせて頂きました。

一番の敵で味方のひとり酒

柿花和夫

いいですね。正に言い得て妙。呑み助の心理を見事に五・七・五の十七音字にとめられました。ひとり酒が良く効いています。

それなりに枯れてはいますが発芽中

初代正彦

古木の切り株から新芽が顔を出す季節。散歩の途中ふと眼に止まったそんな風景に作者は励まされ、元気を貰われた。芦屋川の桜も生きろ生きろと懸命に咲き出しました。

消しゴムをたまに綺麗にしてあげる

栗原道夫

自分は汚れても他人を綺麗にしてくれる消しゴム。そんな消しゴムにご自身を重ねられた作者の優しい心がすばらしい。久し振りにさわやかな気持を頂いた。

まっすぐに生きてきました肩凝った

谷英也

「肩書きを外すと消えた肩の凝り」こんな心境を詠まれたのですね。鎧を脱ぎ捨てられた爽やかさが伝わってきます。長い間お疲れ様でした。これからはご自分のため、ご家族のために尽くされることを切に願っています。

まだ生きるしつかり恥をかきながら

石田ひろ子

そこそこ恥かいて元気に老いてます

松尾美智代

失敗の中から学ぶことが山ほどあると言われています。人間は恥をかく度に成長するからだと思う。頑張りましょう。

オリンピック裏で電通仕切ってた

上出修

腹立たしいがこれも現実。闇取引の原資は全て国民の税金ですよ、電通さん。

迷ったらすぐに来た道引き返す

内藤憲彦

人生を山登りに例えられました。何事も迷ったら、まずは原点に帰ることの大切さを諭されているのだと思う。しかし、引き返すことは、前進するよりも勇気のある決断だと思う。

万病に効いて笑顔はなお無料

水野黒兔

よく言って下さいました。笑いは場の空気までまあるくしてくれます。おばちゃんのお宝と微笑みには誰も勝てません。何時までも笑い袋を膨らまし続けたいものですね。

夫が居て重宝だったシツプ貼り

奥田由美

背中へのシツプ貼り、どうされているのですか。下手な詮索は止しましょう。過去形に夫への深い想いと愛情が滲んでいます。

重い雪だった試練の歳を知る

小澤淳

雪掻きの雪に試練の歳を感じられた作者のお気持、実感が籠もっていて感動しました。大雪に見舞われた札幌は殊の外、

厳しい冬であったとお察し致します。

無駄話みかんみかんの皮積る

藤澤照代

気がねなく話せる友とのお喋りいいですね。みかんの皮も笑っています。

小さいのに買物袋買い替える

黒田茂代

近頃はお一人様のお弁当も持て余すほど。これも歳かなあと、つくづく感じる。胃袋に合わせて買物袋を小さくされた心境、複雑ですがよく理解できます。

同室に寝るからトラブルが続く

安土理恵

鋭く夫婦の機微を突かれ「ドキリ」としました。かと言って二階からメールも味気ない。夫婦の車間距離ほど難しいものはありませんね。

マスクしたままで良かった君の顔

多田雅尚

全国民マスクで美男美女揃い

中原比呂志

マスク解禁されど今では無二の友

山口美穂

コロナに関する作品の多さに驚きました。その中から私なりに心に響いた三句を掲載させて頂きました。

水煙抄鑑賞

— 4月号から

前田 楓花

セールスが妻の方だけ見て嘆る

岸田 武

我が家もそうです。乗りやすい性格を見抜かれているのか、それとも美しいからなのか、旦那様は心配でしょう。プレーキ役になって傍にいて欲しい。

どこが好き十個言えたら咲きましよう

裕木 るい

これは難しい。二、三個なら言えるかも知れませんが、十個ともなれば一晩時間をもらい、スマホにメモるか紙とペンがなければとても無理です。

幼年期外国という国ありき

虎澤 昭久

息子が小学生の頃、港に豪華客船が接岸したのを見ました。その時「外国みたい」と言ったのを思い出し、子供の目には外国とはどのように映っていたのか。

善人の顔で悪玉かもしれぬ

狭武 紫陽

案外そんな人いるものです。最近はい人ぶって高齢者に近寄って来る悪い輩もいる怖い世の中になりました。

処方薬一粒ずつに書く日付

齋藤 奈津子

きちんと飲んだつもりが、飲み忘れがあったりして、数が合わなくなります。日付を書けば間違いなし。

庭の木々親は夢見て子は刈って

小田 幸子

当時の家には庭は付き物でしたが、現代人は何の興味もありません。守るより身軽になった方がいくらいです。

家事ひとつ出来ぬ亭主は落ちこぼれ

古川 光雄

我々の時代の亭主はそれで済みました。が、今はそれでは離婚問題になり兼ねません。役割分担をしてお互い協力を。

引き際はちやほやされている時に

奥野 健一郎

人それぞれですが、余力を残して惜しまれながら一線を退くのも悪くありません。次の新しい人生のために。

今となれば美人だろうとなかろうと

穂口 正子

ひよっとしてお婆ちゃんですか？ 今更嫁に行く訳でもないし、皺があるのが白髪だろうが気にしない。

見習うは白寿の叔母の食の良さ

山根 邦代

九十九歳で考えた食事をされているんですね。自分の体に合った適量が長生きの秘訣なら見習いたい。

路線バス空気を運ぶ祝祭日

馬場 貴美江

過疎の町村ではよく見る光景ですね。会社の休みの日には誰も乗っていません。運転手さんどう思いますか。

女房に見せるともめる句ができる

松下 英秋

柳友の中にも奥さんを題材にして楽しい句を作る人がいます。クレームがつくと「川柳、川柳」と逃げるそうです。

もう二度と逢えない人が増えてきた

小畑 宣之

人生も下り坂になると大切な人との別れも覚悟しないといけません。不意の別れもあったりして人の世は無常です。



大阪を詠う (1)

大阪万博が開かれるのは2年後の令和7年です。10年後となれば「ちよつと自信ない」と思われる人も、2年ぐらいいなら大丈夫でしょう。53年前の千里丘陵でのワクワク感を今一度味わいたいものです。そのような意味もあって、今回は川柳塔社事務所のある大阪を詠った作品を取り上げました。

阪急の大阪駅は梅田です

大阪にお出で梅田の変わりよう

ひとりでは行けぬ梅田の変わり様

通い慣れた大阪駅で道を訊く

梅田では地下街歩くのが無難

近道も抜け道も地下キタ・ミナミ

北もミナミもチャイナタウンになっている

大阪に馴染みのない人には「梅田」という地名は片田舎のようでしょうが大阪のど真ん中。JR大阪駅直近にある阪急電

車の駅名は「梅田」。阪神電車の駅名は「大阪梅田」です。

その梅田周辺も「うめきたプロジェクト」によってガラリと変貌。久しぶりに訪れた人には旧知の道さえ「？」となつて、

陸橋も信号もない地下街の方が無難のようです。

大阪は嘘の数ほど橋がある

君の瞳のなかの八百八橋かな

OKと派手に分かれた戎橋

戎橋さえもいつしか秋となり

水野 黒兎

西尾 栗

麻生 路郎

北野 哲男

初山 隆盛

板東 倫子

山下 寧

杉谷 和雄

高杉 千歩

吉道あかね

水野 黒兎

西尾 栗

麻生 路郎

水野 黒兎

西尾 栗

麻生 路郎

水野 黒兎

西尾 栗

麻生 路郎

水野 黒兎

西尾 栗

麻生 路郎

大阪のヘソは此処だと戎橋

豹柄を保護色にする戎橋

戎橋の上は観光客のもの

難波橋獅子像にはや春の雲

大阪は河川や運河に囲まれた街で「水都」とも呼ばれています。当然のことながら橋が多く、「嘘八百」より八つも多い「八百八橋」と呼ばれているほど。良く知られているのは、肥後橋・淀屋橋・難波橋・戎橋・天神橋・天満橋・桜宮橋、等々。特に、大きなグリコの看板で有名な戎橋は観光客で大賑わい。おばちゃんの豹柄も目立たないほどです。

威厳のある獅子像が睨んでいるのは難波橋。桜宮橋は橋全体が銀色に塗られているので「銀橋」とも呼ばれています。

恋人ごっこしましよ電飾御堂筋

お二人さんを黄色に染める御堂筋

シャンソンも流れて御堂筋は秋

銀杏がぼつりと落ちる御堂筋

日中韩シャッフルされて御堂筋

華やかな歩行者でんごく御堂筋

御堂筋は大阪市の真ん中を南北に縦断するメインストリートで、美しい公孫樹並木は市指定文化財に指定されています。

御堂筋の地名は北御堂（西本願寺津村別院）と南御堂（東本願寺難波別院）が沿道にあることからきています。

晩秋に黄色く染まった公孫樹も鮮やかですが、街路樹を彩るイルミネーションも見事です。キタからミナミまで歩いて

も4キロほどですので、一緒に歩くだけでロマンチックな「恋人同士」という雰囲気になれるのは間違いないありません。

村上 直樹

西 美和子

立蔵 信子

橋高 薫風

矢倉 五月

永井 玲子

加山よしお

森 廣子

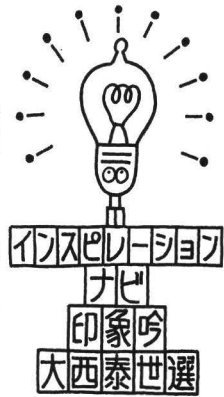
穂口 正子

黒岩 靖博

水野 黒兎

西尾 栗

麻生 路郎



(投句 180名)

この春ほど、野球に見入ったことはありません。と言っても、私それほど野球が好きでもないのですが。

大谷クン(なんて)の活躍は、私のような俄かファンを沢山作り上げたようですけど、これでまたサッカーに押され気味だった野球人気が高まるのもいいかなと勝手に思っています。

それと、やっぱり今年もお花見には行けませんでした。
では、ナビを。

出世して故郷は遠くなりまして

(評) 故郷へ錦を飾る、という感覚はもう古いのでしょうか。でも、出世した人は故郷の方がほっときません。

デザートを食べ損なった悔い一つ

(評) 些細なことのようにですけど、食べもののことって意外と後を引きまします。特

に甘いものはね。

シエルターを出たらアカンと言いつけ

(評) シエルターは色んな意味に考えられますワ。一番出たらアカンのは「妻のひら」なんてね。

わたくしが抜けて綺麗な輪ができる

(評) これって、輪をイビツにしていたのはワタクシということですかあ！でもあまり綺麗なものが崩れやすいんだって。

井の中にまた戻りたい蛙たち

(評) 外の世界に憧れて出て行っても浮世の風の冷たさに驚いたって訳ね。ちよつと勝手すぎるけど経験も大事。

孤独だが孤立しているわけじゃない

(評) 孤独って人を成長させる、なんてことをどこかの芸術家がのたもてておりました。孤立してないのが幸い。

ブローチのひとつ零れた真珠玉

(評) 複数の中のひとつから、零れることで際立ったひとつとなった真珠の美しさが思われてステキ。

何故だろう欲という字が消えてきた

(評) 無欲は大欲に通じると言われたらコワイけど、歳を重ねるに従い、欲を持

つ心に変化があってもいいのかも。

葛蒲湯で英気養う茹玉子

(評) このところ玉子の値上がりや品不足がニュースで取り上げられて大変。葛蒲湯でゆつくりなさせ玉子様。

四百里レー勝敗分けたバトンパス

(評) バトンパスに失敗してメダルが取れなかった国も。仕事でも家庭でも、次の世代へバトンは上手く渡したいもの。

サムライの門出だ止めてくださるな

春の文こんなところに句読点

へっこんだ部分はちよつとだけ謙虚

覆水が盆に返ってからの悔い

長男のボクがみんなを守るのだ

裏切った方も理由があるはずだ

八十路です何もすることないもんで

特売の卵は一人ワンパツク

大阪市 東 敏郎

富土見市 中島 通則

大阪市 石田 孝純

吹田市 山本希久子

藤井寺市 鴨谷瑠美子

今治市 永井 松柏

神戸市 みぎわはな

米子市 八木 千代

奈良県 長谷川崇明

大阪市 平井美智子

堺市 内藤 憲彦

ぬるま湯を抜けて試練の道を行く
弘前市 富士 慕情

来春にはきつと咲きますこぼれ種
松山市 郷田 みや

寂しいなバンダ次次里帰り
大阪市 古今堂蕉子

お喋りをしましう脳の活性化
弘前市 高瀬 霜石

苦手ですうわさ話とハイヒール
尾道市 村上 和子

しあわせの元素記号を忘れたの
松山市 柳田かおる

面接の志望動機に顔がない
池田市 太田 省三

妻が来るまでおあずけのきび団子
奈良県 中堀 優

存在感急に浮上の卵焼き
三木市 山口ヨシエ

通行人Aで生涯を歩く
大阪市 田中ゆみ子

限界集落また一人いなくなる
岡山市 大石 洋子

エデンから出ても美しかった空
枚方市 栃尾 奏子

地球上の平和な国を捜す船
箕面市 出口セツ子

行き先で迷っています銀河線
松山市 栗田 忠士

お土産はこれでいいかと聞くジャック
佐賀県 真島久美子

ウソつくと差し歯がポロリ落ちました
香芝市 山下じゅん子

緑黄色世界にあきあきしたの
松山市 大内せつ子

兄嫁に会いたくなつてする帰省
樺原市 居谷真理子

年老いた猫を真似してする背伸び
大阪市 吉積 栄次

兄弟がそろつて元氣おかげさま
防府市 坂本 加代

災害に備えてボート用意する
三田市 多田 雅尚

これからも姉の背中を見て歩む
鳥取市 奥田 由美

一人部屋そろそろ欲しいお年頃
米子市 池田 美穂

夫も子も腹をすかせて待っている
河内長野市 森田 旅人

歯が欠けてりつぱな笑い取る始末
熊本市 杉野 羅天

バスタブが小さくなつて旅に出る
黒石市 北山まみどり

四捨五入されて私は四捨の中
吹田市 太田 昭

夢がかなつて放浪の独り旅
松江市 石橋 芳山

寅さんになった次男よ今どこに
朝霞市 前田 洋子

父母も居た山菜採りの春の山
西宮市 福島 弘子

パラサイトちよつと大きくなり過ぎた
広島市 松尾 信彦

考えるところがあふの止めないで
黒石市 石澤はる子

飛び出してみたがゲンコツ懐かしい
札幌市 三浦 強一

浴びる程飲み忘れたい事もある
羽曳野市 黒木ひとみ

言い返す勇氣もなくて団子虫
和歌山市 定松 宏枝

優先席無言で空けてくれました
大阪市 宇都満知子

春近し風呂でゆつくり肌みがく
箕面市 大浦 初音

美人湯につかり損ねたこの体
尾道市 小川 道子

わたくしがムード歌謡の元祖です
弘前市 稲見 則彦

産みたての玉子の温さ手に残り
寝屋川市 平松かすみ

防空壕もう一人しか空きがない
羽曳野市 吉村久仁雄

7月号発表 (5月15日締切)



(平本 霧石人 画)
柳箋に2句

第11回 春の川柳塔まつり誌上大会

第11回春の川柳塔まつりには、北は北海道、南は沖縄まで全国から595名ものご参加を戴きました。まことに有り難うございます。

貴重な誌面に誌上大会要領をご案内、ご掲載賜りました各川柳社、個人的にそれぞれご支援、ご紹介くださいました皆さまのご厚情に心よりお礼を申し上げます。

ご投句戴きました作品は、無記名の句箋のまま6人の選者に送付し、選句をお願い致しました。お忙しい中をご選句戴きました選者の皆さまに深く感謝申し上げます

入選作品は各題とも平拔 110句、秀句 10句、特選 2句、計 122句です。なお各題特選にはささやかですが 賞品をお送りいたしました。

各 題 特 選 句

自由吟	待 っ	花
<p>小 島 蘭 幸 選</p> <p>逢ってきた余韻でしばらくは生きる 断捨離をして老後をさみしくする</p>	<p>木 本 朱 夏 選</p> <p>スマホなんてなかったいつも待っていた 停戦を地獄の淵で待っている</p>	<p>佐 藤 岳 俊 選</p> <p>人間がいなくなるのを待つ地球 暗闇の彼方に待っている光</p>
<p>樋 口 由 紀 子 選</p> <p>キリンの首画いて逆立ちする男 青空へカレーうどんの汁が飛ぶ</p>	<p>中 岡 千 代 美 選</p> <p>下さいな明日の午後にはひらくバラ さようならとは限らない白い花</p>	<p>藤 村 亜 成 選</p> <p>花吹雪妖しく揺れるイヤリング 今咲いた花の鼓動が聴こえます</p>
<p>山 口 坂 本 加 代</p> <p>三重 橋倉久美子</p>	<p>鳥 取 中 村 金 祥</p> <p>広 島 小 島 蘭 幸</p>	<p>兵 庫 藤 村 とう さん</p> <p>愛 知 竹 尾 真 弓</p>
	<p>奈 良 菱 木 誠</p> <p>広 島 村 田 幸 夫</p>	<p>東 京 植 竹 団 扇</p> <p>奈 良 安 土 理 恵</p>

花

中岡千代美選

花婿はと問えばやさしい人と言う

花の名をたくさん知ってやさしい子

生き延びてみせるラフレシアになって

咲いて散るただそれだけと軽く言う

五分咲きのあの頃お会いしたかった

花の名は知らないけれど足を止め

蠟梅匂う無口の医師と心電図

桜の頃に逢いに行きます未練

花言葉知らずに使う花切手

咲かないと決めた花ですわたしです

居心地がよくて花嫁つづけます

姉さんがまだ春紫苑だった頃

火遊びをまだやってるの向日葵囁く

蠟梅の下にポツンと雪だるま

菜の花の海を天国かと思う

老紳士様になつてソロ花見

哀しみはまだ癒されぬ献花台

大阪 田中そうや

大阪 鈴木 栄子

大阪 栃尾 奏子

茨城 檉村 日華

奈良 小林すみえ

兵庫 近兼 敦子

奈良 阪上 好生

大阪 古今堂蕉子

青森 高瀬 霜石

北海道 高橋くるみ

奈良 西澤 知子

大阪 宮井いずみ

大阪 山崎 達彦

兵庫 巽 郁子

兵庫 藤井 宏造

青森 高橋せい子

埼玉 久保田千代

桜は偉いちゃんと散り時心得る
万感の花の重さよ定年よ

寒牡丹捨てたものではない余生

吹っ切れましたとサボテンが開いた

大輪の花をうらやんだりしない

五十年初めてもらうバラの花

名前では呼ばれない雑草の花

これからだ花を咲かそうシニア達

アジサイは雨に打たれて花になる

押し花になってあなたと本を読む

忘れてる咲けなかつた花あつたこと

さっちゃんと花一匁した昭和

待つていた色と違つたチューリップ

風花をぼんやり見てる検査場

潔く生きたかと問う落ち椿

花のある君にはきつと棘もある

花大好き開花する時イチチ好き

雑魚だって退く花道を飾りたい

廃屋の健気に薫る枝垂れ梅

坪庭に茶花咲かせて母静か

桜さくらみんな笑顔にしよう

花そつと置いて三差路事故現場

大阪 西出 楓楽

兵庫 井上 高島

兵庫 洒井 宏

愛媛 柳田かおる

大阪 片岡 加代

大阪 山内規予子

青森 佐藤 雅秀

奈良 藤原 清子

東京 上原 稔

兵庫 藤田 雪菜

大阪 西野 敏美

香川 藤本ゆたか

静岡 鶴見美佐子

鳥取 池田 美穂

東京 齋藤由紀子

兵庫 石賀 邦子

大阪 榎本 舞夢

奈良 米田 恭昌

三重 御堂美知子

大阪 柴本ばつは

兵庫 糺谷 和郎

大阪 川島千恵子

コスモスの根に似てわたし意地っぱり

樹木葬ポチは桜の花の下

花の名はたしか朝顔から覚え

ヒマワリの咲かぬ大地にしてしまふ

豊穡の棚田を飾る彼岸花

満開の桜雨も深夜にそつと降り

花道が終わつた夫と歩を合わす

七草も小さな花を隠し持つ

今が花早くお嫁に行かなくちゃ

地熱まだあります花を咲かせます

ハレの日がほんととは嫌い胡蝶蘭

車椅子母の目線にコアジサイ

不祝儀に真つ赤なバラのような人

花吹雪花の命のラストショー

手に取れば微かに温い落ち椿

花だらけきつと優しい人が住む

当選確実造花のバラは誇らしげ

立ち位置をしつかり守るかすみ草

満開の桜出棺の列進む

アジサイが好き花言葉など気にしない

自己主張しない花だが気に掛かる

曼殊沙華罪状なんぞ問いません

岡山 目賀 和子

鳥取 新家 完司

大阪 青木 隆一

鳥取 平尾 正人

愛媛 古手川 光

兵庫 野口真桜子

岡山 藤澤 照代

大阪 青木ゆきみ

大阪 上出 修

広島 荒新 悠子

大阪 原田 正士

兵庫 東久保真弓

千葉 日下部敦世

三重 戴 けいこ

高知 辻内 次根

青森 三浦 幸子

大阪 きとうこみつ

愛媛 松本 慎吾

滋賀 宇野 弘子

奈良 山田 恭正

青森 瀧尻 善英

大阪 太田扶美代

深呼吸するとかすかに花の音

花は枯れ誰もお墓に来てくれぬ

菜の花に迷い込んだね麒麟の子

鳳仙花うわさ話をまきちらす

脇役もいて花束が美しい

人生で一番若い今日が花

沈黙が少し重たい花明かり

花束の中にもあつた含み針

良いところ褒めてきれいな花咲かす

ドライフラワーにならないように恋をする

私にもあつたと思う花の時

いつだって隣でそつと咲いてます

花なんぞ今さら妻に渡せない

蕾から朽ちていくまで見届ける

たくさんの「ありがとう」乗せ花筏

贈られた花束にある嫉妬心

仏花にはなれない花のいい匂い

向日葵がまぶしすぎます恋敵

仲直りしたくて花の名前訊く

玄関の一輪ほめて届け物

汚染した土とは知らずレンゲ草

花束をもらったことがあります

千葉 中嶋 常葉

大阪 森 廣子

大阪 銭谷まさひろ

新潟 相田 柳峰

三重 橋倉久美子

大阪 宇都満知子

奈良 松本 柊子

山口 平田 実男

愛媛 鈴木 郁子

愛知 金子美千代

大阪 松尾美智代

兵庫 敏森 廣光

兵庫 宗 和夫

奈良 更谷 風見

青森 成田 我楽

大阪 中川千都子

山口 坂本 加代

大阪 伊藤 恵子

大阪 高杉 力

鳥取 田内 和夫

大阪 錦織 久

兵庫 北澤 稠民

早春のバラはバラバラ漫画です

さよならがうまく言えない花ぐもり

バラ一輪夫の気づかぬ誕生日

桜はらはらためらいながら泣きながら

花道に必ずなると信じます

花に声掛ければこちら向くように

公園のネジ花上手に捻れてる

今咲いた花の鼓動が聴こえます

花が散るやつと本音で語れます

キヨロキヨロとしている花がスパイです

ゆつくりと咲けばいいよと抱きしめる

野の花が好きよと君は笑うけど

風が吹く泣けない私泣く桜

何の罪ですか造花になっちゃって

梅が桜がまた忙しくなるわ

ひまわりは咲きたくないってこねてるし

「静かになさい」ホウセンカの喋り過ぎ

フィナーレはいっぱいの花アリガトウ

花のある人どことなくいい匂い

母逝った朝にサボテン白い花

恋人といまは無言で花を見る

お亡母さんフリージアです墓参り

愛媛 西村 寛子

鳥取 岡崎美知江

大阪 中山 春代

大阪 山本希久子

青森 阿部 治幸

鳥取 大前 安子

茨城 赤木 恵

兵庫 藤村とうそん

広島 新庄 芳春

和歌山 川上 大輪

大阪 平井美智子

兵庫 裕木 るい

大阪 三倉 準

奈良 居谷真理子

奈良 大久保眞澄

青森 滋野 さち

愛媛 大内せつ子

大阪 米澤 俣子

鳥取 後藤 宏之

兵庫 白川智恵子

大阪 栗原 道夫

兵庫 吉田 佐知

チューリップはしたないほどよく笑う

どの花もノーマイクです美しい

好きな花三つ尋ねて恋になる

花言葉花は納得しましたか

その席で笑っていればいいらしい

秀句

桃の香にやさしい人になれそう

花の名を聞かれてからの長話

薔薇であることに疲れている美人

ここまでは母も生きてた花葉

椿ボトリ弟が逝きました

おはなしはあしたねクロッカス閉じる

咲いたとき名前をつけてもらいます

愛おしい人知れず咲く花だから

そばにいたくて押花になりました

もっとよく知りたい花の枯れた日を

特選

下さいな明日の午後にひらくバラ

さようならとは限らない白い花

軸吟

こんどこそ綺麗に散ってみせるから

鳥取 前田 楓花

愛知 小出 順子

大阪 島田 明美

和歌山 上田 紀子

兵庫 上田ひとみ

大阪 齋藤さくら

兵庫 堀 正和

大阪 上西 啓仁

岐阜 喜多村正儀

大阪 吉道あかね

大阪 桑原すゑ代

青森 北山まみどり

青森 さいとうみき

大阪 鈴木 かこ

高知 岡林 裕子

奈良 安土 理恵

東京 植竹 団扇

花

藤村 亜 成 選

葉の花の海を天国かと思う

再生を夢みるタンポポの綿毛

はじめてもいいなら花でいてあげる

落椿あつさりきれいな死ズルイ

昨日はきのう今朝も水待つ花があり

ひまわり哀し今日も西陽を追っている

お日さまをわすれることのないお花

酌み交わし文化の種の花を待つ

老木に未練の花がしがみ付く

ヒマワリを抱いて下さいブーチン氏

春告知梅は桜に譲らない

真相は知らぬが花の白い画布

あだ花の一途ひっそり実を宿す

苺摘む指先にある白い花

吹っ切れましたとサボテンが開いた

花よりも野菜育てる物価高

夢語り合うニセアカシアの樹に凭れ

兵庫 藤井 宏造

神奈川 加藤ゆみ子

青森 北山まみどり

大阪 川島千恵子

大阪 矢倉 五月

愛媛 岡山フジエ

奈良 長谷川崇明

熊本 阪本ちえこ

佐賀 坂本 蜂朗

和歌山 澄田 康則

大阪 山衛守 孝

愛媛 浜本 光子

大阪 吉道航太郎

大阪 伊藤 恵子

愛媛 柳田かおる

鳥取 佐々木静恵

愛媛 大葉美千代

鬼になる勇氣をくれた胡蝶蘭

群れて咲く雑草にある自己主張

言い負けて棘無いバラの真紅買う

花手水紫陽花薫る昼下がり

饒舌か寡黙か花のたたずまい

たんぽぽと薔薇の間で迷っている

咲いて散る花の私語聞く昼下り

はにかみの形だろうか薔薇の刺

記念日のドライフラワー色褪せぬ

切り花の不運命の水不足

梅一輪亡妻の面影重ね合う

水仙の気品漂う香の仄か

阿波踊りみたいになんじゃモンじゃ咲く

花の咲く木ばかり植えて父はどこ

春うらら上着を脱いだ花の種

春はそこサクラ息継ぎ上手くなる

血と汗と涙で咲いた銭の花

梅開く地球の憂さを払うごと

たつぷりの恥を肥やしに花開く

菜の花に迷いこんだね麒麟の子

無防備で明日咲く花を夢に描く

大輪を咲かせる種を選っている

奈良 島岡美智子

大阪 岡田 恵子

秋田 田村美穂子

兵庫 巽 郁子

山形 菊地 暁子

愛知 青砥 和子

島根 多久和敬子

愛媛 栗田 忠士

鳥取 後藤美恵子

茨城 藤井 杏樹

広島 矢島 敏秀

広島 田桑 恵子

愛媛 永井 松柏

高知 森下 菊

福井 石谷 恵子

島根 清水美智子

兵庫 八木 幸彦

東京 齋藤由紀子

福井 伊藤 良一

大阪 銭谷まさひろ

島根 山根 雪代

奈良 山田 順啓

梅一輪咲きニンゲンの貌になる

生涯を一輪だけの僕の花

温暖化の苦勞が見える狂い咲き

人間が棄てた田圃に咲く蓮華

平和とは菜の花の黄向日葵の黄

れんげ畑ブーケ差し出すちつちやな手

アンスリウム活気も連れて届く朝

枯れたはずなのに芽が出る恋の花

一輪で存在感のチューリップ

そんな事聞かぬが花でしようあなた

生きること迷わずに咲くいぬふぐり

起こさないで花莫塵で午睡の至福

バラが咲くペンテックスの名古屋帯

ここまでは母も生きてた花葉

春の日に寡黙なままで散った花

花一輪一輪ずつの花の私語

トリカブト花に隠した根の毒氣

飛花残花輪廻の春ももう終る

花吹雪花の命のラストショー

罪人にも等しく香る地から花

夜桜の化身あなたの懷に

貴婦人のままで散りたい胡蝶蘭

大阪 太田 昭

大阪 中村 恵

静岡 渥美さと子

島根 中筋 弘充

福島 安藤 敏彦

大阪 岡本 悠

広島 福澤ちずこ

茨城 石川二三男

滋賀 子林まゆみ

奈良 小林すみれ

大阪 折田あきこ

兵庫 山田美春日

大阪 平松かすみ

岐阜 喜多村正儀

鳥取 西浦 小鹿

東京 宮本彩太郎

兵庫 丸山 孔一

兵庫 谷口 修平

三重 戴 けいこ

山口 有海 静枝

奈良 飛永ふりこ

愛知 金子美千代

たんぽぽの花の心を継いできた

コケティッシュ娘一気に開花する

手に取れば微かに温い落ち椿

ひまわりを抱いた無敵のバリケード

やぶ椿鮮紅の血よ恋おんな

咲く花も散る花もある散歩道

真実を追うひまわりの長い首

梅の白人は心を置き忘れ

温暖化四季を忘れた花の乱

蕾から朽ちていくまで見届ける

徒花であろりと命限り咲く

廃屋で季節忘れず花が咲く

てのひらの花びら遠き人ばかり

黒い画布さくらの精を吸いあげる

咲きかけを切られ柩に入る花

早咲きと遅咲き妙にもて囃す

食卓に一輪まいにち記念日

散り際の美学しらないまま造花

乾く心に咲く花の種を蒔く

花びらに引つ掛かっている蜘蛛の脚

からつぽの心に生ける葛の花

変質は花に通じておりました

北海道 東 考矢

青森 阿部 治幸

高知 辻内 次根

広島 常國 喜好

東京 上原 稔

大阪 穂山 常男

茨城 大森みち子

茨城 佐瀬 貴子

大阪 竹中キーキ

奈良 更谷 風見

愛媛 黒田 茂代

和歌山 平松 栄次

広島 小島 蘭幸

奈良 阪上 好生

三重 青砥たかこ

三重 毎熊伊佐男

青森 高瀬 霜石

大阪 荻野 浩子

鳥取 川口 亜矢

大阪 今村 和男

鳥根 田中 堂太

高知 大野 美恵

花を見るようにあなたを見つめます

九条が揺れると白百合も揺れる

ひとつ傘銀の雨降る花の下

惜しまれてやがて骸になる花弁

ひと粒の種大輪の命抱く

まだ少し胸に残している花芽

侘助よこのジレンマは恋なのか

カトレアの花芯ニンフに誘われる

花のある人どこなくいい匂い

ストラディバリウス薔薇星雲開花

此処でしか生きていけない水中花

枯れて行く倫理の花は黒いまま

もつとよく知りたい花の枯れた日を

好きな花三つ尋ねて恋になる

そばにいたくて押花になりました

逆風に乘ってしまつた無垢の花

固く誓つたのに揺らぎ出す花芯

暗闇でさ迷っている青い花

花道をきれいにしよう師の致縁

沈黙が少し重たい花明かり

朝顔が鬼瓦の首しめている

花は咲く命みつめている命

三重 広森多美子

大阪 坂本 星雨

兵庫 山田 耕治

大阪 津守 柳伸

大阪 山野 寿之

広島 田辺与志魚

大阪 柴田 桂子

埼玉 山田こいし

鳥取 後藤 宏之

鳥取 斉尾くにこ

大阪 田中ゆみ子

鳥取 森山 盛桜

高知 岡林 裕子

大阪 島田 明美

大阪 鈴木 かこ

愛媛 松本 慎吾

千葉 中嶋 常葉

東京 伊藤三十六

兵庫 前川 淳

奈良 松本 柊子

鳥取 田中 重忠

青森 千葉かほる

さよならがうまく言えない花ぐもり

豊穣の棚田を飾る彼岸花

恋人といまは無言で花を見る

桜散るやつと自由を手に入れる

本性はここタンポポの根の深さ

秀 句

シナリオの余白へふつとかすみ草

春愁が菜花の中に溶けてゆく

地熱まだあります花を咲かせます

思いやる心で変わる花の色

ドライフラワーもう誰も愛せない

涸渇した脳へ薔薇一輪活ける

梵鐘を鳴らす花びらの悪戯

花そつと咲かせるように紅をひく

笑えないところでタンポポの受粉

あなた好みに咲いて醜い花になる

特 選

花吹雪妖しく揺れるイヤリング

今咲いた花の鼓動が聴こえます

軸 吟

花束に埋まる結婚式と棺の中

鳥取 岡崎美知江

愛媛 古手川 光

大阪 榎原 道夫

大阪 川端日出夫

青森 佐藤 雅秀

愛媛 田中 なお

岡山 市田 鶴邨

広島 荒新 悠子

兵庫 竹山 昭治

茨城 海東 照江

山口 中前 幸子

奈良 木嶋 盛隆

兵庫 相元 世津

佐賀 真島久美子

広島 鴨田 昭紀

愛知 竹尾 眞弓

兵庫 藤村とうそん

待　　つ

佐藤　岳　俊　選

廃線の枕木いまま汽笛待つ

待つことが私の長所ゲルニカよ

鈍行で通過列車のお見送り

たつぷりの生命を待つてブナの巨樹

水柱のプリズムきらきら春を待つ

終戦待つ武器より口で戦って

春を待つまだ空っぽのランドセル

冬木立小さな芽吹き春を待つ

角止まる盲導犬の凜々しさよ

バスを待つ私の横につくしの子

伝言板今はスマホで待ち合わせ

待つことが僕を大人に変えました

再婚へ待ったをかけた子の寝顔

待つ人を亡くしてから素顔です

待ち合いの椅子も侘しき過疎の駅

冬耐えて耐えて球根春を待つ

ねこ柳春待ちきれず光りだす

兵庫 稲角 優子

高知 立花 末美

奈良 小金澤貫一

奈良 太田のりこ

山口 中前 幸子

大阪 久保田清美

大阪 牧田 成子

大阪 原田真理子

兵庫 東久保真弓

大阪 島田千鶴子

神奈川 岡本 昌代

兵庫 梶谷 和郎

山口 平田 実男

三重 御堂美知子

広島 吉永 団風

大阪 山野 寿之

大阪 柴本 ばっは

待ってても平和はやって来ぬと知る
待つことに慣れたキリンの長い首
太陽は僕の元気を待っている
どの風も待っててくれる妻がいる
豪雪の下で新芽待つ命

プーチンの凶行天の裁き待つ

世界中の人が終戦待っている

待つことに疲れた母が小さくなる

殺し合う愚に気づくのは何時だろう

被災地の配給を待つ寒い列

銃捨ててる日を待ち望む世界の目

さてどこで待とう本屋の消えた街

四年待つ新人生がマスキなし

待つことに慣れてしまった地蔵様

思い出が今日も待ってる無人駅

待ち焦がれアンモナイトは石になる

澄んだ瞳は停戦を待ち侘びる

九条を活かす政治の潮目待つ

年金を土偶のような顔で待つ

追い風を待つ左遷地の千切れ雲

座敷わらしがきつと待ってる亡母の里

曲がり角で待っていたのは鬼だった

兵庫 田中おさむ

茨城 樫村 日華

島根 田中 堂太

愛知 中村 鈴子

兵庫 則未美代子

大阪 川本 信子

三重 戴 けいこ

兵庫 吉村めぐみ

奈良 下村 郁子

鳥取 前田 楓花

山形 菊地 暁子

三重 橋倉久美子

大阪 田原 康雄

鳥取 西浦 小鹿

奈良 居谷真理子

大阪 三倉 準

広島 若山 宗彦

大阪 近藤 正

愛媛 松本 慎吾

広島 笹重 耕三

大阪 西出 楓楽

和歌山 木本 朱夏

月明かり母を待つ子の影法師

核の傘要らぬ世界を待つもぐら

戦争やコロナ終息待つ地球

保護犬が家族になる日待っている

セミの羽化七年待たせでも十日

貴方なら待つ身の辛さわかるはず

待ちましたアスパラガスの成長を

父が待つ無人駅に人影無し

陽だまりのベンチあなたを待っている

待つ妻にしばし並んで買う豚まん

待つのに慣れてしまった影法師

攻めるより家康を真似待ってみる

硝煙が消えたら白鳥が還る

Xの化学反応待っている

傷口を縫って小さな春を待つ

被災者の復興未だ待つ長さ

踏切が鳴ったそろそろ昼ごはん

デコボンの甘さ待っている冬で

今日も又平和な地球を待ち望む

地雷原麦のひこばえ春を待つ

戦争の終りを待っている平和

待つことも苦にならないと老いて知る

人類が待てど暮らせど来ぬ平和

待ってましたよ初めましてと柿の花

蛇口から湯の出るを待つ寒の入り

ひたすらに世界平和を待つキリン

待つことも愛と信じた神田川

待つことに耐えて大人になっていく

「もういいかい」閻魔に呼ばれ「まあだだよ」

お家では私の帰り妻が待つ

厳寒にトルコが耐えて春を待つ

ふる里の山菜が待つ母の味

一日に数本のバス本と待つ

人恋し貼り紙の待つ無人駅

思い出を乗せたバス待つ春帽子

雑魚の骨刺さったままで春を待つ

拉致の子の帰りを待っている桜

幸せにすると言われて待ちぼうけ

待つつもり無いのにそろり貧乏神

開かずの踏切 待てど暮らせど未だ開かず

ドヴォルザークとコロナ収束まっている

天国に夫待たせたまふ謳歌

山ひとつ越えて勝訴の文字が待つ

どの舟か沖のイカ釣る父を待つ

愛知 彦坂 石転

愛知 小松くみ子

大阪 田中ゆみ子

奈良 大内 朝子

兵庫 村松 久江

奈良 山田 順啓

奈良 長谷川崇明

広島 酒井日出夫

茨城 齋藤 松雄

広島 俵 逸子

滋賀 子林まゆみ

広島 福澤ちずこ

岐阜 喜多村正儀

大阪 折田あきこ

大阪 中山 春代

兵庫 敏森 廣光

兵庫 丸山 孔一

東京 宮本彩太郎

奈良 西澤 知子

石川 藤村 容子

兵庫 平松 直樹

福岡 坂本 弘子

帰らないひとを待つてる走馬灯

君が待つ一本松は青々と

ああやっと三年ぶりの祭り笛

被爆国核廃絶を待ちあぐむ

高齢化もう待てません拉致家族

待ちつづけて一本桜になった

豊潤な朝ドリップの落ちるまで

春さなか風と会話の無人駅

開通を待ちに待ったぞ只見線

退院をずっと待つてるカレンダー

童謡を歌う日を待つウクライナ

五ヶ月も入院の妻会えず待つ

日本海母が家族が今日も待つ

ラーゲリの帰還を待った白い骨

待つことを覚えた母の顔になる

ささくれた地球が丸くなる明日

戦争地震世界平和を待ち焦がれ

「もういいかい」土の中から芽吹く声

人間ドックまだかまだかと待つ結果

もうたくさんこけしの顔で待つことに

帰らずによかった空にオリオン座

待つことは私の美学だったのに

愛媛 黒田 茂代

大阪 内田志津子

青森 三浦 幸子

鳥取 後藤美恵子

大阪 鈴木 栄子

岡山 丹下 凱夫

愛知 猫田千恵子

大阪 藤田 武人

兵庫 田吹 宗鉄

岐阜 板山まみ子

兵庫 緒方美津子

大阪 谷口 東風

鳥取 川口 亜矢

大阪 井澤 壽峰

大阪 神田 良子

大阪 石田 孝純

和歌山 上田 紀子

兵庫 竹山千賀子

兵庫 櫻井 崇史

青森 佐藤 雅秀

高知 瀬戸海 恵

兵庫 上田ひとみ

雪津軽春まで辛い辛い胸

戻らない人を待つてる過疎の花

母ひとりふるさとで待つ子の帰省

ちぢんじまったよお前さんを待つて

拉致の娘を待つて待つてと待たされて

秀 句

樹木葬やとさくらが咲きました

廃炉まで見届けるためある暦

プーチンが頓死するのを待つて

ただいまと大きな声で言ってみる

鳩が飛ぶ日常を待つウクライナ

岸壁に拉致の娘を待つ母も老い

待つことの楽しさ知っている昭和

ひまわりがひたすら待つている平和

辛夷の下で待つて下さいすぐに行く

まだですか誰も泣く子の居ぬ平和

特 選

人間がいなくなるのを待つ地球

暗闇の彼方に待つている光

軸 吟

喜寿の背を切る白鳥の北帰行

青森 稲見 則彦

兵庫 北澤 稠民

宮崎 恵利 菊江

青森 高瀬 霜石

大阪 平松かすみ

大阪 柴田 桂子

福島 浅野さやか

鳥取 新家 完司

大阪 木見谷孝代

鳥取 門村 幸子

大阪 太田 昭

広島 小島 蘭幸

鳥取 木天 麦青

奈良 阪上 好生

茨城 佐瀬 貴子

広島 村田 幸夫

奈良 菱木 誠

待 つ

木 本 朱 夏 選

サクラ待つランドセルビーアンビシヤス 大 阪 石 田 孝 純

春待ちのハローワークの列にいる 愛 媛 正 岡 鏡 花

待つてましたよ初めましてと柿の花 愛 知 小 松 く み 子

誰を待つ水仙ひたすら凜として 愛 媛 田 中 な お

春の蓄いつ咲こうかと待つている 大 阪 片 山 か ず お

定刻に行くといんなが待つていた 奈 良 山 田 恭 正

三年間待つたマスクのない笑顔 岩 手 鷹 髯 閔 雄

脱マスクお待たせしたと東風招く 奈 良 安 福 和 夫

朝の目覚め八分音符が鎮座する 青 森 高 橋 せ い 子

一瞬へハシビロコウの待ちっぶり 愛 媛 栗 田 忠 士

エサを待つ盲導犬の爪の垢 兵 庫 裕 木 る い

行儀良く片膝を付く次の打者 東 京 植 竹 団 扇

待つよりはすぐに自分でやるタイプ 鳥 取 後 藤 宏 之

待つという文化が消えたデジタル化 京 都 荒 木 康 博

3分で時代をかえたカップ麺 千 葉 柴 垣 一

三分が待てぬ忙しくもないが 愛 知 金 子 美 千 代

待つてるよ行けたら行くという息子 大 阪 中 山 春 代

無理をして来なくていいと母は待つ 大 阪 助 川 和 美

子の来るを素振りも見せず待つている 奈 良 高 橋 敬 子

婿殿に待つてましたと二合瓶 広 島 吉 永 団 風

待つことを楽しんでるかくれんぼ 広 島 羽 城 裕 子

来ぬ人待つ楽しさがまだ続く 大 阪 森 廣 子

じりじりと待たされた恋発芽する 大 阪 小 野 雅 美

一途に待つパンの耳をちぎりながら 京 都 山 本 昌 乃

待つことはせめて私のボランテニア 大 阪 桑 原 す 代

ずっと待つてるでもノックぐらいいはしてね 大 阪 大 島 と も こ

一つだけ灯りを残し先に寝る 青 森 北 山 ま み どり

目を閉じて心無にする時を待つ 埼 玉 久 保 田 千 代

待ち焦がれアンモナイトは石になる 大 阪 三 倉 準

待つて待つて路傍の石になつた愛 兵 庫 長 島 敏 子

待つて待つて光をためている螢 北 海 道 高 橋 み ち ち ょ

人恋し宵待草の待ち受けは 大 阪 杉 山 フ ジ 子

樹木葬やつと桜が咲きました 大 阪 柴 田 桂 子

川上の桃を待つてた老夫婦 大 阪 柴 本 ば つ ば

指切りのまんま半世紀が過ぎた 大 阪 中 川 千 都 子

この胸に戻ってくると磨く鍋 兵 庫 上 田 ひ と み

待つてれば猫も夫も戻ります 大 阪 川 島 千 恵 子

小松菜も主婦も一雨待つている 大 阪 太 田 扶 美 代

大切な人待つ雨も降つて来た 広 島 岩 本 笑 子

待てば良い夢は天から降りてくる

いつか来る僕の時代を待っている

時を待て君の出番がきつと来る

好運は待ってはいない掴むのだ

後悔と期待を繋ぎ明日を待つ

待つのもいいが失敗だつていいじゃない

激論の果ては夜明けを確と待つ

夜明けまで温め合つて待ちましよう

虫の知らせに今か今かと待っている

整然と並んで蜘蛛の糸を待つ

待ち侘びる百花繚乱 春津輕

待ちわびるハートに昼も夜もない

春を待つアドレナリンが落ち着かぬ

傷口を縫つて小さな春を待つ

普段着で春を静かに待っている

雑魚の骨刺さつたままで春を待つ

春風を待つて腕立て伏せです

追い風を待つて欠かさぬ羽繕い

地雷原麦のひこばえ春を待つ

彼の国へ麦が熟れる日笑える日

ヒマワリの笑いを待っている大地

もう待てぬ銃を捨てろとムンクの絵

兵庫 竹山 昭治

大分 坂本 一光

兵庫 永田 紀恵

大阪 平賀 国和

大阪 柿花 和夫

愛知 三好 光明

愛媛 山内 房子

大阪 岡本 悠

奈良 山本 昌代

愛媛 永井 松柏

青森 福士 慕情

広島 田辺与志魚

愛知 小出 順子

奈良 更谷 風見

高知 辻内 次根

大阪 折田あきこ

奈良 西澤 知子

愛知 木原 恵子

青森 阿部 治幸

埼玉 渡辺 梢

東京 齋藤由紀子

兵庫 緒方美津子

平和待つ民にミサイルなお無慈悲

善を積む天国行きのバスを待つ

思い出を乗せたバス待つ春帽子

時刻表信じてひとりバスを待つ

着ぶくれのペンギンじつとバスを待つ

君の待つ街まで駅はあと一つ

君の瞳に私が映るまで待とう

銃口に愛をたつぷり詰めて待つ

花束のリボンの中で待つ返事

いつもこれきりにしようと待っている

待つてますスーパーマンで逢いに来て

待ち人は来ると神籤が法螺を吹く

彗星よドタキャンされるなよそつちは

かぼちゃの馬車待つて日長を持て余す

色鉛筆ならべて次の恋を待つ

赤くなるまで待つて下さいもう少し

毛糸帽へアドネーション待つ少女

終わりのないやればできるといふ呪文

待ち伏せの胸の鼓動を聞かれそう

その先で待つていますと影法師

世襲議員養殖場で餌を待つ

待つことに寛容まめな日本人

大阪 水野 黒兎

鳥根 相見 柳歩

岐阜 喜多村正儀

兵庫 山田 耕治

神奈川 岡本 昌代

奈良 杉浦 三智

大阪 片岡 加代

大阪 鈴木 かこ

茨城 石塚 芳華

兵庫 糺谷 和郎

広島 安部 敦子

愛媛 川上ますみ

青森 佐藤 雅秀

新潟 相田 柳峰

兵庫 横田 次郎

奈良 安土 理恵

大阪 原田 正士

奈良 大久保眞澄

奈良 上田 幸一

奈良 木嶋 盛隆

奈良 東 定生

大阪 佐々木満作

方舟の着くのを待っている彼岸
 たそがれの絵に待つ人がある薄明かり
 年金を土偶のような顔で待つ
 じつと待つやがて私も澄んで来る
 廃線の枕木いまも汽笛待つ
 待ちなさい今は動くと誤解生む
 一本の木になって待つ世紀末
 待ち時間敵は私の中にある
 待っていて欲しい絶対光るから
 やることはやったと春を待つ軍手
 もう後がないぞ 内角球を待つ
 切り札は封も切らずに待っている
 座して待つより斬り込んでいく果敢
 起承転結最後に待っていた刺客
 追い越せといつも待ってた父の背
 ごめんねを待ってるママは信じてる
 カミさんに服でもと待つ年金日
 待ち合わせ梅田わかるかお母さん
 座敷わらしがきつと待ってる亡母の里
 廃炉まで見届けるためある暦
 暗闇の彼方に待っている光
 浮き上がるまでゆっくりと待っている

岡山 丸山 威青
 大阪 山本希久子
 愛媛 松木 慎吾
 大阪 吉道あかね
 兵庫 稲角 優子
 大阪 藤村 亜成
 高知 森下 菊
 鳥取 平尾 正人
 青森 三浦 幸子
 大阪 初代 正彦
 岡山 八木五十八
 島根 田中 堂太
 大阪 土田 欣之
 愛媛 西田美恵子
 兵庫 敏森 廣光
 大阪 栃尾 奏子
 島根 中筋 弘充
 大阪 青木ゆきみ
 大阪 西出 楓楽
 福島 浅野さやか
 奈良 菱木 誠
 大阪 平井美智子

胎内で静かに待っている未来
 体内の海ゆらゆらと待ちぼうけ
 夕暮れに人待つ癖が直らない
 死神を待たせ書いてる遺言書
 人間がいなくなるのを待つ地球

秀 句

二億年前から君の愛を待つ
 戦争が終るのを待つ光熱費
 産めよ増やせよ戦場が待っている
 幸せの順番今も待っている
 どうせ待つつもり一冊入れて行く
 さてどこで待とう本屋の消えた街
 たましいは町のはずれの待ちぼうけ
 待たれても僕の心はそこに無い
 ちぢんじまったよお前さんを待つて
 永遠を待ちわびている旅人よ

特 選

スマホなんてなかったいつも待っていた
 停戦を地獄の淵で待っている

軸 吟

100年を待つて路郎に逢えました

東京 伊藤三十六
 佐賀 真島久美子
 大阪 中村 恵
 兵庫 野口真桜子
 広島 村田 幸夫
 岡山 藤井 智史
 岐阜 板山まみ子
 兵庫 藤井 宏造
 大阪 廣田 和織
 大阪 古今堂蕉子
 三重 橋倉久美子
 高知 岡林 裕子
 千葉 山崎 智
 青森 高瀬 霜石
 大阪 栗原 道夫
 広島 小島 蘭幸
 鳥取 中村 金祥

自由吟

樋口 由紀子 選

風にまで声をかけたいいい気分

天国へ届く手紙が書けたなら

散歩道びよこびよこ春が生まれてる

パン種がふくれる生きているんだなあ

暑いなあ寒いなあとで日が過ぎる

山門に立っている楊貴妃目線

人間はいらんと地球言っている

心にもたまには欲しい甘いもの

梅の香がポニーテールに融けて春

不都合はみんな加齢のせいにして

本を読むことが大好き本を読む

ちよっとだけ地球を借りる吾が命

コンビニでぶつきらぼうのチョコレート

ポリシーを問われ野暮ねとミズクラゲ

へらへらもします弱者の生きる道

人情の弱さに耐える紙コップ

崩さないように絵本を積む平和

鳥取 岡崎美知江

大阪 小野 雅美

奈良 大内 朝子

大阪 田中ゆみ子

広島 常國 喜好

鳥根 古浦 青帆

大阪 廣田 和織

広島 福澤ちずこ

奈良 稲葉 良岩

奈良 安土 理恵

大阪 鈴木いさお

広島 村上 和子

大阪 森田 旅人

愛媛 川上ますみ

広島 村田 幸夫

奈良 澤山よう子

青森 佐藤 雅秀

メジロ来て「春だはるだ」と言いふらす

無いものを数えぬようになつて春

億光年宇宙の果てより来る調べ

春夏秋冬いつもせいっぱいの汗

長靴を待っていますと水たまり

いつまでも揺れておきたいやじろべえ

残り時間とても気にしている鏡

右に愛左に勇氣持つ拳

福寿草長く元気に咲き続け

身勝手な猫と暮らして癒される

デコボンという気の毒なネーミング

大地震来る来る詐欺というなかれ

思い切り笑う話に飢えている

天かすをぶっかけ横綱になった

黒猫はひらりと未来へと消えた

断捨離をして老後をさみしくする

透き通るまで哀しみを混ぜている

逢いたくて般若心経張り上げる

守るものあつて両手に剣と銃

「喜」も「楽」も忘れて「哀」に「怒」の介護

正論と思う嫌だなとも思う

理不尽な風とも出会う街の角

愛知 小出 順子

高知 辻内 次根

大阪 岡野 圭

岩手 鷹觜 閔雄

奈良 木嶋 盛隆

大阪 青木ゆきみ

大阪 太田扶美代

鳥根 田中 堂太

兵庫 住吉美和子

和歌山 柏原 夕胡

大阪 西出 楓楽

愛媛 正岡 鏡花

奈良 松本 柊子

岡山 藤井 智史

広島 小島 蘭幸

山口 坂本 加代

大阪 平井美智子

大阪 酒井 紀華

奈良 たかだまさじ

奈良 長谷川 崇明

福島 安藤 敏彦

岐阜 喜多村 正儀

動かしてごらん背骨が喰うから
 胡桃割るわたしの脳はこれくらい
 歳月とハグする後期高齢者
 頑張つて来ましたもうくたくたです
 とつておきの自分に会えるうれしい日
 すり傷が絶えぬ愉快な曲がり角
 神様も時に失敗するのです
 トンネルの出口で不意に花吹雪
 辛くてもすべて一人でボタン押す
 冷たい男と言う冷たい女
 4日5日9日10日とはしごとでお参り
 七つ道具いつも使うの一つだけ
 人の名がすんなり出ないでも笑顔
 かかったかかからないかですむコロナ
 丸盆に載せて運んでいく社交
 鬼も内豆にイワシに恵方巻
 自分史を持て余す日のマヨネーズ
 核心を突かれて伸びるガムテープ
 お賽銭三回分の初詣で
 足踏みをやめると空が落ちてくる
 笑い過ぎましたお腹が減ってきた
 お隣の車も軽に替えはった

埼玉 久保田千代
 和歌山 木本 朱夏
 広島 鴨田 昭紀
 大阪 大島ともこ
 大阪 北川ヤギエ
 広島 笹重 耕三
 兵庫 石賀 邦子
 大阪 島田 明美
 愛媛 田中 なお
 島根 原 徳利
 奈良 樋浦 桜竜
 兵庫 斎藤 隆浩
 大阪 川島千恵子
 熊本 杉野 羅天
 大阪 森井 克子
 兵庫 長川 哲夫
 高知 立花 末美
 愛媛 浜本 光子
 兵庫 宗 和夫
 神奈川 加藤ゆみ子
 和歌山 川上 大輪
 大阪 錦織 久

正体を明かさぬ貝が踊る海
 百年もたてばみーんないなくなる
 星三つあげたい妻のゆで卵
 納骨や詩の匂いする雨上がる
 L・O・V・E 寒桜山桜
 戒名を残して軽い軽い骨
 クエスチョンマークが今日も追つて来る
 まつすぐに立っていますね素敵です
 昔からなんて言うけどいつからや
 不眠症の猫は夜ごとに月舐める
 ゴルフが下手で野球の上手い人もいる
 二重跳びできたよお日様も笑顔
 指二本立てた写真は笑つてる
 のんびりと昭和平成令和生き
 ア行からサ行どうするオピニオン
 外は雪答えに迷うこともない
 淀川のクジラが空を飛べたなら
 しあわせと思えばしあわせになれる
 古稀以上米寿未満のフラダンス
 鬼さんこちら手の鳴る方が分らない
 キッチンの流儀でもめる主婦と主夫
 悪口を偏西風に乘せている

大阪 森 茂俊
 兵庫 羽奈 和子
 大阪 青木 隆一
 大阪 久保田清美
 佐賀 真島美智子
 大阪 土田 欣之
 東京 伊藤三十六
 北海道 高橋みつちよ
 大分 坂本 一光
 高知 森下 菊
 三重 毎熊伊佐男
 大阪 初代 正彦
 大阪 山衛守 孝
 兵庫 堀 正和
 愛媛 大葉美千代
 青森 小山内真由美
 兵庫 八木 幸彦
 大阪 きとうこみつ
 大阪 宮本千恵子
 広島 安部 敦子
 大阪 中山 春代
 香川 大高 正和

近くまで来たと閻魔が戸を叩く
結果オーライ落し蓋から声がした
角砂糖あきらめるのは早すぎる
マジックのように円が消えていく
バンザイの「ン」のあたりでうれし泣き
モノとコトの狭間で悩み出す言葉
拳骨で極めた技が生かされる
なんだかいね君と満月みています
怒るのは止めふんわりのシャボン玉
裏階段抜けて天下を語ってる
手を上げて背伸びしてからさあ行こか
赤紙が若者拉致し武器にした
躰いて拾ってしまった癩の種
ひっこ抜くコルク二度とは戻らない
まだ笑い足りない乾燥注意報
前をゆく髑髏のシャツに睨まれる
冷蔵庫覗くと見えてくる老後
高速の出口カラメルソース味
雪だるま溶けかけている帰り道
妻の留守一人芝居をして過ごす
惚れられた昔の顔で生きてます
うさぎつくお餅を食べに月旅行

奈良 大久保真澄
岡山 永見 心咲
青森 北山まみどり
鳥取 池田 美穂
奈良 林 ともこ
鳥取 平尾 正人
大阪 油谷 克己
奈良 西澤 知子
兵庫 小山 紀乃
大阪 川端日出夫
兵庫 丸山 孔一
兵庫 北浦三ツ代
茨城 渡邊 妥夫
愛媛 大内せつ子
青森 瀧尻 善英
兵庫 岡田 経子
大阪 坂本 星雨
島根 石橋 芳山
宮崎 恵利 菊江
大阪 片山かずお
大阪 穂口 正子
大阪 上出 修

焦るまいすぐに信号青になる
はみ出した両面テープ下廻上
曖昧な雲にこころは話せない
父百歳紋付袴シャンと付け
夕飯に煮豆この平凡を守りたい

秀 句

「どっこいしょ」日に八回と決めてある
ウーバーの誤配山羊から来た手紙
日向ぼこ糖質ゼロの顔をして
楽しくて長生きしたくなっている
しゃぼん玉思った以上に遠い空
いつ、どこで、どうして、なくしたのか羽根
真ん円い物が四角に見えてくる
蛇口から水ほとばしらせる気持ちいい
六ペンスあればこの世はホーホケキョ
玉手箱の煙のような句はないか

特 選

麒麟の首画いて逆立ちする男
青空へカレーうどんの汁が飛ぶ

軸 吟

ブランコとジャングルジムは違います

奈良 嶋 慎一
岡山 目賀 和子
兵庫 竹山 昭治
大阪 柴本ばつは
鳥取 狭武 紫陽
青森 稲見 則彦
岡山 八木五十八
広島 新庄 芳春
大阪 小川賀世子
広島 羽城 裕子
青森 高瀬 霜石
大阪 西沢 司郎
鳥取 池澤 大鯨
島根 星出 冬馬
大阪 桑原 道夫
愛媛 西村 寛子
大阪 宮井いずみ

自由吟

小島蘭 幸選

不運語り出すと雨が降ってくる
会いたいね今年は会える予感する

妥協案心をひとつ売りました

芯からの笑いに飢えていて寒い

棚田米元氣な父母の贈り物

五七五は悟りへの道苦吟する

いい言葉心の庭に移植する

「どっこいしょ」日に八回と決めてある

妻の留守一人芝居をして過ごす

あなた逝きわたしは糸の切れた風

それなりに老いのアンテナ微調整

アイシテルしょっちゅう言うてはいけません

味噌とどく母の真つ赤な手が浮かぶ

惚れられた昔の顔で生きてます

若者が嫌う昭和のいい話

言葉にもドレスを着せているおしやれ

今日という扉は誰にでも開く

大阪 岡本 悠
神奈川 加藤 佳子

大阪 廣田 和織

茨城 佐瀬 貴子

埼玉 根岸 方子

大阪 平賀 国和

兵庫 北澤 稠民

青森 稲見 則彦

大阪 片山かずお

岡山 黒岩 博美

大阪 初代 正彦

兵庫 中岡千代美

大阪 渡辺 晶子

大阪 穂口 正子

鳥取 竹村紀の治

岡山 井上 富子

和歌山 三宅 保州

連弾で老いの調律しています

時間たつぷりがストレスになる走り性

目論見が外れてほっと酒呷る

天国へ届く手紙が書けたなら

月おぼろ銀の傘さす相聞歌

過去の蓋たまには開けて目を洗う

楽じゃないけれど八十路を楽しむわ

コロナ下も土手の土筆は背くらべ

生後五ヶ月倍速で宙をける

世話をする汗は見えないところで咲く

何もかもネット迷子のアナログ派

三歳のアフレコしたのは米寿

陽だまりになつてあなたを守りたい

命には貴賤などない筈なのに

ほころびた夢さえ縫ってくれた妻

キリンの首画いて逆立ちする男

家により違う常識のものさし

セピアの森にわたくしの秘密基地

飛行機雲父に呼ばれてゆくように

蟻の列飽かず眺めているひと日

散るバラの美学に神の時刻表

怒るのは止めふんわりのシャボン玉

宮城 菅野 實

広島 土居 直子

東京 金城風見子

大阪 小野 雅美

北海道 番匠甚五郎

兵庫 富永 恭子

大阪 石橋 直子

大阪 増原 文子

千葉 日下部敦世

新潟 相田 柳峰

広島 村上 和子

大阪 谷口 東風

兵庫 上田ひとみ

大阪 藤原 太子

大阪 吉村久仁雄

愛媛 西村 寛子

大阪 年梅 道子

山口 中前 幸子

奈良 阪上 好生

大阪 鈴木いさお

鳥根 星出 冬馬

兵庫 小山 紀乃

悪役のままで吠えてる甘えてる

許すとはゆっくり溶けていく氷柱

風まかせなれど信念曲げずいく

国訛り潮の香りを連れて来た

当たり前って奇跡なんだと手を合わす

バーベキュー囲み肉食獣となる

今日のボクたんくたんつと折り畳む

亡母の味と比べてしまう豆ごはん

振り返る轍薔薇色・萌黄色

優等生たまごの乱に泣かされる

香典の辞退で義理が返せない

マスク外してお出なさいと春が呼ぶ

人間が楽しくなつて輪に入る

触れられて解る自分という形

風化する海馬に残る幼き日

悪女から主婦に変身エコバッグ

夫婦の会話認知テストを兼ねている

着信スルー波風なんぞ立てませぬ

冷蔵庫覗くと見えてくる老後

生きてきたように死ぬんでしょきつと

信用と言う財産を子に譲る

至福なりモソモソ払暁の佗び茶

大阪 高杉 力

愛媛 山内 房子

鳥取 川口 亜矢

奈良 谷川 憲

兵庫 梅澤 盛夫

東京 宮本彩太郎

愛知 青砥 和子

青森 石澤はる子

大阪 井澤 壽峰

愛媛 鈴木 郁子

三重 戴 けいこ

奈良 大西 將文

大阪 太田 昭

大阪 中村 恵

愛知 木原 恵子

大阪 片岡 加代

兵庫 上田 和宏

大阪 美馬りゅうこ

大阪 坂本 星雨

奈良 居谷真理子

山口 平田 実男

青森 高橋せい子

ニューデールも神風吹かぬこの日本

SNS火薬庫への導火線

結び目があるので羽化ができません

仮の世を生きる折りを深くして

水面キラキラ恨み辛みはもう時効

天地無用こわれものには愛がある

肝胆の男に結ぶ酒

お隣の車も軽に替えはった

水たまりが跳べた素顔になりました

損得になるとあの人消えている

笑顔ぬつくり母おもわせる人でした

点描画だんだん君が見えてくる

丁寧に掃くこの道しか知らず

少しはやけた写真はきつと思いやり

梅が咲くりハビリがんばつてますか

老友よ一人で飯は炊けてるか

眉上げて生きろよドリアンのように

星三つあげたい妻のゆで卵

積ん読を崩して夢追い人になる

コロナ禍を良いバネにして踏み出した

ときめいた君に寄り添い杖となる

あきらめぬ人が紡いでいる金糸

兵庫 宮本 緑

大阪 原田 正士

佐賀 真島久美子

愛媛 黒田 茂代

兵庫 長島 敏子

岡山 八木五十八

大阪 土田 欣之

大阪 錦織 久

大阪 柴田 桂子

福井 石谷 恵子

広島 米田 恵子

神奈川 加藤ゆみ子

大阪 山本希久子

大阪 吉道あかね

岡山 大石 洋子

茨城 樫村 日華

鳥取 森山 盛桜

大阪 青木 隆一

東京 齋藤由紀子

大阪 内藤 憲彦

奈良 中森 勝代

大阪 古今堂蕉子

ノーブルなあの子息子のお嫁さん
魑魅魍魎従え母は百を越す

正解は無いからわたし自然体

元カレの名前は鏡文字で書く

ポジティブな自分に戻す愛読書

星屑のスコールひとりテント泊

残り時間とても気にしている鏡

赤紙を知らぬやからの自衛論

八十路まで歩んだ道がとても好き

義姉逝く三年振りの里は雨

神さまに叛いたことのある十指

虹色のゼリー夜汽車を見送った

青い空だけでは答えにはならぬ

ノーモアとロシアへ百万回メール

笑い過ぎましたお腹が減ってきた

終ったはずの恋にシッポが生えてくる

瞼とじ私一人の映画祭

不可侵条約を夫婦でも結ぶ

無いものを数えぬようになって春

透き通るまで哀しみを混せている

宇宙人地球へ移住やめにした

母はまだ僕を忘れていなかった

兵庫	京都	大阪	高知	鳥取	奈良	島根	和歌山	広島	岡山	佐賀	福岡	岡山	大阪	大阪	大阪	鳥取	山形	青森	愛媛	奈良	茨城
藤井	武田	平井	辻内	後藤	山田	清水	川上	吉川	丹下	真島	山下	工藤	原	柿花	太田	斉尾	菊地	須藤	柳田	下村	磯
宏造	悦寛	美智子	次根	宏之	恭正	美智子	大輪	美佐子	凱夫	美智子	華子	千代子	幸子	和夫	扶美代	くにこ	暁子	しのすけ	かおる	郁子	菊枝

ポリシーを問われ野暮ねとミズクラゲ
古稀以上米寿未満のフラダンス
車椅子押すと性善説に会う
すり傷が絶えぬ愉快な曲がり角
胸キュンとするふわふわな人でした

秀

右に愛左に勇気持つ拳

まっすぐに立っていますね素敵です

孤独死のメモ書きにあるありがとう

震災がロシアであったならと ふと

まだ恋ができそう 星を見て泣ける

廃村の水平線にある海市

胡桃割るわたしの脳はこれくらい

真実もちよつぱり混ぜておく自伝

いつ、どこで、どうして、なくしたのか羽根

貝殻か男の耳か春の浜

特

逢ってきた余韻でしばらくは生きる

断捨離をして老後をさみしくする

軸

北斎の波サーファーが現れる

大阪	広島	大阪	愛媛
北川	笹重	宮本	川上
ヤギエ	耕三	千恵子	ますみ

島根
田中
堂太

北海道
高橋
みつちよ

長崎
吉田
耕一

兵庫
井上
高島

三重
青砥
たかこ

東京
上原
稔

和歌山
木本
朱夏

広島
常國
喜好

青森
高瀬
霜石

大阪
中川
千都子

三重
橋倉
久美子

山口
坂本
加代

第11回 春の川柳塔まつり誌上大会参加者

総数 595名
(都道府県別・敬称略)

【北海道】		東 考矢	加藤 晃	小原 正路	海東 照江	櫻村 日華	島田千代子	西谷 公造	
高橋くるみ		高橋みつちよ	番匠甚五郎	齋藤 松雄	佐瀬 貴子	東行 小師	【岐 阜】	板山まみ子	喜多村正儀
三浦 強一				藤井 杏樹	渡邊 妥夫		【長 野】	武田 香風	宮尾 柳泉
【青 森】		阿部 治幸	石澤はる子	【埼 玉】	久保田千代	中島 通則	【静 岡】	渥美さと子	佐野由利子
稲見 則彦		小山内真由美	北山まみどり	根岸 方子	前田 洋子	山田こいし	竹平 和枝	鶴見美佐子	中田 尚
古木 ひろ		さいとうみき	佐藤 雅秀	渡辺 梢			船木 正子		
佐藤寿見子		滋野 さち	須藤しんのすけ	【千 葉】	勝又 康之	日下部敦世	【愛 知】	青砥 和子	金子美千代
相馬つよし		高瀬 霜石	高橋せい子	柴垣 一	中嶋 常葉	山崎 智	木原 恵子	小出 順子	小松くみ子
瀧尻 善英		千葉かほる	成田 我楽	【東 京】	伊藤三十六	井上つよし	佐藤ちなみ	関本かつ子	高浜 広川
福士 慕情		三浦 幸子	和山 信	植竹 団扇	上原 稔	上村 脩	竹内そのみ	竹尾 眞弓	富田 末男
【岩 手】		佐々木るみ子	鷹觜 閔雄	川本真理子	金城風見子	齋藤由紀子	中村 鈴子	猫田千恵子	彦坂 石転
【宮 城】		太田 良喜	大久保もとじ	宮本彩太郎	森 沙恵子		三好 光明	山本三樹夫	
菅野 實		木田比呂朗	佐藤 俊幸	【神奈川】	相原あやめ	岡本 昌代	【三 重】	青砥たかこ	池田 金一
【秋 田】		田村美穂子		加藤ゆみ子	加藤 佳子		戴 けいこ	竹島 晃	橋倉久美子
【山 形】		菊地 暁子		【新 潟】	相田 柳峰		広森多美子	毎熊伊佐男	御堂美知子
【福 島】		浅野さやか	安藤 敏彦	【富 山】	松本 春子		森 久雄	吉福万利子	
菊田 信子				【石 川】	新保 芳明	藤村 容子	【滋 賀】	宇野 弘子	子林まゆみ
【茨 城】		赤木 恵	石川二三男	堀本のりひろ			畑野とし子		
石塚 芳華		磯 菊枝	大森みち子	【福 井】	石谷 恵子	伊藤 良一	【京 都】	荒木 康博	北野クニオ

久保田清美	桑原すゞ代	桑原道夫	藤井則彦	藤岡笑三	藤田武人	久保木剛	久保田友和	九村義徳
きとうこみつ	木見谷孝代	久世高鷲	平賀国和	平松かすみ	廣田和織	北浦三ツ代	北澤稠民	北野哲男
神田良子	岸井ふさゑ	北川ヤギエ	原田正士	原田真理子	平井美智子	奥澤洋次郎	長川哲夫	尾畑操
川端一歩	川端日出夫	川本信子	年梅道子	原幸子	原田すみ子	大西重男	岡田経子	緒方美津子
片山かずお	川口明	川島千恵子	西出楓楽	西野敏美	西村哲夫	梅澤盛夫	大北良裕	太田としお
柿花和夫	榎葉良子	片岡加代	西上遊二	錦織久	西沢司郎	岩崎光子	上田ひとみ	上田和宏
荻野浩子	小野雅美	折田あきこ	中島一彌	中村恵	中山春代	伊藤義幸	稲角優子	井上高島
岡本悠	小川佳恵	小川賀世子	長尾千賀	中川彰一	中川千都子	【兵庫】	石賀邦子	井口と志女
太田扶美代	岡田恵子	岡野圭	富田保子	内藤憲彦	中井佳子	米澤俣子	渡辺晶子	
大島ともこ	太田昭	太田省三	津守柳伸	出口セツ子	栃尾奏子	吉道あかね	吉道航太郎	吉村久仁雄
榎本舞夢	大浦初音	大浦福子	丹後屋肇	辻部さと子	土田欣之	山本希久子	雪本珠子	横山里子
内田志津子	宇都満知子	江島谷勝弘	谷口東風	田原勝弘	田原康雄	山仲庸郷	山野寿之	山野双葉
風鈴草	上出修	上西啓仁	田中そうや	田中廣子	田中ゆみ子	山内規子	山衛守孝	山崎達彦
今村和男	井丸昌紀	入江秀雄	高杉力	竹中キークー	竹村穩夫	両澤行兵衛	矢倉五月	安田忠子
伊藤恵子	石丸美砂子	今井万紗子	鈴木栄子	鈴木かこ	銭谷まさひろ	森廣子	森井克子	森旅人
井澤壽峰	石田孝純	石橋直子	杉山フジ子	助川和美	鈴木いさお	宮本千恵子	三輪くにお	森茂俊
油谷克己	阿部俊八	池内恭子	島田明美	島田千鶴子	初代正彦	宮井いずみ	都武志	宮崎シマ子
秋田あかり	穂山常男	東敏郎	澤田悦子	柴田桂子	柴本ばっは	水野黒兎	南タカ子	美馬りゅうこ
【大阪】	青木ゆきみ	青木隆一	阪本秀子	佐々木満作	澤井敏治	松田蟻日路	松谷由夏	三倉準
吉本圭	坂裕之	酒井紀華	坂本星雨	松尾美智代	松岡篤	松島きよみ		
藤井文代	福井民雄	山本昌乃	近藤正	齋藤さくら	齋藤奈津子	穂口正子	牧田成子	増原文子
武田悦寛	寺島洋子	中西展代	源田八千代	古今堂蕉子	小山恵美子	藤塚克三	藤村亜成	藤原大子

梶谷 和郎 小梶 初美 輿水 弘

米田利恵子 小山 紀乃 斎藤 隆浩

酒井 宏 櫻井 崇史 澤 良子

澤 良兼 白川智恵子 相元 世津

鈴木 新録 住吉美和子 宗 和夫

竹山 昭治 竹山千賀子 巽 郁子

田中おさむ 谷口 修平 田吹 宗鉄

田本 古鈴 近兼 敦子 東久保真弓

敏森 廣光 富永 恭子 中井 楓華

中岡千代美 長島 敏子 永田 紀恵

丹羽 杏 野口真桜子 野口 龍

能勢 利子 則末美代子 萩原 正

萩原 狸月 羽奈 和子 濱邊稲佐岳

平松 直樹 藤井 宏造 藤井美智子

藤田 雪菜 藤村とうそん 堀 正和

前川 淳 横田 次郎 松下 英秋

丸山 孔一 みぎわはな 見山 夢子

宮本 緑 村田 博 村松 久江

八木 幸彦 矢野 野薫 山内 迪

山崎 武彦 山田 厚江 山田 耕治

山田美春日 山端なつみ 裕木 るい

吉田 佐知 吉村めぐみ

〔奈 良〕

安土 理恵

居谷真理子

大内 朝子

大西 將文

木嶋 盛隆

小金澤貫一

小林すみれ

澤山よう子

嶋 慎一

たかだまさじ

飛永ふりこ

長谷川崇明

菱木 誠

西澤 知子

山田 恭正

柚木 涼子

渡辺 富子

〔和歌山〕

加藤 智美

木本 朱夏

澄田 康則

饗庭 風鈴

安福 和夫

稲葉 良岩

大久保眞澄

勝部乃り子

栗原つや子

小中 繁子

阪上 好生

柴田 園江

下村 郁子

高橋 敬子

中堀 優

林 ともこ

藤原 清子

毛利 元子

山田 順啓

米田 恭昌

〔岡 山〕

上田 紀子

川上 大輪

倉橋 悦子

平松 栄次

東 定生

池田みほ子

上田 幸一

太田のりこ

加藤江里子

桑村 栄子

小林すみえ

更谷 風見

島岡美智子

杉浦 三智

谷川 憲

中森 勝代

樋浦 桜竜

松本 榎子

山下じゅん子

山本 昌代

余野美代子

〔鳥 取〕

柏原 夕胡

北原 昭枝

佐藤 まき

南方富美代

三枝眞智子

伊塚美枝子

小川健二郎

狭武 紫陽

後藤美恵子

新家 完司

田中 重忠

中原 章子

野川 宣子

前田 楓花

山下 凱柳

〔島 根〕

相見 柳歩

古浦 青帆

田中 堂太

星出 冬馬

浅野美代子

黒岩 博美

國米 和江

永見 心咲

藤澤 照代

目賀 和子

池澤 大鯰

大前 安子

門村 幸子

木天 麦青

斉尾くにこ

田内 和夫

鳥飼寿々子

中村 金祥

平尾 正人

宮田 風露

吉田 弘子

石橋 芳山

清水美智子

中筋 弘充

山根 雪代

市田 鶴邨

大石 洋子

高橋由紀女

原 脩二

丸山 威青

八木五十八

田中 なお	古手川 光	栗田 忠士	岡山フジエ	〔愛媛〕	〔香川〕	坂本 加代	〔山〕	若野 茂青	山本 恵子	村上 和子	福澤ちずこ	西村スミエ	豊田 芳香	常國 喜好	田桑 恵子	塩谷 邦子	小島 蘭幸	岸本 清	岩本 笑子	〔広島〕	吉原 信子
永井 松柏	鈴木 郁子	黒田 茂代	鎌田 昌子	大内せつ子	大高 正和	平田 実男	有海 静枝	若山 宗彦	吉永 団風	村田 幸夫	松尾 信彦	羽城 裕子	中野 妙子	土居 直子	田辺与志魚	新庄 芳春	酒井日出夫	北村 善昭	小川 道子	安部 敦子	
西田美恵子	曾我 明美	郷田 みや	川上ますみ	大葉美千代	藤本ゆたか	中前 幸子	上村 夢香		米田 恵子	矢島 敏秀	松本壽賀子	半田 知弘	西岡 信彦	渡田 慧水	俵 逸子	高橋 孝造	笹重 耕三	吉川美佐子	鴨田 昭紀	荒新 悠子	

「川柳たけはら」

800号突破記念誌上川柳大会

令和5年8月号で川柳たけはら誌は通巻800号を迎えます。これを記念して下記の要領で誌上大会を開催致します。

皆さまのご応募をお待ちしております。

課 題	「道」 2句詠
選 者	選者5名による共選 弘津秋の子 高橋土筆坊 栃尾 奏子 矢沢 和女 田中 新一
投句用紙	規定用紙（コピー可） ※応募作品はコピーをしますので、 ボールペン又は濃い鉛筆でお書き 下さい。
投 句 料	1000円（定額小為替） 作品発表誌呈
投句締切	令和5年10月10日（当日消印有効）
投 句 先	〒725-0022 竹原市本町1-14-3 小島 蘭幸 宛
賞	三才賞として竹原の地酒呈
発 表	「川柳たけはら」令和5年12月号
連 絡 先	小島 蘭幸 電話・FAX 共通 0846-22-6626
主 催	竹 原 川 柳 会

山下 華子	〔福岡〕	石田 耐	坂本 弘子	〔沖縄〕	〔宮崎〕	〔大分〕	〔熊本〕	〔長野〕	〔佐賀〕	西村 寛子	松木 慎吾	山内 房子	〔高知〕	瀬戸 海恵	森下 菊	田桑 恵子	小島 蘭幸	岸本 清	岩本 笑子	〔広島〕	吉原 信子
										浜本 光子	安野 光志	柳田 かおる	大野 美恵	立花 末美	海恵 菊	田辺与志魚	酒井日出夫	北村 善昭	小川 道子	安部 敦子	
										正岡 鏡花	柳田 かおる	裕子	岡林 裕子	辻内 次根	辻内 次根	新庄 芳春	酒井日出夫	北村 善昭	小川 道子	安部 敦子	
										真島久美子	真島美智子	西川 東岳	〔熊本〕	〔大分〕	〔宮崎〕	〔福岡〕	〔高知〕	〔長野〕	〔佐賀〕		
										坂本 蜂朗	坂本 蜂朗	仁部 四郎	松本 篤世	阪本ちえこ	柴田昭三郎	田桑 恵子	酒井日出夫	北村 善昭	小川 道子	安部 敦子	
										吉田 耕一	吉田 耕一	杉野 羅天	坂本 一光	坂本 一光	坂本 一光	田辺与志魚	酒井日出夫	北村 善昭	小川 道子	安部 敦子	

同人特集

私の好きな笑いの句

今治市 永井松柏

羽曳野市 三好專平

院長があかん言つてる独逸語で

須崎 豆秋

レントゲン笑った方がいいですか

磯本 洋一

「柳界の一茶」須崎豆秋最晩年の句。自らの死をも客観視し、独特のユーモアを交えて詠んでいる。「川柳雑誌」第409号への彼の最後の投句である。

ナースに会いたくて通院するというすつとほけた作者は、もう半分ヤケクソで言うのだ。どうせ自分ですうにかなる病気ではないではないか。どうぞ。

吹田市 太田 昭

熊本市 杉野 羅天

おとがいへマスクをずらす赤電話

橘高 薫風

マズルカへ拙者お相手仕る

橘高 薫風

正に現代の川柳である。赤電話の前に立ち、マスクを顎のところまでずらし、受話器を取る。何とも可笑ましい風景である。

色白美男子の薫風氏、俳優市川雷蔵を彷彿とさせる容貌でせまられたら若い女性はコロリと。先生の笑顔が零れるよう。余裕の笑いとても言おうか。

じいさんを刺すばあさんの言葉尻

川上三太郎

新兵器ある日使ってみたくなる

田中 正坊

唐津市 仁部 四郎

弘前市 高瀬 霜石

江戸川柳の笑いには時代というプリズムでアハハとなるものが多いが、現代川柳では、身につまされながらも観察の余裕でウフフということなのだろう。

高杉鬼遊さんが亡くなった後、僕が惚れたのは、正坊さん。最初は怖かったが、懐に飛び込むと、なんと優しい人でねえ。「苦笑いの句」の超一級品。

笠岡市 藤井智史

継続は力 毎日酒を飲む

澤井敏治

「これだったら私でもできそう」と言いたくなる一句。「酒は百薬の長」なので、少しでもあれば良いと思う。一字空けが物凄く効果がでている。

藤井寺市 鈴木いさお

家計簿は津軽海峡冬景色

谷口義

家計簿の赤字は主婦にとっては深刻そのもの。それをアツケラカンとヒット歌謡曲の題名とかけ合わせた絶妙の技法、笑わずにはおられない。

寝屋川市 廣田和織

母さんは西瓜の端が好きらしい

小林由多香

いわゆる笑える句とは少し違うが、母親の深い愛を感じさせる微笑ましい句だと思います。子もその愛を理解し感謝していると想像させる。

小島蘭幸川柳句集

『再会Ⅱ』

頒価 千円(送料共)

ご希望の方は川柳塔事務局まで

TEL 06-6779-3490

「川雑」語録 ⑱

川柳に於ける

デフォルム(変革性)ということ

大西野介

デフォルムの色彩を感じさせる川柳作品を示せば

天平の土にこぼれたウキスキー 翺骨

これは川柳塔に現れた翺骨氏の作品であるが、「天平の土」と「ウキスキー」との語感の距離から、美しい美しさを創造している。が、この表現されている現実は、作家の知性を通じて変革された現実であつて、表現以前の現実とは別の現実である。おそらく翺骨氏は奈良か、飛鳥あたりに遊ばれて、洋酒の滴を土にこぼされたのであろう。「奈良の土」や「飛鳥の土」では、この作品は藝術として成立し得ないだろう。「天平」への飛躍によつて、おほらかな、ゆたかな、うがちを持ち得たものと考えられる。

(「川柳雑誌」昭和28年1月)

「著名人川柳一言録」より

東野大八^{とうの だい はち}

「川柳雑誌」(昭和27年7月号)

天皇陛下(四国巡幸)

陛下は川柳というものが在ることはご承知です。しかしそのよさについては、さあどんなものですか、人間生活の深さのなかにこそ川柳のよさが判ると私は考えますしね。
(昭二五年侍従談)

檀 一雄(作家・当時満洲生必社員)

川柳はい、ねえ、しかし大概皮相的だ。これは詩を忘れているからだろう。
(昭一四年新京)

横光 利一(作家・華北視察)

俳句より胸を打たれることは数等上だ。リアリズムの迫力は夢より積極的で、それだけにまた哀しい、これが川柳だと思う。
(昭一八年北京)

川端 康成(作家・ハルピン視察)

悪くない、しかし川柳はどうかといわれると困る。
(昭一五年黄道河子にて)

石原 莞爾(将軍)

川柳は人間哲学だ、その意味で俳句より高く買っている。
(昭一二年新京)

林 芙美子(作家)

「居候三杯目にはそつと出し」い、句です。よく私は使いますよ川柳を、私の作品のなかでね、句ではなくてその表現様式を。
(昭一三年東京)

高峰三枝子(女優・ロケ)

下品できらい。
(昭一五年北京)

山口 淑子(女優・李香蘭)

古川柳の中で好きなのもありますが、川柳がどうといわれると返事に困ります、だつて考えたことないんですもの。
(昭一六年北京)

林 房雄(作家)

好きだね、たまらないところがある。元来

口の悪いボクはよく此れを持出してやるよ、時にはスゴク効くぜ。(昭一八年北京)

山口喜久一郎(政治家)

俳句より見事だね。選挙演説によく使う。これで二万票は稼いだと自負している。
(昭二五年八幡浜)

池部 良(俳優)

川柳の本を学生時分に買つて読んだことがある。酔つぱらつて即興でよく作りますヨ。
(昭二七年岐阜)

鶴田 浩二(俳優)

雑誌に出ている川柳を見る程度なんです。
(昭二七年岐阜)

大野 伴睦(政治家)

川柳かね、それより俺は日本でも有名な俳人でね、虚子先生も俺の句をよく賞めてくれるよ。
(昭二六年岐阜)

イサム・ノグチ(彫刻家)

ワタクシヨクワツカラナイ。ナンデスカ、ソレ?
(昭二七年岐阜)

本社 四月句会

◇四月十日(月)午後一時
アウイーナ大坂

大きなランドセルの親子連れを見て、今日

は入学式かと思ひながら向かつた本社句会
は、121名(うち投句者30名)の参加で開催さ
れた。初出席は生駒市の竹永広義さん、大坂
市の鶴田寿子さん、東大阪市の阪本秀子さん
の三名。句会に先立ち、2月に亡くなられた
同人倉益一瑤さん(鳥取市)に黙祷を捧げた。

今月のお話は生駒番傘会長の稲葉良岩さ
ん。題は「川柳つれづれ草」。川柳歴約5年、
川柳塔本社句会参加歴も数回という氏が、お
話を引き受けられたのは、「お寺さんですか」
と度々聞かれた経験から、「良岩」(本名よ
しいわ、柳名りようがん)という元祖キラキ
ラネームの名前の説明を一度にできる機会と
捉えたから、とのこと。句会行脚を続けて研
鑽を積む氏は、ユーモラスな話しぶりで、最
後は、「ご自身はもちろん、川柳塔も番傘も
手を携えて川柳の振興に努めていきたい、と

締めくくられた。

(眞澄)

月間賞は平井美智子さん(大坂市)
(司会)武人・真理子(協賛)勝弘・すみ子
(受付)恵・志津子(懸垂幕墨書)耕治)
(清記)憲彦・勝弘・国和)

席題「癖」 梶谷 和郎 選

三年もしていると癖になるマスク
今朝もまた切つたばかりの爪を切る
責められて非がある時に回す首
何ひとつ不足ないのにはやく癖
割勘なのに人より倍も飲む男
怠け癖ついて今ではこれが常
元気かと母のミミズのような文字
泣き癖が直らぬままに娘が嫁ぎ
遣言書父の癖字があたたかい
口癖で金がないない言っている
癖のある自分の文字に父偲ぶ
フリーサイズで体型の癖隠して
離婚離婚もわたしも三回目
そやけど口尖らせる癖がある
交番をチラッと覗く癖がある
買う時はちよつとまけてが僕の癖
友だちの彼に恋する変なクセ

初代 正彦
上田ひとみ
新早 義明
柴本ばつは
江島谷勝弘
坂 裕之
平井美智子
佐々木満作
敏森 廣光
平賀 国和
水野 黒鬼
吉道あかね
中村 恵
山田 耕治
藤井 宏造
川端 一步
山下じゅん子

デユエットで肩抱く癖がなおらない
一人住まい風呂もトイレも鍵かける
会話する必ず肩をたたく癖
焼いたとて治らぬ癖は子に譲る
鍋見ればつい奉行役したくなる
若い頃あなたの癖も好きでした
酔う度に「ここは任せろ」などと言う
惚れたかなあなたの癖が憎めない
耳たぶに触るといつも眠くなる
尻尾振る癖は愛犬から学ぶ
部長にも言うてしもうた「アホかいな」
有難う素直に言えぬシャイな癖
この癖も父に似て来た迷い箸
右でかむ癖左の頬がこけてきた
癖字だがとても味わいある一句
品薄と聞けば欲しがる悪い癖
手の皮が破れる程の潔癖症
方減りの癖腕利きのデカの靴
人間の無くて七癖多面体
脱ぎ捨てた靴にも癖がまといつく
どんな話も何か難癖つける奴

住

敏森 廣光
藤田 雪菜
榎本 舞夢
西出 楓楽
山下じゅん子
吉道あかね
新家 完司
伊達 郁夫
山野 双葉
森田 旅人
居谷真理子
出口セツ子
青木 隆一
酒井 紀華
鈴木いさお
藤田 雪菜
坂上 淳司
川端 六点
山野 寿之
津守 柳伸
森 廣子
荻野 浩子
長谷川崇明

足音で貴方と分かる歩き癖

中井 萌

美人だがベツトリ箸をねぶる癖

吉道航太郎

図星だなベロリと舌を出してはる

吉道航太郎

人

ひらめきは無いがとことん粘るクセ

内藤 憲彦

地

晩年の旅は西へと行きたがる

山崎 武彦

天

一徹を通すへそ曲がりの癖字

荻野 浩子

軸

その癖字ちらり付度よぎります

兼題「片方」

野口真桜子 選

天秤に掛けた人生片手落ち

平松かすみ

仲裁はイケメンの肩持つと決め

みぎわはな

そういえば三塁側にいた女神

石田 孝純

腎臓ひとつになった弟元気かな

きとうこみつ

やがていつかは片方だけになるふたり

吉道あかね

片方はいややあんたも達者でと

新早 義明

誰も拾わない手袋の片方

江島谷勝弘

さする手にはかりしれない愛もらい

藤田 雪菜

二次会のない句会にはもう来ない

谷口 東風

長靴の片方だけを売る露店

中井 萌

片方を見付け色めく搜索隊

津守 柳伸

片ほほにピンタ痛みは愛だらう

川端 六点

ウインクしたら彼女目薬注しに来た

坂上 淳司

片足で歩く気分の物価高

水野 黒兎

片方の耳から逃すきき上手

藤田 雪菜

ベアカップ買ったし相手募集中

小野 雅美

片翼になってしまったふたり旅

上田ひとみ

事故現場片方の靴残される

油谷 克己

片方のボクが泣いている影法師

吉道航太郎

片手ではつかみきれない僕の夢

敏森 廣光

片道の切符ひとつで逢いに行く

神崎 江

プロボーズ二人にされたどっちにしょ

西出 楓楽

片方の耳に内緒を溜めている

木本 朱夏

片方の耳でワイフの小言聞く

山田 耕治

パンかじりスマホをいじる片手ずつ

松岡 篤

IQの片方はまだ冬眠中

斎藤 隆浩

右膝がしびれて左膝笑う

佐々木満作

寝違えて片方首が回らない

阪本 秀子

片方のお喋り好きで救われる

初代 正彦

片方の目で見たあなた男前

青木ゆきみ

妻にあり僕にないのが肝っ玉

上田 和宏

片方へよろけて分かる酒の量

青木 隆一

明後日も貴方の左横に居る

神崎 江

愛してるスマホ片手に言わないで

竹永 広義

合鍵を埋めた割符を渡される

藤田 武人

つけまつ毛の片方落ちてから喜劇

木本 朱夏

娘を母が息子は父が引きとった

宇都満知子

住

片方の足は帰りたいロシア兵

藤村 亜成

戦場に片足おいてきた兵士

廣田 和織

倦怠期夫婦茶碗は欠けたまま

森松まつお

片方は引き立て役の無二の友

廣田 和織

二重人格今日は狼休みます

竹永 広義

人

ワイヤレス片方ずつで聞く二人

宇都満知子

地

片足は君の陣地に入れておく

栗原 道夫

天

隣席に部長右肩だけが凝る

森松まつお

軸

彼のベッドにピラス片方置いてくる

兼題「あぎれる」

平賀 国和 選

値上げ値上げみんなでやれば怖くない

清水 英旺

バイキングにもダイエットにも興味ある

きとうこみつ

叔父叔母も遺産分けには駆けつける

東 敏郎

匠者はしこくたげれ損の腰さする

ラインで指不今日は受け子であす強盜

歳出見直しせず増税で防衛費

一つ覚え二つ忘れて今日閉じる

フェイクさえ百回言えは正論に

値上げはする量は減らすわあきれるわ

真夜中にメモした紙を探してる

すぐに隠れる自転車鍵家の鍵

お大様ウオーターベッド寢床にし

騙される方が悪いと言う詐欺師

満腹と言って豚まん食べる妻

歎を持つ卒寿あきれるほど元氣

味よりもインスタ映えに行列が

おみやげの箱に必勝しゃもじとは

堂々とフェイクニュースを流す国

腰痛い言いつつ誘い断らぬ

余命など気にせず僕は酒タバコ

募集中お金に釣られ闇バイト

政治家の詭弁あきれ茶が渋い

別腹と言つて饅頭五個食べる

酒絶つと参る社で呑む御神酒

勝つ度にまるで優勝トラファンは

鏡には私ではないああワタシ

饗庭 風鈴

吉村久仁雄

片山かずお

冨永 恭子

今村 和男

島田 明美

山本加お里

宇都満智子

青木ゆきみ

出口セツ子

青木 隆一

片岡 加代

中井 萌

片岡 加代

初代 正彦

齋藤さくら

藤田 武人

斎藤 隆浩

水野 黒兎

木嶋 盛隆

青木 隆一

中井 萌

上田ひとみ

自称ショウヘイの母が数億人

親の世話せぬ子が遺産はったくる

口下手が聞いて呆れる品値切る

お犬様はブランド飼いはユニクロ

維新躍進あきれるけれどと怖い

餓死者出す国がミサイル撃つてくる

美しい日本は戦 捨てたはず

平和呆け大食いテレビ悪感する

物忘れいつも自分に呆れてる

二十四時間スマホなしでは生きられず

百過ぎてても生きられそうよこの私

住

景氣よく増やす予算も借金も

繰り返す戦に彬あきれてる

戦災地へしゃもじを贈る無神経

底辺もここまで来たら怖くなし

歩きつつ行き先忘れ舞い戻る

人

妊婦を前にスマホ夢中の長い脚

地

底辺の蟻の涙は知らぬ国

天

人間にあきれて桜散つていく

稲葉 両岸

西出 楓楽

藤田 雪菜

木本 朱夏

川端 一步

山田 耕治

山野 双葉

津守 柳伸

飛永ふりこ

木本 朱夏

柴本ばつは

居谷真理子

高杉 力

澤井 敏治

柴本ばつは

安福 和夫

澤井 敏治

出口セツ子

新家 完司

軸

あきれる程の社会の変化デジタル化

兼題「とろり」

鈴木いさお 選

昼下がりにとろり図書館でとろり

日向はことろり私が煮崩れる

ささやかれとろりとし心奪われる

縁側でとろりと一日が去つた

じいちゃん八時過ぎたらもうとろり

わだかまりとろり溶かしたのは誠意

とろりもいいがやはりこの函で食べれたら

酒とろり美人の酌の尚とろり

少し炙る旨みがとろり深谷葱

妻の膝トロトロ亭主溶けちゃった

とろりとなるまで眠り続けたい

惚れ葉弱火でトロロリ煎じます

マドンナに片目つぶられ湧け出す

バスの揺れとろりとろりと乗り過す

人生の終末とろりとろりかな

老春の埋火とろりまた女

後五分とろりとろりの気持ち良さ

とろりとろり寝ている内逝けたなら

とろりとろり母の説教身に沁みる

立蔵 信子

廣田 和織

鴨谷瑠美子

小島 蘭幸

山田 耕治

大内 朝子

今井万紗子

片岡 加代

藤井 宏造

みざわはな

奥原 道夫

川端 六点

木嶋 盛隆

江島谷勝弘

太田 昭

川本 信子

原田すみ子

今井万紗子

西出 楓楽

群青の夜がとろりと溶けて朝

中井 萌

あの世へはとろりとろりと急がない

川端 一步

簡単には使えぬ孫のお年玉

今井万紗子

酒とろり外は地吹雪北の宿

吉村久仁雄

人 冷汗とろり油汗とろり

藤村 亜成

簡単に目刺しと蒲鉾があれば旨い酒

江島谷勝弘

キッチン春マーマレードがとろり

松本 柊子

地 舌の上で暫く弄ぶマグロ

島田 握夢

簡単にワンクリック元カレの顔ゴミ箱へ

稲葉 良岩

もう一度祖母といっしょに麦とろり

萩野 浩子

天 舌の上で暫く弄ぶマグロ

島田 握夢

簡単に話誰かが採めさせる

森 廣子

今日の鬱をとろりと煮込むおでん鍋

平松かすみ

ふたりならとろり堕ちたい花の闇

木本 朱夏

少しだけ視点変えれば解けた謎

佐々木満作

恋かなあとり私溶けだした

柿花 和夫

軸 木本 朱夏

木本 朱夏

補助線を引いたら楽に解けた謎

初代 正彦

みたらしの蜜のトロリがたまらない

吉道航太郎

簡単に儲けた金は羽根がある

松岡 篤

簡単に引いた金なら言うて来い

澤井 敏治

とろりまで愛の炎を微調整

中村 恵

簡単に読むより孫に聞きなさい

山田 耕治

簡単に僕でなく諭吉が行けば済む話

木嶋 盛隆

わだかまいとろり煮込んで灰汁を抜く

桃谷 和郎

簡単に読むより孫に聞きなさい

山田 耕治

簡単に一行に収まりそうな遺言書

吉村久仁雄

日向ぼここの世をとろりと

新家 完司

簡単に一行に収まりそうな遺言書

東 定生

簡単に一行に収まりそうな遺言書

東 定生

9回の攻防も見ずとろりと

古今堂蕉子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

お開きの前はとろりの締め雑炊

上田 和宏

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

とろりになるまで煮込む嫉妬心

島田 明美

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

「春の海」聞きつとろり舟を漕ぐ

藤井 宏造

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

夜汽車でとろり覚める外は雪景色

森 廣子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

中はとろりです私もたこやきも

大久保真澄

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

酒とろりあれれ背筋がシヤンとなる

澤井 敏治

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

佳 退屈を煮込んでとろり甘い夢

稲葉 良岩

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

特別に甘くふんわり出来上がる

上田ひとみ

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

昼食後のとろりは脳のサブリです

西出 楓葉

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

練乳がとろり母をラッピング

青木 隆一

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

風が抜け陽が差し込んでわが暮らし

居谷真理子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

花一輪ももらっただけでもう笑顔

きとうこみつ

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

簡単に一行に収まりそうな遺言書

立蔵 信子

どこが簡単やカンタンスマホに騙される
シンプルライフ天に任せている命
川本 信子

住

リバウンドが恐くてダイエットはやめた
割り切れないものには「1」を足せばよい
僕の人生語ればほんの十五分
床の間は要らない縁側で足りる
紙一枚産まれて生きて棺まで
小島 蘭幸
石田 孝純
敏森 廣光
居谷真理子
中村 恵

人

簡単に親になつてからのいばら
古今堂蕉子

地

切つて盛るトマトと豆腐いい子です
富永 恭子

天

言い訳は百字以内で願います
大久保眞澄

軸

知恵の輪がするりと解けてから脱皮

兼題 「自由吟」

小島 蘭幸 選

大谷の兎がとても良く似合う
コロナ禍は神の天誅なのですか
話す相手が妻だけという日が続く
体調はいかがとアレルギー仲間
豚まん御機嫌になる妻が好き
田中 廣子
三宅 保州
片山かずお
富永 恭子
東 定生

好奇心まだまだあるよ深夜二時
ひとり遅れて巣立つ子の背にエール
父からの土の匂いの電話くる
ひび割れた踵に勲章をあげる
自然体なんの銜いもない笑顔
人生の終り嬉しいこと続く
だとしてれば私も覚悟ございます
いらいらがすつとおさまるさくら餅
花冷えを覚悟の母と通り抜け
陸橋の下に人生が流れる
花びらひらり私を見てと裏返る
句会の日間違わず来た八十五
椿ポトリきつと痛みがあるだろう
変身よりも現状維持の美容院
ものぐさになったと自覚する炬燵
時々はうつかりさんになるもよし
マスク取るどこかでお会いしましたね
努力義務父は赤ヘル買つてくる
クルーズ船ラッシュ神戸にやつと春
甘えたいときにはいつも熱を出す
肩の荷を少し降ろして通り抜け
こめかみをグルグル起床準備です
燃える恋未だしていません死ぬません

桜より梅白杖をエスコート
ごめんねの気持が優しさになった
後期高齢少し甘えていいかしら
マスクの下にようやく春の陽があたる
ヌートバーの急にファンになった春
ムツゴロウさんを誰も真似できない
イヤな女だ鏡の中にいる女
母親に甘えた僕も傘寿なり
戦争の好きな男は大嫌い
川端 六点
宇都満知子
内藤 憲彦
藤村 亜成
立蔵 信子
立蔵 信子
中岡千代美
鴨谷瑠美子
森 菊江

住

「会う」から「逢う」(もうすぐ恋が生まれます)
健康法あれこれバス停はサロン
ベンチだけ置いて海辺の無人駅
大声で泣いても海はまだ広い
天国はこちらとアサギマダラ舞う
お日様も淋しい家に帰るのか
余命七万時間を想う花吹雪
少し飲みませんか桜は散りました
大谷のホームランボールが落ちてきた

居谷真理子
梶谷 和郎
山田 耕治
吉道あかね
小野 雅美
森松まつお
柴本ばつは
梶谷 和郎
谷口 東風
村田 博
高杉 力
齋藤さくら
新家 完司
伊達 郁夫

島田 明美
荻野 浩子
森田 旅人
伊達 郁夫
西出 楓楽

居谷真理子

居谷真理子

居谷真理子

居谷真理子

居谷真理子

居谷真理子

居谷真理子

居谷真理子

居谷真理子

居谷真理子

居谷真理子

第29回 川柳塔まつり

と き 2023年(令和5年)10月7日(土)

開場:午前11時 出句締切:正午 開会:午後1時

と ころ ホテル・アウィーナ大阪 4階 金剛の間

大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12(近鉄上本町・地下鉄谷町九丁目下車) 電話 06-6772-1441

《 同 人 総 会 ・ 議 事 》午前10時より

2022年度事業経過報告・同決算報告・会計監査報告

2023年度事業計画・同予算案・役員人事・その他

《 各賞表彰式・記念句会 》

表 彰 式 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞

おはなし フレイル予防のための「食」と「社会参加」

大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部教授 井 尻 吉 信 氏

兼 題 「刻 む」	川 柳 塔 社 藤 井 智 史 選
「まっすぐ」	川 柳 塔 社 藤 田 武 人 選
「揺 れ る」	川 柳 塔 社 大久保 眞 澄 選
「未 来」	川 柳 塔 社 栞 原 道 夫 選
「 笛 」	番傘川柳本社 片 岡 加 代 選

事前投句 「自由吟」(8月31日必着) 川 柳 塔 社 小 島 蘭 幸 選

◎各題2句・勝手ながら欠席投句は拝辞させていただきます

出句締切 正 午 (午後5時頃終了予定) ※各題の「天」位に賞呈

◎会 費 2,000円 (当日頂きます) ご昼食は各自でお済ませください

◎ 呈 記念品

《 懇 親 宴 》

と き 令和5年10月7日(土) 午後5時～7時

と ころ ホテルアウィーナ大阪 3階 葛城の間

☆会 費 7,000円 先着申込み 130名様

☆宿 泊 ホテル・アウィーナ大阪 8,000円 (朝食付き)

* 事前投句および懇親宴のお申込はチラシに刷りこみのハガキ(ご希望の方は事務所)にて
8月31日(木)までに本社事務所宛、お送りください。

* 会費は当日受付でお願いします。

* 新型コロナの状況により中止せざるを得ないときはご容赦願います。

主 催 川 柳 塔 社

大阪市天王寺区大道1丁目14-17-201
〒543-0052 ☎・FAX 06-6779-3490
振 替 00980-4-298479



毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。

編集部

川柳塔打吹(鳥取)

斉尾くにこ報

山陰のカニの味噌汁旨い味
山登り一口の水うまいこと
二人めしなどよりうまい一人めし
ばらばらと粉をふりかけ支配する
花びらがバラバラ落ちてかんざしに
出稼ぎの屋根にばらばら雪が降る
ばらばらと撒いたほどでは鬼逃げず
新聞はバラバラとめくれれない
カタログをめくればそこは夢の国
ばらばら漫画此の世の事は魔法
人生のバラバラ漫画あと少し
バラバラとアダムとイブの胸騒ぎ
音程の外れ僕には罪がない
色眼鏡外せば世間広くなり
億の夢破れ皺くちや外れ券
宴会で羽目を外してみた地獄

富隆 貴恵 完司 大鯨 紀美恵 節子 照彦 龍枝 美ツ千 紀の治 重利 余光 芳江 清 重忠

川柳塔みちのく(青森)

稲見 則彦報

「何食べたい?」「何でもいい」が困ります
アドリブで作る献立妻の味
メニユー見て迷う時からもう楽しい
食べたいもの多く友とシェアーする
単身でいろいろ試すカップ麺
スーパーの安売りちらしてメニユー決め
価格見てメニユーを決めるレストラン
きつてもメニユーこなししてホームラン
筋トレのメニユーなるほどこりや無理だ
テレビ画面メニユー通りにコマーシャル
ゴチババトル見ながら箸は宙つまむ
レシビなし味付けメニユー妻は勘
メニユー表置いてく妻のプチ家出
あるもので済ますメニユーをかみしめる
月のメニユーに早く入れたいランチ会
おふくろの味を忘れぬ舌である

英子 重虎 規子 久美子 慕情 孝子 隆樹 初枝 吹喜 一呑 ひろ 義明 ひとし 柳子 真由美 美鈴

城北川柳会(大阪)

近藤

正報

傷癒やす酒の肴になつてやり
鬼となり仏になつて児を育て
身の内の鬼となだめる酒が要り
すごいなあ十七音で世相斬り
停戦は見えず命の明日見えず
何年も優勝しない虎が好き
落ち葉過ぎ手持ぶさたな竹ぼうき
病院の予約日の服よそゆきで
勤勉実直仕事の鬼の父だった
妻入院その存在の大ききよ
言う場所で使い分けますアホとバカ
直球の愛でハートを射貫かれる
臆病者実は自分は知った人
出掛けてみるか明るいニユース持ち寄って
アホと言う奴がアホやと教えられ

千賀 野鶴 俊雄 篤 千恵子 宗鉄 章 ゆきみ 福貴子 一歩 実 朝子 廣光 万紗子 隆一

的外れ会話ずれても仲はいい
バレンタイン棘を外したバラになる
額縁を外すと微笑まぬモナリザ
暇まかせとりとめの無い長電話
低年金暇はあっても金が無い
暇の手がポツケの穴を大にする
暇ですねちよつと悪さがしたくなる
飼猫に学んだ暇の潰し方
八十路坂一年中が日曜日
シナモンを振って日記は閉じました
くにこ

義人 紀子 三津子 悦子 久米代 美知江 宣子 芳光 石花菜

お結びのメニユーにしたい焦げ握り
日替わりのメニユーおまえも値上がりか
仲直りしましょう玉子かけご飯
堂々と裏メニユー聞く通である
注文のメニユーを決める「取り敢えず」
後悔を一つ残して今日も暮れ
文字ひとつたらんと指を数ええる
アルコール臓器のことは省みず
背もたれがぼきんと折れた日の計報
レシビより味よし僕の目分量
快感はバーゲン品の残りの残り
洋子 和香子 友二 澄子 風来坊 ふさゑ 則彦 霜石 龍馬 のぶよし

呑み込んだことばお腹でケンカする
介護する指の隙間に鬼を飼う

黒塗りに付度の字が透けて見え
イエスノー付度せずにはつきりせー

殺戮に現を抜かす愚か人
素顔見てシニア料金してくれる

鋭さが丸みを帯びて味が出た
あほなりに真つ正直に生きて今

円満へおいしいと日に三度言う
大トロを買うの迷った負けとくで

病名は加齢付度ない言葉
寒いので湯たんぽ抱いて早く寝る

易者より妻の予言はよく当たる
同窓会あいつが俺の恋敵

主のいない雛壇眺めちらし寿司
近くまで来たが寄らない新世帯

勿体ないを教えてくれた物価高
自由束縛ここは閉居なケアハウス

早朝の散歩は寡婦の社交場
神宿る生かされてると知ったとき

和歌山三幸川柳会

西川 千鶴報

石臼で搗いた昭和の餅の味

もう一度踏み出す靴を買いに行く
リモートの親子でお屠蘇酌み交わす

澄んだ水あるが飲み水買う日本
この大役買い被られていたワタシ

失笑を買って顔から火が出そう

繁子

郁夫

榮子

杵香

正彦

洋志

峰雨

星造

義明

賢子

こみつ

和夫

優

恭子

黒兎

信子

志華子

久美子

亜成

昭枝

菜摘

純子

敏照

俣子

碧

お逢いしたことがないのに懐かしい
スイーツはしかめつ面で買いません

お年玉振込頼む孫メール
初日の出新たな年が始動する

新年を迎え背筋もシャンと伸び
売り言葉買つたら高くつくものを

月旅行餅つくうさぎ見たものを
床の間で正座して待つ鏡餅

生花を脇役にする鏡餅
昔むかしの話が好きと杵と臼

買えるなら一番買いたいな若さ
紙おむつ親のもの買う振りをする

ピンと立つうさぎの耳の勇ましく
期限より半額シールにある魅力

大人買いそんな余裕はありません
里帰り家族総出のお餅つき

屠蘇祝うテーブルひとりには広い
親の代買った田畑子に重荷

いい夢を見たぞ正月初日の出
鏡餅カビ切り落としました

独り正月餅は怖くてやめました
いびつでも丸に治まる鏡餅

鈴ひとつ買つて小さな旅おわる
栗田に金をばらまきバツジ買う

シヨッピング無心になれる時も買う
溜め息のもれる金庫を買い替える

贅沢に虫も野菜も込みで買う
正月の風あげかるた遠い夢

まき

和子

一雄

起世子

宏枝

保州

栄次

八重子

保子

明子

あき子

俊介

眞智子

悦男

知香

彦弘

義泰

康則

准一

和美

和子

よしこ

正美

澄夫

澄夫

桂子

幸

臣展

與一

中村金祥選

人間の愚かさです武器に武器
ごめんねが心を開けるバズワード

注がれた愛をあなたに倍返し
愛しても犬に介護は頼めない

いくつもの修羅場くぐってきた手品
黒塗りの脳が付度はかりする

今日は今日明日もきつと陽は昇る
優しさを拒む野生の猜疑心

武器供与世界平和が崩れ去る
こたわりを捨てれば世界中和

ひろ子

修平

眞弓

志津子

賢悟

由紀女

憲彦

一文

智恵子

直子

田中 ゆみ子 選

懐に入れば人は温かい
さわやかな目覚めいつもの朝がある

日々無駄に過ごしているが生きている
見返りがなければつき合いはしない

健診の度に身長が縮む
特賞が出るまでガチャガチャを回す

美味いと言うまで酒が出てこない
心して暮らし生命線延ばす

広島は世界に知らず義務がある
母になる娘こんなに美しい

ひろ子

廣光

恵

日枝子

すみれ

いさお

武人

靖夫

賢子

英夫

ひとみ

婆ちゃんは煎餅噛める歯が自慢

千鶴

富柳会(大阪)

山野

寿之報

方言を使い通して名が売れる

和子

ネクタイを締めて男は修羅に入る

恵

幼き日黒板に立つあの恩師

正義

新天地ここから見える光る道

由夏

底のない箱です愛の贈り物

かこ

手作りの道具を使う職の技

一文

生きるのにちよつと疲れる春の闇

あかり

玄関を開けた途端にワツと春

欣之

メルヘンの世界へ孫が引き寄せる

高鷺

錆びた脳本をやすりに百寿まで

きみ子

いわれなき差別見えない線を引く

武人

書いて消す黒板消しにある秘密

壽峰

無位無冠内角攻めでロククオン

涼子

江戸っ子は気つ風の良さと金使い

主

汚染処理底に溜まつた愚痴不満

涼子

二枚舌言葉使いで騙される

由子

娘が還暦我が傘寿より尚シヨクク

きよみ

タラちゃんも八十七とはつゆ知らず

正邦

魂の迷った位置で出会う神

常男

早春の山を転がる四分音符

章子

見切り品生きているよと俺にゆう

和雪

四捨五入五にぶら下がり生きる明日

寿之

はびきの市民川柳会(大阪)藤原

大子報

家計簿は赤字のペンが走ってる

洋一

レッドカード出したい議員あまたあり
間違えて声かけ頬を赤くそめ

勝久
千鶴子

血の赤で地球を染めるクレムリン

久仁雄

赤恥を何度もさらし強くなる

宏造

今月も赤字ですよと悪い顔

一步

赤赤と言われましたが平和主義

勝弘

かす汁でほんのり赤い顔の娘よ

まつお

百花繚乱バラには赤がよく似合う

いさお

赤ちゃんの肌の如きの鏡餅

ひとみ

老いの足渡り終えずに赤信号

ちづる

赤鉛筆持てば鬼にもなる男

ダン吉

九条に赤信号が灯る今

みつこ

答弁が非難を浴びて立ち往生

正義

喝采浴びあれが頂点もどりたい

庸郷

脚光を浴びた先には高い壁

憲彦

ホメ言葉浴びせ失言奪い取る

冬のト

シャワーだけのフランス人の風呂事情

こみつ

冬の陽を浴びるまあるい背が二つ

理恵

父の背に一刀浴びた傷のこる

専平

喝采を浴びて笑顔でハイブラボー

一文

毒舌を浴びて根性鍛えられ

大子

放射能浴びた町村もどれない

フジ

ゴミを出す鳥の視線浴びながら

泰子

死の灰を浴びて後悔しない国

かつ美

スイトピーちひろの色を浴びている

瑠美子

浴びるほど飲んだ遊んだ若かった

さくら

同じ陽を浴びて咲く花咲かぬ花

扶美代

南大阪川柳会

松岡

篤報

嫌われる勇気まだまだ悩ましい

峰子

あれもこれもしたいがお金がないし

勝弘

いいわよと美女が言うのに軽サイフ

実

背に腹にポニョが棲みつゝき笑ってる

双葉

ありあわせごちそうにする妻の腕

常男

ご馳走はないが笑顔に箸すすむ

大子

飽食の時代茶粥を懐かしむ

昌夫

最高に幸せだったカレーの日

敏治

ご馳走になったお返し駅の蕎麦

東風

不味くてもご馳走さまと言う礼儀

一步

バイキング欲ばり過ぎて天ご盛り

蕉子

爆食いテレビご馳走が泣いている

まゆみ

筆筒内第二ボタンがひっそりと

ひさ乃

嫁ぐ子と別れ夢あり又楽し

ばっは

卒業式小さな恋が消えました

加お里

見舞うたび涙一すじ流す妻

志津子

きつぱりとお別れします脂肪肝

力

次の角曲がつて風になるつもり

志津子

戦中派靴下の穴直しはく

ルイ子

九十七年生きた命はおんほろろ

志華子

ぼろぼろの辞書たいせつにまだ書棚

亜成

地球もうぼろぼろ地震温暖化

楓楽

ぼろぼろをカバーしおうて金婚へ

柳伸

春よ来いウクライナにもロシアにも

いさお

痛なんて二人に一人アハハハハ

篤

風邪ひき初め糞虫になる冬布団

蟻日路

価値観のずれだと思ふ子の個性
内緒だよ口の固さは豆腐なみ
タコ焼きを買ふと我が家へ一直線
又しても産めよ増やせと国が言う
無我夢中そんな月日が糧となる
糠床へごめんと詫びて旅へ出る

長 柳 会(大阪) 大浦 福子報

親の歳生きて分かつた有難み
不景気でバンザイしてる招き猫
気分次第で甘える君はネコ派だね
猫のように勝手気ままで淋しがり
猫かぶり脱ぎ時探る清純派
線香の煙が染みる親不幸
若者が親ガチャ等と言ひ出した
息子には弱味を見せぬ親の意地
親も子も年金暮し長寿とは
花嫁の涙笑顔は親へ恩
カルガモの親子車の列止める
じゃっぱ汁湯気にぽっかり亡母の顔
戦いを忘れた僕の肥満体
飲み干したグラスの底に残る愚痴
明い記事探す紙面に春さざす
明と暗コロナの後の日本地図
悔しいが謝罪は効かぬ路上駐
暇になり大量解雇敵わんな
ブーチン殿まずはあなたが前戦へ
鬼の面時々付けて介護する

弘子 三智 柳右子 国和 克己 江 福子 福子 淳司 ともこ ふみ 秀子 正博 孝子 孝代 正美 由夏 孝 直樹 和子 ヒロ 澄子 純風 隆彦 靖博 おくみ たけし

ちよつと舌出してとぼける物忘れ
マスク解禁カミソリ購入
目葉で涙を隠すかきくけこ

竹原川柳会(広島)

古田比呂子報

祈るしか出来ぬ戦いウクライナ
祈つても祈つても止まない戦
独り言心に祈る老いの日々
熱の子に点滴祈るように落ち
祈ること出来る十指にある温み
核廃絶の願い虚しい千羽鶴
優等と言われた卵値が上がる
階段をばちばち上る老いの足
螺旋階段くると天を近くする
空は青いぞテンション上げて行こう
炊きあがるふくらごはん宮城の香
見あげれば大仏さまに見つめられ
記憶力日記頼りに繰るページ
良いことをさがして書こう今日からは
毎日が反省続く日記帳
五年日記これは私の人生ぞ
若き日の日記本に僕なのか
真実を書いてはいない日記帳
警察が持つて帰った日記帳
できるふりしたコンビニのセルフレジ
ほろ苦い菜の花里の風連れて来る
齢重ねる童心になり里恋し
七回忌未だに消えぬオーイオイ

克己 くに お 由子 弘子 昭紀 節生 千代美 栄香 和子 輝恵 日出夫 蘭幸 比呂子 夢香 敬子 慶子 京子 節夫 笑子 宣之 団風 白狐 歩美 厚子 貞子 初音

うめばしは食べる前につばが出る
小二 沙弥
テントウムシがいたよ春の合図だね
小一 拓
かがみにうつるわたしははぬけです
小一 央
ききゅうにのつたらうちゅうまでいっちゃんよ
五歳 すす

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西 茶子報

悩みごと働いていと忘れれるよ
動き出す汽車を見送り目に涙
春の風吹けばボチボチ始動する
平和だからこそ自由に動けます
星条旗の通りに動く日章旗
有頂天になると鉢巻ゆるみだす
勢いのある方につく侍も
告白の電話勢い付けてから
ウクライナ情勢悪化核より
ブーチンが降参すれば済む戦
一声に勢いづいて逆転だ
桜咲く頃が目安で鉄を振る
目安付け嫁はしつかり無駄はなし
骨折よりも流血激しバニクに
メタボリック検診結果はバニク値
陽性でバニクになる接触者
残高がバニク起こす電気代
やかんの湯とつくに沸いて空っぽに
草文 弘六 楓花 小鹿 完司 蟹郎 文道 白周 孝子 孔美子 一平 瑞子 大鯰 静恵 茶子 すみれ

パニックになったネズミが猫を嘔む
御殿場にわざわざ下車し富士を見る
わざわざと雪見に向かう信州路
K点を超えてわざわざ逢いに行く

川柳茶ばしら(愛知) 金子美千代報

相方が留守で嬉しい晩ご飯
片方に付けてもおしゃれイヤリング
芽吹く風頬を伝って春と来る
荷を一つ減らして軽くなった背な
カタカナ語並ぶ取説放り出す

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

今日もまたヨイショヨイショと独り言
押し売りも押し買いもある電話鳴る
欄展のテレビで弾む姿三人
張り込んだ自分自身へバレンタイン
夕食は鍋がいいねと雪が降る
終章は等身大で舞いおさめ
大山さんに生かされました一世紀
O・Bの会年金カラー蟹カニで
不可侵条約を夫婦でも結ぶ
少しづつ春の訪れ若芽食う
賞味期限舌と鼻とで決めている
雨音もポツポツと聞こえる日
青春のきらきら抱いて友が逝く
みかん食う猫背になってみかん食う
いい言葉心にそっとコピーする
喉元で言葉が消えるまあいいか

川柳に行く日は早く起きている
倉吉川柳会(鳥取) 大羽 雄大報

頑固一徹大正の寅まだ生きたる
無職なのに昼寝する間もないなんて
積雪で昼間買物やつとこさ
雪遊びする兄も見えぬ寂しき世
困ったな口はいいけど歯が悪い
頑固対ガンコ勝負がつかぬ痛み分け
ワンマンが過ぎてとりまき皆離れ
棒グラフ頑固な汗を積み上げる
大臣が口をすべらせ辞職まで
頑固爺おかしい時は笑うのか
爆弾もなくして平和な昼ごはん
人並みに口は便利だ嘘も言う
雪かきは孫に任せてコタツ守り
頑固者同志もたまに譲り合う
口笛は吹けるがちよつと音痴です
口ゲンカ今思い出すと懐かしい
昼下がりBSシネマに転寝

岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

もう米寿若いつもりでいたけれど
大好きな若鮎供え偲ぶ母
相手見て言うてね若者の言葉
若い時酒におぼれて今くすり
目を細めマスクの中は良い笑顔
髪なびく優しき風が櫛になり

さらさらと毛筆で書く手紙添え
さらさらと書いたエッセイ生きた意味
さらさらと流れる言葉たまされた
梅の花白い炎を上げて咲く
老いの足あるけ歩けと鍛えてる
妻入院お茶漬だけの夕餼です
生命の灯余命利那の妻を抱く
あの声で怒りの炎消え失せた
松明の炎ゆらゆら二月堂
ブライドがうな重の松食べている
究極の美放火炎上金閣寺
今があるぶれずに母に鍛えられ
投句してブライド無くすオール没
ブライドがお国なまりに溶かされる
祖国愛ブライド皆負うウクライナ
ブライドを捨てた時から上り坂
お父さんブライド脱げば楽になる
ブライドを捨てたら見えた青い空
ささやかなブライド老いの薄化粧

川柳ささやま(兵庫) 北澤 稠民報

いつからか磨いた靴の要らぬ歳
検診の予約に備え身を正す
メタボとはちがう幸せ太りです
新メガネ要らぬものまでよく見える
ストレスを抱いて趣味が裏がえす
句作りへアンテナ張って好奇心
草の芽にしゃがんで朝のご挨拶

和美 義泰 愛子 勝彦 睦子 彦弘 恭子 辰美 さら 航太郎 敦己 五十美 タカ子 政雄 憲彦 規子 珠子 ひろ子 哲男 稠民 剛 重男 良子 美智子 哲夫

久しぶりよろこぶ笑顔難まつり
甘党の父に供えるバレンタイン
老木が満開となる雪の花
頑固さもあなたの魅力だと思ふ

川柳塔わかやま吟社

川上

大輪報

初春へ刻み昆布も祝う膳

ぜんざいのあの昆布茶で輪が和む
干されいもダシにされても縁起物
結納に昆布一役畏まる

赤ん坊風呂でのびのび大きなり
狭くても家が一番大あくび

のびのびと育ちべんべん草になる
のびのびをマスクでかくす無精ひげ

名刺から肩書き消えるふわり浮く
自由になった独りの羽をのびしきる

女子会で家より多めランチ食う
お好みのランチ迷わずエビフライ

お喋りな姉妹ランチでリフレッシュ
特製の母のランチはおまけつき

お誘いにシッポフリリ行くランチ
もう母のランチは重湯のみである

手弁当提げて地域のボランティア
逝く日にもランチはキープするつもり

昼ごはん食べて寝ている太鼓腹
夕

ふうもん吟社(鳥取)

山下

凱柳報

偽メールいろいろ先に地獄待つ

古傷をいろいろ海鳴りが響く

すみえ
恵子
純子
ひとみ

光

寿子
知香
よしこ

俣子
佳子
大輪

敦巳
八茶
あきこ

信勝
精子
真弓

節子
保州
紀子

郷子
夕胡

金祥
八千代

未来図をいろいろ壊したのは誰

いろいろたび置き場所変わり大騒ぎ

(いろいろ)因幡方言で触れる・触る(こと)

永らえて喜怒哀楽を持て余す

学び舎に想いをはせるあの夕陽

節分へ貧乏神も鬼も外

先見えぬ戦争地震まで襲う

紫陽
回春子
賢悟
頼太
真理子
龍枝
茶人
哲之
欣之
みゆき
拓治
りんこ
ミツコ
勲章
蠅
みつこ
宏章
無限
稲佐嶽
厚子
紀美江
白兎
一平
ゆりほ
振作
奇林子
毅

再会の約束むなし友の葬

歪んでから国宝になる器

思い出は思い出明日に賭けてみる

生き方はつまり死に方だと思ふ

不意の客素早い母のおもてなし

忘れたい男ほど直ぐ思い出す

つまみ食い素早くかくすエビフライ

素早いな較替えしてる風見鶏

広告の葉はすべて早く効く

転がった硬貨素早く足で止め

スリッパを持てばゴキブリ逃げていた

願ひ事言えずに消えた流れ星

古傷に触れてくれるな胃が痛む

胃カメラも上手な腕に任せ吉

胃袋を掴み離さぬカニ料理

真打ちにそばとうどんの所作審査

真打ちの衣装が点値ぶみする

ふうもんの値打ち永遠に洋々だ

ひよつとここにおかめ真打ち生きて今

真打ちには俺しかおらぬまあ見てろ

川柳de遊ぼう会(大阪)

石田

孝純報

昨日までと違う私のプロローグ

きつとはアテにならないお約束

きつと言うオレは知らない口ゆがめ

淡い恋もしも夢ではなかったら

さあ食べよ大きな羽根で餃子とぶ

きつとくる平和な日々がキウにも

開き切る花はあなたの欠伸似て

切り捨ててしまった悔いを抱いている

駄々こねる息子の良さがきつとある

蟹郎
美知江
隆浩
洋子
凱柳

昨日までと違う私のプロローグ

きつとはアテにならないお約束

きつと言うオレは知らない口ゆがめ

淡い恋もしも夢ではなかったら

さあ食べよ大きな羽根で餃子とぶ

きつとくる平和な日々がキウにも

開き切る花はあなたの欠伸似て

切り捨ててしまった悔いを抱いている

駄々こねる息子の良さがきつとある

切り取った一こま笑つてた私

自分でも糸は切れます奴風

視線沿び父の威厳で切るケーキ

振りだした雨さえきつと妻のせい

優しいな尻こそばい何かある

切ったのに彼の十八番が口をつく

万歩計明探して増え続け

美知江
隆浩
洋子
凱柳

孝純報

昨日までと違う私のプロローグ

きつとはアテにならないお約束

きつと言うオレは知らない口ゆがめ

淡い恋もしも夢ではなかったら

さあ食べよ大きな羽根で餃子とぶ

きつとくる平和な日々がキウにも

開き切る花はあなたの欠伸似て

切り捨ててしまった悔いを抱いている

駄々こねる息子の良さがきつとある

切り取った一こま笑つてた私

自分でも糸は切れます奴風

視線沿び父の威厳で切るケーキ

振りだした雨さえきつと妻のせい

優しいな尻こそばい何かある

切ったのに彼の十八番が口をつく

ゼロゼロへホームベースは遙かなり
 ゼロの数みて諦めたアルマーニ
 ゼロ戦に散った笑顔が重すぎる
 二軍落ちここが原点やるだけか
 ゼロ歳児良くぞ産まれてくれました
 うらはらな世間教えてくれた父
 正論の裏にかくれていた本音
 極貧の割にミサイル気前良い
 強がりの揺れてる肩を抱きしめる
 チーズは輸入して生乳の廃業
 好きな娘へわざといじわるしたくなる
 痩せたいと言ってる口へ進む箸
 大嫌い言ってた人と暮らしてる
 晴れなのに心は虚ろ春なのに
 お気の毒言いつつ腹で笑ってる
 あかんあかん言い乍ら百点をとる
 はらわたが煮えくり返ってる笑顔
 懐かしい泥んこ遊びもうできぬ
 故郷の土産は土の匂いする
 泥かぶると言つた上司は直ぐに逃げ
 泥臭く暮らしたくないな汗をかく
 ドロ臭さ抜け饒舌な子の帰省
 出来る人泥をかぶってだまつてる
 泥の水飲んだ話を二度三度
 妻まじい記憶泥酔してたのに
 泥水を潜って辿り着く誠
 泥かぶる覚悟あるよと言うてくれ
 スタジアムみんな笑顔で列をなす
 隅っこで耳を澄ましてレモンティー

尚 邦
 敏 治
 志 津 子
 清
 里 子
 さくら
 (米) 俣 子
 時 雄
 佳 子
 満 知 子
 い さ お
 禮 子
 萌
 ひ さ 子
 素 頼 馬
 美 津 子
 玄 也
 (江) 勝 弘
 扶 美 代
 憲
 ひ ろ 子
 世 紀 子
 光 雄
 ダ ン 吉
 恭 子
 恵 子
 五 月
 み つ こ
 和 夫

捨石の見事に散った練習機
 済んだこと水に流して零にする
 好きな道未来育てる練習着
 睡蓮の見事な花を連写する
 スイーツがみごとに並ぶレストラン
 川柳さんだ(兵庫)
 酒 井
 健二報
 進
 満 作
 憲 彦
 廣 子
 瑠 美 子
 真 桜 子
 喜 久 子
 (高) 千 賀 子
 武 彦
 玲 子
 稠 民
 敏 子
 迪
 野 薫
 喜 弘
 洋 一
 健 二
 登 志 子
 英 秋
 和 郎
 修 平
 一 子
 万 彩
 美 津 子
 敏 夫
 紀 恵
 お さ む

私ではどうにもならぬことばかり
 枯れちゃった希望も欲も悩みもない
 恋の悩み聞いていうち恋の仲
 二軒目の医者も手術をすると言う
 戦火なきこの青空よ常しえに
 敷かれれば意外に楽な妻の尻
 節分は鬼ブーチンに豆つぶて
 土産買っ位は出来る総理秘書
 年金がベビブームを恋しがる
 可も不可もなく自由を持て余す
 ミサイルで睡眠不足ずわい蟹
 死にたいは生きたい人のSOS
 もうちょっと離れてほしいまだ2類
 川柳塔なら
 大久保眞澄報
 ひとみ
 雄太郎
 おさむ
 正 和
 優 子
 廣 光
 弘
 雅 尚
 義 徳
 ヨ シ エ
 博
 三 ッ 代
 勝 弘
 げんえい
 優
 さざえ
 すみえ
 成 子
 江 里 子
 芙 美 子
 則 彦
 和 夫
 理 恵
 比 呂 志
 栄 子
 誠
 ゆきみ

フエイクだらけ情報戦の名のもとに
自慢話に失敗談で口直し

その小言昨日五回で今日二度目
背を丸め影がよろよろついてくる

妻の愚痴昔むかしで責めてくる
ブーチンブーチンロシアアロシア

じいちゃんにまた持てた話を聞かされる
陰の汗汗らずに頑張れはきつい

トリセツの細かい字など誰が読む
紙オムツしても五欲がからみつく

長雨もいつかはきつと晴れ上がる
雪解けの水がチヨロチヨロ春はそこ

しもやけの痒さ増します春兆す
失敗の中に一筋光見る

春兆すうどもわらびも伸び盛り
酒五合自慢話の出る兆し

和解の兆し祖母の真似して飴くれる
ふつつと湧いてきました反戦歌

少子化に赤信号の灯る国
いい出会いありそう買った春の靴

ねえちよっと速回りして帰ろうよ
良雅美

翠洋会(大阪)

原田すみ子報

バーゲンも慣れた手付きの目利き品
本物がかすんで見える似非社会

祖国から離れたくない避難民
問題を抱えてカルテから雫

合格通知母に夜食の恩がある
恥ずかしいことが増えて恥ずかしさが消える

義
義

羅天

恭正

隆一

富子

崇明

基昌

まさじ

じゅんじ

敬介

朝子

一步

和郎

行久

ふりこ

史郎

敬子

勝弘

黒兎報

良岩

雅美

美

義

熱々のみんな脇役おでん種
箱入り娘自我の目覚めも遅かった

くすり箱嫁に來た日のオルゴール
優秀な突っ込みが居てグランプリ

貧乏性バーゲンの字に血が騒ぐ
いつもサブ今日は主役の喜寿祝

車庫入りしてる時は消ええる痛む膝
友と会つて時は消ええる痛む膝

脇役で生涯終えた馬の足
長生はいいい会えぬと思ふ人と会い

バーゲンは賞味期限を注意する
被災地へまごころ詰めた箱届く

フレイルにおどされ忙しい八十路
洗濯を干すころ変わる空模様

子供に絵まだ置いてある箱の中
初鳴きに春だ春だと梅の園

好きな役者ボックス席で見る嬉しさ
追われてた仕事に元氣もらつてた

ほたる川柳同好会(大阪)水野

孫が着る時代遅れの祖母の服
ハチマキの時代もあった労働歌

新聞紙で何でも包めてた昭和
親に言つた「時代遅れ」を娘に言われ

おひな様親子四代今ゴミに
キャッシュレスの時代の流れ乗り遅れ

黙祷で淀む空気が洗われる
冬物は彼岸を待つてお洗濯

わが家の洗い物はすべてわたくし

満作

蕉子

理恵

和夫

行久

げんえい

眞澄

敬昭

舞夢

善之

富子

大子

弘美

江里子

志華子

廣子

すみ子

洗いざらい話した後は仲直り
診察もオンラインではちと不安

積ん読の山は周平・周五郎
AIと以心伝心できるかな

川柳花の輪(大阪)

川本

信子報

落葉掃き春の発芽を待つている
発芽してみまもる気持子育ても

あれこれと愚痴が出たすと止まらない
あれこれと気が利かすぎて嫌われる

八十歳年甲斐もなく発芽する
宇宙ごみ掃除衛星出るを待つ

理科室で発芽育ててノーベル賞

川柳塔まつえ吟社(島根)相見

柳歩報

呑むとまたくどくどと武勇伝
くどい程チャイムを鳴らすお爺ちゃん

くど過ぎるスープにラーメンの悲劇
誘惑の甘いリングゴが皿の上

仲人は甘党ですと嘘をつき
甘いとは思ひながらも出すお金

影ぼうし仲良く遊びまたあした
盛り上げる影ニコニコの太っ腹

ほほは笑んだ遺影に在りし日を偲ぶ
月食の地球の影がウサギ食べ

生臭い影はカインの影らしい
いらだつた影が私の先を行く

限界と言われこの地に根を下ろす
過疎の土地野草や虫がイターン

宏造

一弥

春代

純子

やすの

笑子

博泉

亜成

正太郎

泰子

信子

吹喜

青帆

德利

小鹿

弘充

比呂

邦代

とも子

豊仙

柳歩

芳山

美智子

雪代

あきら

地べた行く虫が知ってる季節感
地方版時間をかけて虫眼鏡
地球儀を回しニュースを確かめる

川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

箱庭の遊びのように戦争を
怖いけど震えながらに見るホラー
悪知恵が詰まっていたら箱の底
ダイヤより恋文入れて鍵かけて
つまづいた石がわがままを論す
箱庭で楽しむ老いの知恵袋
高層ビル貝の化石が隠れてた
ハンガーに吊るされ明日を待つスーツ
二択ならさっと大きい箱選ぶ
子育ての思い出があるオモチャ箱
震わせて愛の告白バビブベポ
トロ箱を開ければ海の匂いする
惻隠利ぐったり癒す縄のれん
バンダとの別れに男泣き崩れ
ぐったりを掬う華麗な雛祭
君が住む箱庭の町歩きたい
砕かれて削がれて岩石丸くなる
リュウグウの砂土産に帰還玉手箱
ケンケンパー石を玩具にした昭和
保護犬は心の傷に震えてる
サギグループのリストに載ってないやろか
ぐったりを湯船に溶かすバスタイム
待つこと三時間診察は五分
父からの箱のお土産竹細工

知恵子 米 估 モナカ 直 子 篤 五月 満知子 美 籠 芳 香 ばっは いさお さくら 憲 彦 宏 造 寿 之 久仁雄 ふりこ 龍 真桜子 福貴子 里 子 民 子 ア ヤ 智 子 とみ子 廣 子

大吟醸立派な箱で箔もつけ
手のこんだ詐欺の口口に足震え
看病にぐったり睡魔には勝てず
小石蹴る一人ぼっちは淋しすぎ
一万歩歩いた店は休業日
晩酌のお供に添える薬箱
万博もカジノもやはり箱ものだ
三年も我慢できない石の上
寒いなあ節電なんてとんでもない
あの時は震える声で告白を
へとへとの姿は見えぬチューリップ
まっお 敏 明 克 己 万紗子 志津子 俊 雄 勝 弘 陽 一 裕 之 ゆみ子 克 三 園 子 政 夫 靖 子 悦 夫 景 子 和 代 一 彌 清 乃 弘 光 正 子 淳 司

春の風がチャレンジしろと誘ってる
種苗店鉢を増やして春を待つ
花筏春の名残のフィナーレ
ネクタイをむすぶ妻の手みる夫
血が騒ぐ虎ファンが折る千羽鶴
何気ない夫の言葉に悩む心
競い合う貴女の御蔭ボケ防止
閑白でやる地球の荒い息遣い
関白をやめたら妻の病癒え
茶柱にとっとと飲みと急かされる
サブリよりよく効く友の誉め言葉
弱いから棲んで見せる背のタトゥー

ブラザ川柳(大阪) 藤塚 克三報

新しいパンツおろして疑われ
常識の枠を疑うのが科学
楽しみはお値段忘れ舌つづみ
暖房費減らせど食費削られず
値引商品ロスのために買う
トンカツをバリバリ食べる母卒寿
活け作り踊る海老見て青くなる
寒い夜は夫のお出まし鍋奉行
晩酌とメの茶漬とぬか漬と
フールドロスカラスが屋根で見張ってる
一円が足りず手紙が舞い戻る
あざやかにミモザが咲いて女性デー
やれやれとマスク外せる春が来た
数独が解けぬと妻は数時間
万博に見えない金が渦を巻く
乗り過ぎ歩いて戻る午前二時
仲良いねいいえ夫は杖がわり
政治家とメディア劣化を競い合う
バイトもせず孫が私大をやっと終え
大雑把な考えピンチには強い
奇数月ピンチピンチと妻が言う
年金生活夢を叶えて十五年
老いへの恋の予感の春風
満額に出番なくした労働歌
初音聴く浮き立つこころ歩幅伸び

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

大丈夫と言いつつ医者が目を逸らす
妻は時々僕のスマホをチェックする
和 夫 光 夫

心配かけた母の遺影に手を合わす
シンブルに言葉選んで伝えれば
敦 子 美津子

六甲川柳会 梶谷 和郎報

隆 一 哲 男 れい 香 朝 子 初 音 厚 江 正 彦 直 子 裕 康 耕 治 菊 江 照 代 雪 菜 宗 鉄 紀 華 新 録 楓 華 英 坊 修 平 ゆきみ 正 和 健 二 宏 造 純 シエ ヨシエ

和 夫 光 夫

悪知恵も背負つて帰るランドセル
行く末を案じてみてもしようがない
ローカル線遊びひとつの恋捨てて
宝くじ当たる予感の春が来る

隆浩
克美
利恵子
崇史
美恵子

人選びしつかりしよう日本国
丹波から一粒選りの黒大豆
幼なじみの雛と語つて小半日

正彦
哲男
美穂

川柳藤井寺(大阪)

鈴木いさお報

弘

豪快なソバのすずりが影ひそめ
和やかな句会に鮎の回り来る

勝弘

丸だつて横から見れば角がある
少子化に日本の未来がちと不安

和郎

選ぶなら来世もきつと君だろう
近すぎていつも絡まる糸二本

武彦

叱るにも言葉を選ぶ思いやり
心配性の妻が居るから大丈夫

千賀子

当たり前のそのありがたさ噛みしめる
さよならの背中追いかけたりしない

盛夫

人柄も身体も丸い人が好き
戦争の体験だけはしたくない

ひとみ

光る汗きつと結果はついてくる
政治家の汚れた腹を丸洗い

健二

あちこちと痛い所が増えてくる
セキユリティ大丈夫かなマイナナー

道子

頼むから嫁先逝くな願を掛け
心配をかき消すように笑つとく

恭子

打つやろかエラーせぬかと父兄席
気懸かりは余命と競う貯金残

光久

平和の鐘きつと誰かが鳴らすだらう
リハビリがきつと明日を連れて来る

狸月

公輔

憲央

岸和田川柳会(大阪)

石田ひろ子報

駒の歩も裏を返せば金に成り
年の功裏も表も見抜いてる

洋二

辻褄を合せて裏で舌を出す
帰らない裏にガーシー何がある

隆雄

裏口からはお金を積み入れます
露地裏に昭和の匂い落ちていた

和美

おとほけの一言緊張を救う
救いの手がれきの隙間どこまでも

陸子

涙声まじるマスクの卒業歌
補聴器で聞かなくてよい話聞く

敦己

目線下げ五歳の主張聞いてやる
また聞きが伝わるうちにねじ曲り

和宏

聴き上手あなたといると心地良い
宅配のハガキを配る大型車

恵子

一日の光を配る春の朝
気配りが過ぎて却つて疎まれる

あさ子

心配り苦勞重ねたららしい
平等に笑顔を配る春の花

英夫

目配せで君にハートの矢をうった
お味噌汁余り野菜でいいお味

義泰

弱つて足腰頭口は別
屋根裏のアンネの綴る反戦記

愛子

喜代志

喜代志

五十美

五十美

珠子

珠子

ダン吉

ダン吉

川柳藤井寺(大阪)

鈴木いさお報

大ジョッキ並べマスクを取り外す
わいわいがやがやテレ番組がつまらない
俺だつてタマには天になりますよ
わいわいに何のことかと立ち止まる

公園で子供が遊ぶ平和だな
スートバーの活躍みんな目を見張る
わいわいの真ん中にあるタルビッシュ
出産祝双児と聞いて倍にする

宝物見つけたように芋掘る子
予想外俺の子供が東大へ
オッチャンの花見メインは花でなし
わいわいがやがや楽しげな余生

安売りに女わいわい押しかける
飛び入りの芸で一気に盛り上がる
ミノシのわいわい騒ぎ出して秋
わいわいと笑えばすぐに春はくる

ライバルのラストスパイト目を見張る
飲み薬減つて不思議に飲む伸び
予想外あのオオタニがバントした
マスク美人マスク外せばオヨヨヨ

桜を愛でながら風流に一句
あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

老いた肌隠すマスクはもう取れぬ
人肌の温み屋台で生きている
寒い日は肌よせあつて暖をとる
皆スマホラツシュの車内肌寒く

比呂志
ちづる
勝弘
一歩
かずお
みつこ
ひろ子
俣子
勝久
まつお
扶美代
シマ子
亜成
久仁雄
瑠美子
ダン吉
喜代子
憲彦
正義
いさお

麻也
北朗
廣子
義雄

比呂志
ちづる
勝弘
一歩
かずお
みつこ
ひろ子
俣子
勝久
まつお
扶美代
シマ子
亜成
久仁雄
瑠美子
ダン吉
喜代子
憲彦
正義
いさお

比呂志
ちづる
勝弘
一歩
かずお
みつこ
ひろ子
俣子
勝久
まつお
扶美代
シマ子
亜成
久仁雄
瑠美子
ダン吉
喜代子
憲彦
正義
いさお

比呂志
ちづる
勝弘
一歩
かずお
みつこ
ひろ子
俣子
勝久
まつお
扶美代
シマ子
亜成
久仁雄
瑠美子
ダン吉
喜代子
憲彦
正義
いさお

比呂志
ちづる
勝弘
一歩
かずお
みつこ
ひろ子
俣子
勝久
まつお
扶美代
シマ子
亜成
久仁雄
瑠美子
ダン吉
喜代子
憲彦
正義
いさお

比呂志
ちづる
勝弘
一歩
かずお
みつこ
ひろ子
俣子
勝久
まつお
扶美代
シマ子
亜成
久仁雄
瑠美子
ダン吉
喜代子
憲彦
正義
いさお

染みだらけこれはひどいと鏡拭く
人肌の爛でも寒い一人酒

がさついて今更遅いコラーゲン
ひとしきり泣けば心は立ち上がる

ヤドカリは再建よりは別の貝
壊せばもう再建出来ぬ文化財

ボランティアに行きたいウクライナの廢墟
地球再建国境を越えて話合い

命のバトン私の臓器差し上げる
寒空にチューリップの芽空を刺す

戦争で壊し平和で建て直す
ロケットの再建手術に期待する

金泉に首まで太閤の気分
老いの粹どつぷり浸かり生きている

妻と居るだけで平和の24時
一日の大半スマホ漬けヒト科

負の遺産一〇〇兆と核のゴミ
三時間映画の中にある炎

甘い汁一喝されて目が覚めた
温暖化地球どつぷり茹で上がる

貧乏暇ありなかなかいもんだ
育兒せぬ男が決める少子化案

あとたため値上げの品が列をなす
広島が泣いているだれげん削除

歩み寄る気持ちがあれば皆平和
フィクションの世界ブーチンの黄色

対話より武器を集める岸田君
借り賃はパンダになんば野暮ですか

戦する子は産まないと女スト

春雄

安倍子

常男

朝子

洋二

美晴日

はな

直子

信子

欣之

昌芳

克己

志津子

和大

栄子

うつとりするような肌マネキンだとしても
再建の槌音響く朱里の城

豊中もくせい川柳会大阪初代 正彦報

タイガースアレの風吹くムードある
捏造が昨日も今日も駆け巡り

知恵使い値上げラッシュを吹きとばす
熱い風吹きまわつてるWBC

黄身二つですすかり不安吹き飛んだ
平凡な日日は動線変りなく

「ごめんね」と笑顔で言われ吹つ切れた
物価高ばかんとはせぬ妻の知恵

脱マスクコスメが映える花の下
愚痴聞いて聞かせて妻の長電話

余白を埋める旅です今日も歩きます
日だまりでわつと淋しくなるひとり

嫁ぐ姉に少年が吹くハモ二カ
横綱と太閤不在大相撲

一本道ばかんと風と戯れて
切り盛りを上手にこなす主婦の知恵

甲子園吹奏学部の盛り上がり
口あけて治療の準備待つ歯医者

筆おかめ老化を加速させぬため
病室へスマホで知らす花だより

突然に主婦を交代せよと言う
ミサイルを四百発も買うと言う

焼き芋もお茶もフーフーして笑う
気がつくとき昨日がいつも攻めてくる

新しい風がそよ吹く金婚日

公輔

福貴子

健三

勝久

晴子

多美子

真理子

英三

武彦

健二

北舟

きりり

すゞ代

玲子

敏昭

包丁の要らぬ食事の独り者
やることはやった私も芽吹く時

しゃべん玉吹いて幸せ色の虹
喜んでくれただけでもありがたい

小春日に猫もわたしも大欠伸
究極の無駄は戦争だと思おう

期限切れなんて言わしませぬ熟女
闇を切るように少女のツイッター

ビードロの海に沈めた嘘ひとつ
キッチンのはさが主婦の小宇宙

川柳ねやがわ(大阪) 籠島 恵子報

非正規の星屑らしき流れ星
もう阿保でいようと決めて義母介護

代役がビタリとはまり巡る運
四十万人の夢乗せ大海へ

泣く真似で許してくれる父が好き
午後五時に「夕焼け小焼け」のメロディ

コロナ風流れ人智の上にゆく
オフレコが流れ更迭する破目に

立春の川の流れを小半日
流水とクリオネ見たさオホツク

雑音に流れ立ち位置見失う
人間を流れて辿りつく浄土

雑踏の中の私は点である
圏外で息抜きしてるスマホ指

息抜きはそつと隠れて吸う煙草
義歯はずしはあちゃんになりほつと

最高の息抜きですよ日向ほこ

哲男

孝代

黒兔

正彦

いさお

武人

奏子

ひとみ

洋志

恵子報

和織

后子

亜成

武彦

弘子

パンケーキ香るコーヒーガスを抜く
息抜きの暇を取れぬ町工場
春色の靴と心の旅に出る

高志 壽峰 かこ 祥昭
椅子生活たまの正座に足しびれ
ご主人の気配感じる猫のひげ
虫の音が止んで待ち人来る気配
ビビビビとひと日の疲れ癒やす酒
修理して使つていまま我が亭主
元気でねお大事にねと封をする
僕の気配まったく無視の妻娘
添寝する痺れ我慢の腕枕
大でさえ主人どちらか弁える
しぶとさを買主人でアンカーのタスキ
ご近所に見知らぬ人を見る不安
痺れます櫓の上の音頭取り
のらりくらり判を押さない離婚状
不用意に妻に触れれば静電気
胸板にずしり響いた子の叫び
一升ビン空になるまで止めぬ酒
しぶとかった寒さも春の日に負ける
蚊の羽音しぶとく耐える座禅堂
期待され過ぎてサイコロ疲れてる
検診の度に小さくなる背丈
くもの巣がしぶとく今朝も玄関に
転勤の気配上司が呼んでいる
万引は気配で分かる古本屋
間違うと即座におこる改札機

敦子 俊雄 武彦 廣光 千代美 宏造 新録 義幸 敏一 和宏 盛隆 和夫 緑 富次 迪 野鶴 恭子 良種 みよし 宗鉄 野薫 美津子
お喋りが過ぎて日差しが遠くなり
青虫が蝶に変身畑を舞う
チ、チ、チ、チ、最終兵器まで二秒
変身は無理このまんなです私です
なりたない日差しのような婆さんに
マスク解禁組はシャネルでも買った
武器持たず半徑一メートルのバリア
似た人に駆け出しそうない陽射し
ひと晩で景色を隠す雪の精
無我夢中ストレス発散土いじり
日焼け止め塗って寝転ぶ草原に
サボテンのように全身武器にする
亭主から専業主夫になりました
スマイルの武器も夜には脱いでいる
惚け爺も大統領も土になる
俺の武器皮肉がたまに誤爆する
自宅には包丁という武器がある
爛漫を育てた土に礼を言う
最強の武器は対抗しないこと
電気代桁が違つと二度見する
美男子に変身したい老いの夢
散歩には杖一本が武器になる
酒飲むとスーパーマンからくでなし

風露 由紀子 けいこ 幸子 紫陽 順子 美ッ千 久子 稀楽良 コスモス 芳光 紀の治 雄大 石花菜 余光 小鹿 富隆 清明 重忠 規雄 完司

アホやあなけなしのカネ貸すなんて
酔った人はたから見ればまるでアホ
あほみたい苦勞かけた子嫁のもの
来ぬ人を阿保になつて待つている
世の中は阿保になつたら生き易い
アホ言うておんなは阿保の色になる
開運を祈る庶民の列無尽
代役がビタリとはまり巡る運
懐かしい演歌が若さ呼び寄せる
小指だけからませ終える初デート
春はいい生きるフアイトが湧いてくる
据え膳の旅が何より妻の贅
お日さまの香洗濯物にたたみ込み
仏にもわたしの好きな豆ごはん
マスク解禁人の流れも変わりだす

高志 壽峰 かこ 祥昭 楓楽 玲子 信子 常男 鈍甲 亜成 一文 高鷲 朝子 いさお 千賀 あかり 恵子
大山滝句座(鳥取) 新家 完司報
「ヘンシオン」で二十歳の頃に戻りたい
太陽の光味方にカード切る

茶子報
世の中へ命の分子二人産む
鍛えるぞ三日坊主が始まった
我が歩み亀にも劣りいつまでも
一歩ずつ歩めばいつか天に着く

弘子 草文 大鯰 ゆたか

西宮北口川柳会(兵庫) 緒方美津子報

黙食二人どうやら雪になる気配
我が人生サイコロ任せ運まかせ
サイコロの六の目に棲む天邪鬼
大落暉水平線が燃えだした
過去は過去今をしぶとく生きる老い
思い切り朝寝坊して生き返る
公園の隅にいこいの基地を持つ
納豆に学んでいます生きる道

洋次郎 邦男 真桜子 ばっは 恵美子 ゆきみ 紀乃 千賀子

茶子報
川柳塔鹿野みか月(鳥取)(先月号 福西)

我が家でも牛歩戦術やつてます
極楽か地獄か今日も歩が進
英雄になれない鬼を飼っている
再雇用鍛えた部下に叱られる
いい男狙い鍛えたこの肢体
草原の英雄墓は作らない
元旦に膨らむ餅は夢を見る
鍛えた喉コロナ下自粛出番なし
英雄が多過ぎ地球まともらぬ
足腰を鍛えてくれた地引き網
外車乗り英雄気取り人知らず
孫世代餅よりピザが好きと言う
天秤で英雄はかる閻魔さま
我が家から姿を消した餅つき器
草餅に亡き母の匂いがよみがえる
へそくりを隠しても無駄鍛えた眼

川柳塔打吹(鳥取)(3月分) 齊尾くにご報

親子孫大きな家で助け合う
心広い大きな人に孫に言う
大空に大きく描く未来像
大きな嘘と知りつつ場所を盛り上げる
平和って母の大きなにぎりめし
日本海飲み込む程の法螺は吹く
耳元で囁くだけで通じない
振り逃げで一塁セーフ儲けもの
雷光に追われ駆け込む道の駅
逃げる獲物追って樹海へ迷い込む
逃げ切って欲しい最後の五分間

正昭 茶子 すみれ 文道 孔美子 小鹿 楓花 白周 静恵 重忠 弘六 瑞子 一平 宏章 孝子 恒

飼いたも逃げる切っ掛け探してる
6Bで内なるパワー放射する
逃げられた魚は三倍になる
長談義結びの言葉残らない
御喋りの注意を受けて口結ぶ
結んで開いて空っぽの掌
結んでも三分の一別れてる

三津子 紀子 石花菜 芳江 滋 大鯰 義人
三年ぶり生き弾ませる孫二人
息切らし勝利の瞬間とび上がり
息止まる日晴れであるよう祈ります
息止めて腹引つ込めて試着室
息たえだえに 愛なんて恋なんて
息止まる急いで千の風になる
人だから淋しさからは逃げれない
清 貴恵 紀美恵 芳光 照彦 くにこ

新 同 人 紹 介

〒610-00315

京田辺市同志社山手1-17-5

北野 クニオ

— 蘭幸・完司推薦

〒569-6121

高槻市真上町5-47-20

鳥居 宏

— 蘭幸・完司・楓楽・和夫推薦

〒883-0067

日向市亀崎東4-7

黒木 栄子

— 蘭幸・完司推薦

〒920-00269

石川県河北郡内灘町白帆台1-293

堀本 のりひろ

— 蘭幸・完司推薦

〒614-8363

八幡市男山吉井26-14

武田 悦寛

— 蘭幸・完司推薦

〒780-00967

高知市福井東町5-8

三谷 松太郎

— 蘭幸・完司推薦

柳界展望

▽令和4年度
各地句会年度賞△
○川柳塔みちのく
大賞 高瀬 霜石

★川柳信濃川 第十九回

新春川柳誌上大会。参加者661名。同人成績。

天位

長谷川崇明

優秀といえぬが手足全自動

天位

前田 楓花

戦争はやめて夕焼け見に行こう

★第131回中部地区誌上川柳大会。参加者553名。

同人・誌友成績。

優秀句

平井美智子

ここまでが薬ここから毒になる

天位

平井美智子

ほろほろと父から父が抜けてゆく

天位

みぎわはな

バランスを壊して深いピカソの絵

大会順位1位平井美智子

待ち時間なんも苦でねじゃ川柳人

○弘前川柳社

林橋賞

丹下 凱夫

人前で死ぬのはどうも照れ臭い

▽動向△

赤松ますみ代表の「川柳文学コロキウム」(平成15年7月創刊)が、3月発行の100号をもって終刊した。

▽訂正とお詫び△

四月号P3目次1行目、高瀬漱石→高瀬霜石。P49上段後ろから2行目、錯角として片付けておく誤解→錯覚として片付けておく誤解。P68下段後ろから4句目、千ポンド持つのも辛いボウリング

↓十ポンド持つのも辛いボウリング。P70上段後ろから3句目、今井万紗子→今井万紗子。P79下段5行目、ありがとうござました↓ありがとうございまして。P92下段佳句5句目、吉道航太郎↓吉道航太郎。P93上段「学ぶ」6句目、富永恭子↓富永恭子。中段18句目、永田紀恵↓永田紀恵。P94上段14句目、戦争は人をカケラにしてしまいう戦争は人をカケラにしてしまいう。

▽新誌友紹介△

豊中市 石橋 優明 紹介者 栗原 道夫

大坂府 浦上 恵子 紹介者 岩佐ダン吉

石田ひろ子 紹介者 寺西 信一

尼崎市 板谷 賢二 紹介者 平井美智子

▽同人の住所変更△

大阪市住吉区我孫子西1-2-15 特別養護老人ホームウエルネス我孫子 宮崎シマ子

柏原市大正2-3-12 源藤和美方 津村志華子 (月) AM10

「各地句会だより」募集

二月号から14年ぶりに「各地句会だより」を再開しています。

川柳塔社グループの川柳会は、ぜひご参加ください。原稿は川柳塔社事務所まで。

内容 会の特色・様子・行事・今後の予定

など自由

字数 19字×50行以内(本文のみ)

写真 会の様子や集合写真など1枚

締切 随時

なお、掲載月・文章の添削については編集部に一任願います。

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 わかやま 吟社	14日(日) 14時10分締切 兼 題＝伝統・とろとろ・ゼッケン 課題吟＝羽	会場 和歌山県JAビル 1 階 兼 題 〒642-0024 海南市阪井652-14 小谷小雪 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 楽原道夫
南大阪 川柳会	15日(月) 14時40分締切 余力・吼える・うろうろ・雑詠	会場 大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊中 もくせい 川柳会	15日(月) 14時締切 番号・歩む・かすか・自由吟	会場 豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳 ねやがわ	16日(火) 13時締切 掻きまわす・軽い・疑う 偶然・自由吟	会場 寝屋川市産業振興センター 〒573-1104 枚方市楠葉丘1-9-13 藤村亜成
川柳 さんだ	16日(火) 13時30分締切 確実・遠い・ヒット・預ける 自由吟	会場 キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1322 三田市すずかけ台3-4-1 E棟4-1 村田 博
岸和田 川柳会	20日(土) 14時締切 鍵・和む・詳しい・ユニーク	会場 岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄岸和田駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-18-27 雪本珠子
川柳 たちばな	20日(土) 13時45分締切 席題・道・流れる・自由吟	会場 東園田町総合会館 2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳塔 みちのく	20日(土) 17時締切 美・まだまだ・違反	会場 - 未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川柳 藤井寺	21日(日) 14時締切 仮面・さわやか	会場 パープルホール 4F 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
和歌山 三幸柳会	27日(土) 13時15分締切 約束・母・鳥	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
川柳塔 すみよし	28日(日) 14時締切 葉・切る・こってり	会場 住吉区民ホール集会室4 (図書館棟 2F) 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
はびきの 市川柳会	28日(日) 14時締切 紫・買う・アマチュア・席題	会場 陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん 吟社	28日(日) 13時から 自由吟・食べる・代理 お茶・席題	会場 県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所（06-6779-3490）へご連絡ください。

★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

5 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
城 北 川 柳 会	6 日(土) 開場13時 締切14時 借りる・うっかり・極楽・自由吟	会場 旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川 柳 とんだばやし 富 柳 会	6 日(土) 14時締切 救う・わくわく・自由吟・席題	会場 富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ 200 m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
倉 吉 川 柳 会	6 日(土) 14時締切 住む・果物・鎌・席題	会場 倉吉市明倫公民館 投句先 〒682-0722 東伯郡湯梨浜町はわい長瀬1028-1 天野道春
川 柳 塔 ま つ え 社 吟	6 日(土) 13時40分締切 大・満ちる・バイク・樹	会場 雑貨公民館 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充
おりひめ☆ ひこぼし 川 柳 会	7 日(日)消印有効 ピアノ・淡・こんなところに	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 『おりひめ☆ひこぼし川柳会』 藤田武人
西宮北口 川 柳 会	8 日(月) 13時30分締切 席題・スパイス・笑う・低い 自由吟	会場 西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにしのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
ほ たる 川 柳 同 好 会	9 日(火) 13時30分締切 ペン、鉛筆・押す・きびきび	会場 豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曽根2-4-1 水野黒兎
川 柳 塔 さ か い	9 日(火) 14 時締切 結果・残る 折句：あ・や・め	会場 東洋ビルディング(堺東駅北西改札口から2分) 欠席投句先 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 齋藤さくら
川 柳 あまがさき	9 日(火) 14時締切 打つ・ルール(連記) どうする・自由銀	会場 東園田町総合会館 2F 阪急園田駅北口徒歩 2 分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
あかつき 川 柳 会	12日(金) 腕・階段・ぞくぞく・時事吟	会場 大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F203会議室) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区 3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
川 柳 塔 な ら	12日(金) 14時締切 緑・長い・任せる	会場 奈良市中部公民館 近鉄奈良駅奈良駅③番出口徒歩 5 分 奈良県磯城郡川西町結崎421-64 長谷川崇明
六 甲 川 柳 会	13日(土) 14時締切 席題・奥・ぎゅっ・浮く 自由吟	会場 灘区民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町 2-12-5 敏森廣光
川 柳 塔 打 吹	13日(土) 13時30分締切 浜・叫ぶ・さらさら・席題	会場 倉吉市上灘町 9 上灘コミュニティセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局

編集後記

★私の趣味の劇場通いは、父（平成24年85歳で死去）の影響による。

★私と父の大きく違うところは、父は好きな芸能人に気軽に手紙を出したり楽屋見舞いに行っていたことだ。小学生の頃、TVで西条凡児司会の「素人名人会」を見ていたところ、審査員の中沢寿士（ジャズオーケストラ指揮者）が、「和歌山の乗原さんにお見舞いを頂きありがとうございます」と言ったことには驚いた。また、中村勘三郎の弟子の中村勘五郎には、金丸座や渋谷シアターコクーンなどの芝居のチケットを頼んでいた。

★シャイな私が一度だけ一人で楽屋を訪ねたことがある。高校一年の昭和47年8月28日。島之内寄席で、三代目桂春団治のサインを貰った。

★20年程前からか、友人と一緒に松竹新喜劇の川奈美弥生さんの楽屋を見舞うようになったが、コロナのせいで楽屋見舞いは、まだ出来そうにない様子。残念。（道夫）

3年前に巢籠もりが始まった時、出好きのくせに根がぐうたらな私は、腰の手術直後でもあり炬燵でちんまりと納まっていた。根っからのアウトドア派の夫が、見かねて散歩に誘ってくれた。

野鳥や野花、木の名前など教えてくれるので、神妙に聞かすが、すぐ忘れる。おとうさんゴメン！というわけで名前はわからないが、渡り鳥が近くの池や森に何種類か来ること初めて気付いた。驚いたことにあまり人間を怖がらない。

池で足を止めると水鳥が近寄ってくる。「何もあげないよ」とからかい気味に声を掛けると「アホらし」と離れていく。

ひとこと

かわやなぎ

数年前に上京した折に、川柳上達祈願の気持もあり、川柳発祥の地・東京蔵前の龍宝寺を訪問した。龍宝寺の目印の柳の古木の根本には、柄井川柳の辞世の句を刻んだ墓碑があった。「木枯らしや跡で芽をふけ川柳」

中西進氏の「辞世のことは」（中公新書）には、多くの歴史上の

人物の辞世の句が紹介されているが、私は柄井川柳の句が明るい未来志向の辞世の句で断然好きである。川柳は後で見事に芽をふき再生し、令和の現在私も楽しませて貰っている。

川柳を楽しめば、「かわやなぎ」の生命力にあやかれるのではないかとと思うこの頃である。

（平賀 国和）

が近寄ってくる。「何もあげないよ」とからかい気味に声を掛けると「アホらし」と離れていく。

森の鶯の鳴き方に方言があることにも気付いた。近所に来る子は「ポ

テチンオイチョ」別の場所の子は「オーケチンケチン」中々正調には出会わない。川柳作りそ

うな鳥や、とは夫の弁。散歩で鶯に弟子入りしました。

（眞澄）

◆5月本社句会でお話予定のストレッチ解説の後

意識して行う。

◆「肩痛の防止」①両肘を開閉して肩甲骨を水平に伸縮させる。深呼吸をしながら、肩の僧帽筋が左右に伸びるのを意識して行う。

②両肘を耳横に万歳した状態で、左右の肩を上下させる。肩の僧帽筋が上下に伸びるのを意識して行う。

◆「腰痛の防止」①両足を軽く開いてまっすぐ立つて肩の力を抜き②左右に両手をポイと投げ出すように腰をねじり出す。

◆「腰痛の防止」③ヘソの上のベルトの辺りで、背骨をねじるように意識をして行います。

◆筋肉は三日間動かさないと衰えるとも言います。是非、気が付いた時にちょこっとストレッチをしてください。継続は力なりですね。

（憲彦）

川柳塔(同人)・水煙抄(誌友)投句用紙

種目「

」発表(7月号)

地名

市都
道府
姓雅号

きりとりせん

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

同人・誌友 マルで囲んでください。

投句先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から14時までにお問い合わせいたします。

檸檬抄投句用紙

「サイズ」(5月15日締切)

7月号発表

永見 心咲 選 — 共選 — 江島谷勝弘 選

B A

--	--

B A

--	--

地名

市都
県道府
姓雅号

地名

市都
県道府
姓雅号

切らないで下さい

きりとリせん

◎楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

左右に同じ句を書いて下さい

個人用

暑中見舞広告 原稿台紙

料金は払い込み用紙をご利用下さい。

1／9頁 1／6頁 1／3頁 2／3頁 1／2頁 1頁

(ご希望の大きさを○で囲んでください。)

原稿を貼布される方は、
この位置に貼り付けて下さい

5月15日締切

住 所	姓・雅号
〒	

川柳など掲載希望事項

--

送付先

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号

花野ビル201

川柳塔社

川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

氏名	住所	電話	紹介者
	〒 —	—	—
			<div> <div> ○ </div> <div> ○ </div> </div> <div> 年 年 月 月 から から 一年 半年 9 5 8 0 0 0 0 円 円 </div>

該当の方に○をつけて下さい

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201
川柳塔社(電話06-6779-3490)

振替009804298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

作品募集

7月号発表 (5月15日締切)

川柳塔 (8句) 小島蘭 幸選
水煙抄 (8句) 木本朱 夏選
愛染帖 (2句) 新家完 司選
檸檬抄 (2句) 江島勝 弘共選
インスピレーションナビ (2句) 永見心 咲選
一路集 (2句) 大西泰 世選
初歩教室「乗り物」(3句) 平井美智子 担当
初歩教室「積む」

8月号
檸檬抄「順」
一路集「コンビニ」「脱ぐ」
初歩教室「積む」

本社5月句会

とき 5月8日(月) 13時開場・13時40分締切
ところ アウィーナ大阪 3階 葛城の間
天王寺区石ケ辻町19-12 電06・6772・1441

おはなし「肩と腰のストレッチ」
兼題「通す」
席題「バランス」
「景色」
「自由吟」

内藤憲彦氏
山野壽之氏
廣田和織氏
原田すみ子氏
内田志津子氏
新家司選
小島蘭幸選

会費 1000円
投句料 1000円(切手不可)

(各題2句以内)

本社6月句会
7日(水) 午後1時から
兼題「あふれる」「ドラマ」「もろい」
「焼く」「自由吟」

本社句会欠席投句のお薦め

- * 幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚に一句ずつを書き、裏面に題とお名前を記入のこと。
- * 投句料1000円(切手不可)。
- * 句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

〒543-0052
大阪府天王寺区大道一丁目一四一七
花野ビル201号室
印刷所 美研アート
編集人 小島和幸
発行人 榎原道夫
電話 (06) 6772-1441
振替 〇〇九八〇四一九八四七九番

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10
TEL (06) 4800-3018
FAX (06) 4800-3028
Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp
ホームページ https://www.bikenart.com

コーキコーポレーションは 川柳塔を応援しています。

句箋

川柳塔本社句会と同じ句箋

サイズ 4.5cm × 25cm

厚み 90kg

一箱 7000 枚入り 代金 5000 円 (送料込)

申込先 川柳塔社 電話・FAX 06-6779-3490

※ 到着後、代金を下記の郵便振替口座へお振り込み下さい。

加入者名 川柳塔社

口座番号 00980-4-2948479

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科
緩和ケア (ホスピス)
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>